



名古屋・本山駅 電 762-2434 代表

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

題字は熱田神宮 篠田富司筆

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[60年1月]

15日(祝) 名古屋清韻会能 (来場歓迎)
27日(日) 青陽会定期能 (有料)

[2月]

3日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料)
10日(日) 名古屋観世会定式能 (有料)
16日(日) 観世九草会定期能 (有料)
17日(日) 麦の会公演 (有料)
24日(日) 春 波 会 (来場歓迎)

[3月]

3日(日) 洗心会華心会春の大会 (来場歓迎)
9日(土) 萌 鷲 会 大 会 (来場歓迎)
10日(日) 熱田神宮能楽殿創立30周年記念能 (有料)
17日(日) 梅 鶯 会 別 会 能 (有料)
20日(水) 四 大 学 交 流 会 (来場歓迎)
23日(土) 梅若六郎師七回忌追善能 (有料)
24日(日) 壺 泉 会 大 会 (来場歓迎)
31日(日) 大 蔵 狂 言 会 (来場歓迎)

[4月]

6日(土) 青 陽 会 定 期 能 (有料)
13日(土) 野村四郎名古屋公演 (有料)
14日(日) 観 世 会 定 式 能 (有料)
21日(日) 邦 謡 会 春 の 大 会 (来場歓迎)
27日(土) 笙 月 会 創 立 55 周 年 記 念 大 会 (来場歓迎)
28日(日) 久 田 観 正 会 能 (有料)
29日(祝) 幸 友 会 春 の 会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

中部地方の能楽界の殿堂として熱田神宮能楽殿は、創立三十周年を迎え、既報のように、来る三月十日(日)創立三十周年記念能が催される。

- 熱田神宮能楽殿は、戦災で布池能舞台を焼失した中部能楽界にとつて苦節十年、戦後の動乱期を経て、熱田神宮はじめ地元各界の熱意が結実して昭和三十年竣工、同年十一月舞台祝賀能が行われ、爾来三十年、能楽師の道場としてまた愛好者の観能の殿堂として親しまれてきた。
- このたびの三十周年記念能は、熱田神宮能楽殿運営委員会(長谷川素齋)神歌(シテ殿島修二)
- 〔一部〕(午前九時三十分始) 〔二部〕(午後二時始) 〔観〕素齋「神歌」(シテ殿島修二)
- 〔一部〕(午前九時三十分始) 〔二部〕(午後二時始) 〔観〕素齋「神歌」(シテ殿島修二)

熱田神宮能楽殿30周年

3月10日「記念能」

「翁」など能6番上演

入場料一部二部それぞれ三千元。なお、本年は、能楽殿創立三十周年を記念して、歳末の十二月二十一日に「乱能」が企画されている。記念能予定番組は次のとおり。

熱田神宮能楽殿三十周年記念能(予定番組)

昭和六十年三月十日(日) 熱田神宮能楽殿

謹賀新年
熱田神宮能楽殿
謹賀新年
熱田神宮能楽殿
謹賀新年
熱田神宮能楽殿

新 年 賀 詞

熱田神宮能楽殿運営委員会
委員長 熱田神宮権宮司 長谷川晴男
委員 熱田神宮 権宮司 篠田富司
熱田神宮 権宮司 篠田富司
熱田神宮 権宮司 篠田富司

- 同 月見ヶ丘開発 株式会社社長 高橋半次郎
- 同 シテ方 観世流 柴田初太郎
- 同 シテ方 観世流 殿島修二
- 同 シテ方 観世流 鬼頭八郎
- 同 狂言方 和泉流 井上松次郎
- 同 ワキ方 高安流 西村欽也
- 同 シテ方 宝生流 内藤泰二
- 同 シテ方 観世流 梅田邦久
- 同 小鼓方 幸清流 福井啓次郎
- 同 笛方 藤田流 寛三男
- 同 大鼓方 大倉流 寛一

観世元正
東京都渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四

中日文化センター特別教室
観世元昭
大阪市東区上町二番地

観世元雪
観世元雅
観世元之
観世元栄
観世元夫
千107 東京都港区南青山四―二―二九

観世元雪
観世元雅
観世元之
観世元栄
観世元夫

幽 詠 会
片山博太郎

幽 花 会
片山慶次郎

鳳 鳴 会
武田太加志

武 田 志 房

大 槻 清 韻 会
大 槻 秀 夫

大 槻 文 藏

梅 若 盛 義

名古屋淡交会

山本観衛会
山本勝一

藤 井 久 雄
完 楽 徳 三 雄
治 人 三 雄

武田詠楽会
武田小兵衛
武田欣司
武田邦弘

名古屋観世九草会
観世喜之

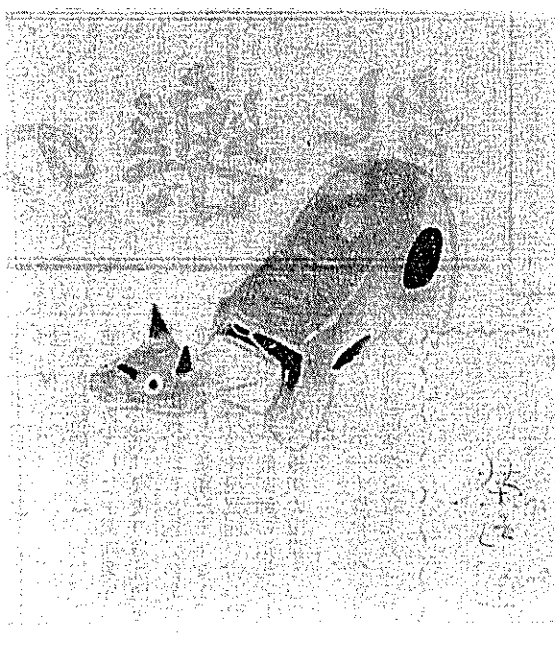
有賀滋子
加藤保彦
青木武弘
高木美智子
吉田妙子
高橋正彦
宮本正彦

正月雅日記

うしどし

えと文 二井栄逸

いつの間にか丑どしがめぐって来た。年の暮になると、なすべきことをなす終えて、くる年のえと



た。牛は、泉の放牧場へいけばスケッチが出来る。
牛の郷土玩具には、会津の民芸品である赤べこを始め、京都の木彫り、同じく伏見のうしどし、天神。鳥取の因伯牛、新潟の木牛、岩手の金べこ、同じく花巻の使牛、岡山の吉備牛、千葉の下巻べこ等となかなか多く、どの玩具にもその土地の風習がたどって出来ているものである。なかでも会津の赤べこは、一般によく知られているのでよくかく。
平安時代の初期、大同二年に、会津柳津に徳一大師が虚空蔵堂を建立するとき、赤牛が二頭現れて運搬等の使役を黙々と働いたが、堂が完成すると同時に、石と化したという伝説がある。
今から約三百年前、時の会津鶴ヶ城主、蒲生氏郷は、領内の産業を振興させるため、京都から技術者を多数高給で招いたことがあった。
彼等は、郷土玩具を作った。
は大きい。昭和五十一年東京芸大音楽部教授、五十九年定年退職、昭和三十八年度芸術選奨文部大臣賞受賞、五十八年紫綬褒章受章。
一噌幸政氏は、昭和四年生れ、東京都出身。東京音楽学校卒。幼

昭和59年度芸術祭

片山博太郎氏 優秀賞 桜間金太郎氏 豊嶋訓三氏

昭和五十九年度芸術祭は、能楽部門では、片山博太郎、桜間金太郎、豊嶋訓三の三氏がそれぞれ優秀賞の受賞を決定、文部大臣に推薦された。
片山博太郎氏「片山博太郎第四回東京公演における能「三輪」白

式神楽」の演技に対し「桜間金太郎氏」都民劇場能における能「自然居士」の成果に対し「豊嶋訓三氏」第十回豊嶋能の会における能「乱」の演技に対し
観世寿夫記念法大能楽賞
観世寿夫記念法大能楽賞
横道萬里雄氏
一噌幸政氏

能「隅田川」 狂言「蝸牛」

2月23、24日 青少年芸術劇場
「名古屋青少年のための芸術劇場」として、二月二十三日(土)二十四日(日)名古屋市芸術創造センターで、能「隅田川」狂言「蝸牛」が上演される。主催能楽協会名古屋支部、名古屋市文化振興事業団、名古屋市教育委員会。番組は二月二十三日(午後六時三十分開演) 紫蝶子「水波之伝」(鹿取希世、福井啓次郎、寛弘一、鬼頭喜太郎)
狂言「蝸牛」(佐藤友彦、井上松次郎、佐藤隆)
能「隅田川」(梅田邦久、子方梅田教史、ワキ西村鉄也、ワキツレ飯富雅介、地謡・武田邦弘はか)を上演。A席券四千八百円B席券三千三百円。

能「山姥」上演

大阪能楽観賞会新春公演
大阪能楽観賞会の新春公演(第二三四回)は、一月二十九日、大阪能楽会館で能「山姥」(シテ観世栄夫、ツレ松浦信一郎、ワキ室生閑)狂言「牛馬」(浅山千之丞はか)を上演。A席券四千八百円B席券三千三百円。



邦謡会

梅田邦久

須部一政

清沢美和

今沢美朗

本藤勝朗

安藤勝朗

井上嘉久

井上嘉久

壺泉会

泉嘉夫

名古屋橋岡会

井戸良造

井戸和男

井戸和男

大西智久

財団法人 鎌倉能舞台

中森晶三

中森貫太

毎日文化センター
謡曲教室
風韻会
殿島修二

一謡会
河村鉦二

叶石会
河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

河村総一郎

春満会 梅若善高
豊中市新千里南町三丁目18番12
電話(06)831-7854

下田雄三
大阪府東区高麗橋五三

雄譲会中部地区連合会

名古屋和石会

一宮花石会

岐原雄石会

下呂雄石会

萩原雄石会

高文之屋社

倭文之屋社

山本眞賀

豊中市本町六丁目一〇一六

竹翠会 若松宏守

(0662)西宮市平松町四一九
電話(0798)231060

松音会

泉泰孝

東京都杉並区宮前四一九一四
電話(03)333-8280

初陽会

武田宗和

水雲会

水藤元三

芳韻会 稻生芳雄

半田市船入町三十一
電話(0569)81-15

猶恵会 熊沢恵美子

名古屋市中区平野三丁目31番
電話(052)440404

豊嶋三春

豊嶋三春

演能案内

羽衣 西村 欽也

福井啓次郎 梅田六郎兵衛

賀正

雲会

豊嶋三春

演能案内

名古屋清韻会能

昭和六十年一月十五日(祭)十時始

神歌 日比大吉郎

竹生島 日比大吉郎

松風 鈴木明

雲林 坪内重

桜花 川月クセ

班小 女クセ

五之段 大橋ひな子

高松東網田 村キリ

俊寛 高橋香代子

山下 福間 克彦

狸々 長島みつ子

砧 久枝 寛一

杜若 小川記可子

巻絹 殿島満里子

野宮 桑原 信夫

推薦された。片山博太郎氏「片山博太郎第四回東京公演における能」三輪「白」

梅田敦史。ワキ西村欽也、ワキフレ飯富雅介、地謡・武田邦弘ほか)を上演。A席券四千八百円

羽衣

和合之舞

遊行柳 長谷川 実

熊野 渡辺 節子

弱法師 高田みね子

融 池田 忠三

藤 戸 佐藤アチ子

祝言 島 泉

祝言 島 泉

青陽会定期能

昭和六十年一月二十七日(日) 午前十一時始

熱田 神宮 能楽殿

第二十九期 第一回

東 北 高木美智子

能 組 高木美智子

弱法師 西村 欽也

胡蝶 服部 紗枝

蝶 服部 紗枝

知 須部 甫

巻 高橋 暎一

枕 加賀 敏彦



加賀 敏彦

松和会 中村 和男

重陽会 菊池 重郷

緑名会 田中 武

幸福会 近藤 幸江

翠福会 生駒 里翠

清風会 今村 嘉勇

宝生 英雄

宝生 英照

名古屋巽会

佐野 正治

佐野 由於

内藤 泰二

寶生流 嘉宝会

倉本 雅

吉田 俊彦

竹腰 勝一

司宝会

緑宝会

金剛 永謹

金剛 巖

廣田 後援会

廣田 陸一

廣田 幸稔

菊扇会 後援会

廣田 泰三

金剛流華月会

今井 清隆

金剛流 周星会

吉川 周子

金 春 信高

金 春 安明

金 春 欣三

春 敲会

金 春 晃実

廣 瀬 瑞弘

〒248 鎌倉市長谷三十一番五十三 電話(0467)55557

京都市左京区永観堂西町二〇 電話(075)7710767

名古屋市名東区平和ケ丘3176 電話(052)7611257

(3面より青陽会番組つき)

百 万
 武田 大和
 近藤 幸江
 杉江 元
 河村 隆一郎
 福井 啓次郎
 池田 恵司
 西田 恵司

素 袍 落
 野村 又三郎
 井上 礼之助
 佐藤 友彦

海 士
 久田 修弥代
 武田 邦弘
 飯富 雅介
 河村 大
 柳原 富司忠
 藤田 六郎兵衛

附 祝 言
 飯富 雅介
 河村 大
 柳原 富司忠
 藤田 六郎兵衛

附 祝 言
 飯富 雅介
 河村 大
 柳原 富司忠
 藤田 六郎兵衛

名古屋宝生会定式能

二月三日(日)午後一時始
 熱田 神宮 能楽 殿

右 近
 飯富 雅介
 高安 勝久
 後藤 孝一郎
 藤田 六郎兵衛

田 村
 飯富 雅介
 井上 礼之助
 佐藤 友彦

二 千 石
 井上 松次郎
 佐藤 友彦

附 祝 言
 井上 松次郎
 佐藤 友彦

名 古 屋 観 世 会 定 式 能 (初 回)
 二月十日(日)午前十一時始
 熱田 神宮 能楽 殿

名古屋観世会定式能(初回)

東 北
 飯富 雅介
 高安 勝久
 後藤 孝一郎
 藤田 六郎兵衛

東 北
 飯富 雅介
 高安 勝久
 後藤 孝一郎
 藤田 六郎兵衛

東 北
 飯富 雅介
 高安 勝久
 後藤 孝一郎
 藤田 六郎兵衛

小 鍛 冶
 飯富 雅介
 高安 勝久
 後藤 孝一郎
 藤田 六郎兵衛

附 祝 言
 飯富 雅介
 高安 勝久
 後藤 孝一郎
 藤田 六郎兵衛



本 田 光 洋
 東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
 電話(三三八八)二六四一番

名 古 屋 金 春 会
 林 鉄 修 彦
 近 藤 道 三

八 声 会
 金 春 流 中 村 富 次
 伊勢市宮町一四一七
 電話(五五八)二四五六番

中 部 金 春 会
 前 田 茂 穂
 米 本 平 一

喜 多 実
 東京都練馬区中村南一ノ二九ノ一

大 阪 喜 多 会
 和 島 富 太 郎

二 井 栄 逸

長 田 駿 後 援 会
 〒514-22 津市高野尾町三三五一四六
 電話(五五八)〇六九七番

喜 多 流 山 本 才
 大和郡山形町一四一九
 奈良高野矢田宿舎二六
 電話(五五八)一五九〇番

麦 の 会
 長 田 邦 久
 梅 田 徹 二

高 安 会
 西 村 欽 也

高 安 勝 久

豊 嶋 十 郎
 〒二七一 松戸市下矢切五五
 電話(〇四七三)一九八二

宝 生 生 弥 一
 東京都練馬区小竹町一の五〇
 電話(三九五五)四七九五番

福 王 茂 十 郎
 〒662 西宮市名次町六番十二号
 電話(〇七九八)〇七二二

森 好 会
 〒151 東京都渋谷区代々木四一三八一
 電話(三三三三)七〇八二

江 崎 正 左 衛 門
 電話 三四一〇七二五

江 崎 金 治 郎
 〒670 姫路市飯田二五〇ノ二
 電話 三五九七二一

高 安 流 岡 同 門 会
 岡 次 郎 右 衛 門
 清 水 利 宣
 高 坂 康 弘
 森 晴 蔵
 北 野 三 郎
 中 川 湖 舟
 伊 藤 久 蔵
 塩 田 耕 三
 村 山 利 昭
 清 水 利 昭

谷 田 宗 二 朗
 〒603 京都市北区衣笠街道31-7
 電話(五五八)八五五(三三)五二

九 州 高 安 流 同 人 会
 飯 富 良 人
 飯 富 徹
 大 山 要 二 郎
 山 崎 俊 輔
 横 田 富 生

龍 吟 会
 藤 田 六 郎 兵 衛

長 生 会
 名 古 屋 市 西 区 福 下 二 丁 目 一 〇 番 九 号
 電 話 (〇 五 二) 五 七 一 一 五 七 六 三

鬼 頭 八 郎 郎

名 古 屋 観 世 九 皇 会 定 期 能 (初 回)

当日熱田へ行っていただき、必ずや
 五九年の名古屋の第一に挙げたで
 成寺は新風を吹き込む。
 王宮は時又三郎、史山千五郎



長 生 会
 名 古 屋 市 西 区 福 下 二 丁 目 一 〇 番 九 号
 電 話 (〇 五 二) 五 七 一 一 五 七 六 三

名古屋観世九皇会定期能(初回)

二月十六日(土) 午後一時始
熱田 神宮 能楽 殿

高橋 藤一
飯富 雅介 河村 隆一郎 森本 重一
井上 松次郎 福井 啓次郎

狂言 文山 賊 井上 礼之助 佐藤 友彦
仕舞 西行 松 高木 美智子
笹ノ段 五木 田武計
野ノ段 小島 芳雄
守 佐々木 勝輝

親世 喜之 吉田 定男 鬼頭 喜太郎
衣 西村 欽也 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
彩色ノ伝

附 祝言 主催 名古屋観世九皇会
名古屋市南区元垣町一丁目一七(加藤保彦方)
TEL052(六二一)三六五九

春夏秋冬

五九年の回顧・充
実と変化交代

野村 広二

最初に私事を少々。五八年の秋は観能のほか、講演・放送(名古屋能楽史・FM愛知)・講座(能楽概論)などで忙しかったが、楽しさも倍加し、喜びも無上であった。五九年は家事都合から三、四年の大きな能・狂言の会を見送すことになり、私の予見と先輩M氏から聴かせていただいた感想を参考に演能の一部を書き綴る始末となった。

五九年の名古屋は例年どおり多彩に過ぎた。充実と変化交代が縦横に繰り交わって展開、もちろん東西に呼応する事も多い一年であった。それがはげしい充実とゆるい交代、ゆるい充実とはげしい変化交代。教番で大きく名を挙げ、また一番で見所を贈目させる。五八年にみた能・狂言が五九年も五

後見 戸田 博和 地蔵 西村 正代 竹中 登 鈴木 義久
井上 茂兵衛 井上 兵衛 佐藤 耕司

〔要員券〕 主催 名古屋観世会
※初回に限り当日券の発売は致しません

当日熱田へ行っていたら、必ずや五九年の名古屋の第一に挙げたであろう。また三十年の歳月は啓次郎の能装束を進み重ねて今日の立派な啓次郎をつくり上げたと言いたい。いや啓次郎氏だけではな

六十年大曲に挑むとき鬼頭喜太郎氏(大)を始め後藤孝一郎(小)・吉田定男(大)・河村隆一郎(大)・助川竜夫(大)に藤田六郎兵衛(笛)、何回も東西受賞の曲の笛を吹く。諸氏の御々たる雅子方勢の充実は八和Vを以て名古屋演能の効果色彩。これが何よりも五九年の名古屋の話題と宮えよう。

ワキ・飯富雅介氏の上達も活目しよう(経正・梅若盛彦ほか)。

次は狂言共同社のこと。三回の釣狐。五八年から五九年にかけて、やさしく観く、老狐の感ある祐一(アド弘之)・綿密でこまかい芸の友彦(同・松次郎)・太い線で飾らず素朴な弘之(同・松次郎)三者三様の同曲(よき)に共同社の持ち味・名古屋風の狂言芸の味と広さを十分に感得する。しかもこの伝統芸は三人に受け継がれて(祐一・在良)、新時代を迎えようとしている。消治と祐一または松次郎・藤と友彦・今枝都雄・靖雄兄弟、そして信行と又三郎。孫(子)と父(祖父)。次代が控える。雅子方も次の世代が舞台を勤める(五九年第一の藤田六郎兵衛の会はか)が、今はわくわくは述べない。この変化交代もやがて大きな旗印を挙げるであろう。双眉は明るくかつ重かろう。

演能。来名の演者では通感ほか・元正(ツレ梅田邦久)・安宅(元昭)・通小町(領之丞)・羽衣(喜之・那古野神社新能)・結(修一、故猶義氏をよくしのばせ)・藤(十三段ノ舞盛義)・綾鼓(英雄)・望月(兎夷)・石橋(巖)。

野村四郎・隅田川、本田光洋・三井寺と舟舟慶

結ぶに名古屋市中・風俗篇・能楽部門補修のこと。狂言の会で市のM氏に「名古屋能楽史の補修を同編でお願いしたい。今でも補修はもう遅いと思えます。明治以後の記録はあっても解説・補注者口伝・口誦ばかりがなくなり、心付えがたくなっています。心付えがたくなっています。現存の能楽部門(の項)も補注を加えないと分りません。城内の能楽台の場所・演能記録の再編・装束の作成など。しかも、町入能で補がけられお能舞見の人達は楽になつたなど朗らかな記録が載る。また明治になって那古野神社現存の能楽台の完成年月日もまわってない。

鶴舞図書館に現・名古屋市の歴史の原本は保存、徳川美術館は江戸能楽の貴重な資料の宝庫である。東西をつなぐ名古屋の能楽史のためにも広くご配慮が得たい。

六十一年・熱田能楽殿三周年記念の年も多幸でありますように。(五九・十二・十六)

謹賀新年

名古屋観世会



森田 光 春 京都市東山区八坂上町三七六	吳竹会 寛三 男	森本 重一	鬼頭 季 信	幸 圓次郎 〒164 東京都中野区中央四丁目一三番 電話(三三八)九四一三番	幸 義太郎 〒116 東京都中野区丸山二丁目二四番 電話(三三七)五六七二番	野中正和 〒174 東京都板橋区清水町三〇一 電話(九六四)三七八二番	大倉長十郎 〒581 吹田市江坂町五丁目17番2 電話(三三六)五六五六番	大倉正之助 (大鼓方) 〒101 東京都新宿区下落合二丁目一四一五C 電話(〇三三)九五〇一三二六〇番	幸友会	福井啓次郎	福井良久	福井良治	柳原富司 忠
桂 会 後藤 孝一郎	瀬尾 乃 武 〒171 東京都豊島区西池袋一丁目30番10-305	亀井 俊一 保忠 雄	谷口 正喜 京都市上京区中立売通室町西入 室町スカイハイツ610号	寛 鉦一	吉田 定男	中 喜彦 〒602 京都市上京区智恵光院 今出川上ル一〇六番 電話(〇七五)八二二番	飯島 佐之六 〒920 金沢市香林坊2-18-8	前川 光 隆	前川 光 長	名古屋観世会 京都市右京区御室芝橋町一の六 名古屋観世会 二ツシビル六階六〇二号室 電話九三五一一〇一〇番	狂言 やるまい会 野村又三郎	茂山 千五郎 〒215 川崎市麻生区岡上四三八一 電話(〇四四)九八七二一八七番	大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣
長生会 鬼頭 八郎 喜太郎 信 大蔵方 鬼頭 英二 愛知県中島郡平和町城西 電話(美濃)〇一九六〇番	助川 竜 夫	和泉 元 秀	名古屋 和泉会 狂言 共同社	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣	大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 義嗣

松阪市段町1412の3
電話(〇五九八)三三〇二六

森森 常茂
〒151 東京都渋谷区代々木四丁目三八二
電話(〇三三)37014609

名古屋市西區福下二丁目一〇番九号
電話(〇五二)五七一五七六三

(6)

第3種郵便物認可 月刊(毎月一回10日発行)

能楽の友

[第217号] 昭和60年1月10日

観能随想

彫りの深いドラマ

壺泉会の「卒都婆小町」

昨年(昭和59年)の暮の十六日、熱田神宮能楽殿で壺泉会の能を鑑賞した。...

さて見終った感じは期待に違わず、普通の「卒都婆小町」とは、ひと味違ったものだったことは確かだ。...

この老妓の小町にこびりついた高慢の角を折るのが、後半のヤマ、物狂いの「体験」です。...

「三度礼拝」させて、「悟りの道に入ろうよ」と静かに合掌する小町。とにか「卒都婆小町」という老女物の「深いドラマ」のテーマに集約、彫りの深いドラマに仕立て上げた(私流のコジツケ)演者...

60年1月・2月放送予定

[1月]
●NHK・FM放送(日曜日午前7時10分)
20日(日)宝生流「東北」渡辺三郎ほか
27日(日)観世流「藍染川」藤井久雄ほか
●NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
20日(日)観世流「鞍馬天狗」観世元昭ほか
27日(日)観世流「巴」浦田保利ほか
●NHK教育テレビ
1月15日(祝)午前9時~10時
金春流能「小鍛冶」金春安明、福王茂十郎ほか
[2月]
●NHK・FM能楽鑑賞(日曜日午前7時10分)
3日(日)宝生流「弱法師」近藤礼ほか
10日(日)金春流「海人」桜間金太郎ほか
17日(日)観世流「鞍馬天狗」観世元昭ほか
●NHKラジオ第2放送(日曜日午前9時30分)
3日(日)秘曲を聞く(再放送)「恋ノ奪取」藤田大五郎ほか
10日(日)観世流「男衣」観世元正ほか
17日(日)観世流「雲林院」梅若旅行ほか
●NHK教育テレビ
2月11日(祝)午前9時~10時40分
同日、9時40分~10時40分
能「清経」観世清和・森常好ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

賀正

善竹 忠一郎

茂山 忠三郎
〒606 京都市左京区北白川大雲町47-1
電話(075)750-2001

朝日カルチャーセンター
唯子教室
小敦 後藤孝一郎
丸栄スカイル10階

演能写真
ウシマド写真工房
〒602 京都市上京区北野上七軒
電話(075)251-1341

栄能楽舞台
名古屋市中区栄五丁目一丁目
電話(052)221-1183

上田観正会
上田 貴弘

年賀欠礼
久田観正会 久田 徹二
大倉流小鼓 久田 舜一郎
笙月会 中川 雅章
長浜市地福寺町八ノ二九
電話(058)633-0300

楽諷庵舞台

加納 保一
名古屋市中区滝川町四七七八三
電話(052)833-7001

葵心庵舞台

尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二
電話(056)561-5023
能舞台 電話(056)561-5069

ビデオ撮影
西川 企画
名古屋営業所 名古屋市中区名駅
2-20-3 輪の内 小塚方
電話(052)571-1581
岐阜市北野町20-1-2
電話(058)298-9696

能楽の友社
同人一同

倉本 雅
「おことわり」年賀広告の掲載につきまして
ましては紙面の都合上、掲載順は不同です。
ご理解賜りますようお願いいたします。

橋岡会
橋岡 久馬

淡交会
橋岡 慈観

松大倉流小鼓

檜書店
流元 剛行
金本 宗元
観家 宗元
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話(291)2488-9
振替東京 3-3552
電話(231)1990
振替京都 1-113
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

新年賀
魚伊
鮮魚節
豊橋市魚町18 電話(52)5256
豊橋也留舞会連絡所 (山本浅太郎方)

新しい視力の見直し—オプトメトリ—
明けておめでとう
新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。
営業10時~6時
定休水曜日
メガネの玉水屋
なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826代

あなたに心をこめておおくりする……
富士道の婚礼道具
家具の富士道
本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
TEL代表(262)5547
ショールーム 愛知県西加茂郡三好町 TEL(05613)2-1178
工場

熱田神宮能楽殿創立30周年

県市へ42万5千円

春敲

二月二十四日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿

田中孝麿 能面展

3月22日(金)~27日(水)
AM10:00~PM6:00

四日市市一番街 白揚美術
文化センター白揚6階 サロン
TEL (0593)51-0711

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

題字は熱田神宮 窪田富司筆

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [2月]
 - 17日(日) 麦の会公演 (有料) (番組①面)
 - 24日(日) 春の会公演 (来場歓迎) (番組①面)
 - [3月]
 - 3日(日) 洗心会華心会春の大会 (来場歓迎) (番組①面)
 - 9日(土) 晴福会大会 (来場歓迎) (番組②面)
 - 10日(日) 熱田神宮能楽殿創立30周年記念能 (有料) (番組③面)
 - 17日(日) 名古屋梅園会別会能 (有料) (番組③面)
 - 20日(水) 四大学交流会 (来場歓迎)
 - 23日(土) 梅若六郎師七回忌追善能 (有料)
 - 24日(日) 壺泉会大会 (来場歓迎)
 - 31日(日) 大蔵狂言会 (来場歓迎)
 - [4月]
 - 6日(土) 青陽会定期能 (有料)
 - 13日(土) 野村四郎名古屋公演 (有料)
 - 14日(日) 観世会定式能 (有料)
 - 21日(日) 故片山博通師23回忌追善会 (来場歓迎)
 - 27日(土) 笙月会創立55周年記念大会 (来場歓迎)
 - 28日(日) 久田親正会能 (有料)
 - 29日(祝) 幸友会春の会 (来場歓迎)
 - [5月]
 - 3日(祝) 芳会大会 (来場歓迎)
 - 5日(祝) 巽会大会 (来場歓迎)
 - 6日(休) 豊会大会 (来場歓迎)
 - 12日(日) 鳳鳴会大会 (来場歓迎)
 - 18日(土) 名古屋観世九曲会定期能 (有料)
 - 19日(日) やるまい会公演 (有料)
 - 25日(土) 猪俣会大会 (来場歓迎)
 - 26日(日) 観世会大会 (来場歓迎)
- (演能変更の節はご了承下さい)

名古屋は、昭和五十九年度の芸術賞の受賞者を一ヶ月十一日の芸術賞選考委員会(原野会長)で推薦、二十二日決定した。

「芸術賞」には抽象絵画の浅野弥爾氏(七〇)と胡弓の横井みづるさん(七五)。

芸術奨励賞を受賞

59年度名古屋市芸術賞

若手が対象の「芸術奨励賞」には、能楽界から笛方・藤田六郎兵衛氏(三一)が選ばれた。奨励賞には、彫刻、音楽、ポピュラー部門からも受賞している。授賞式は二月十九日、中区・中日パレスで挙げる。

熱田神宮能楽殿創立30周年記念能

熱田神宮能楽殿創立三十周年をひかえ、既報のようにきたる三月十日(日)記念能が催される。

一部(午前九時半始)二部(午後二時始)で、一部では、宝生流「観世流」観世流能「田村」和泉流狂言「福之神」金剛流舞踊「桜川」など、二部では、喜多流「小鍛冶」観世流「草子洗小町」「狸々乱」狂言「仏師」金春流舞踊「高砂」ほか仕舞など。

熱田神宮能楽殿は、二十九年一月に竣工し、翌年三月十日の落成式を執り行い、翌三十一年NHK名古屋、中部日本放送、東海テレビ、名古屋テレビなど新聞放送各社が文化的事業の趣旨に協力して後援というこれまでにならぬ協力を得られている。

なお、同演能にちなんで記念能小冊子が刊行される。(番組詳細面掲載)

熱田神宮能楽殿創立30周年記念能

能楽殿運営委員会 共催 報道関係7社後援

県、市へ42万5千円

能楽協会 歳末助け合い能
名古屋支部 協賛

能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)主催の歳末助け合い運動協賛能は十二月二日熱田神宮能楽殿で行われ、この催能による義捐金として、名古屋支部では、愛知県、名古屋市にそれぞれ二十一万二千五百円ずつ合計四十二万五千五百円を贈った。(昭和五十八年度は四十二万二千二百円)

なお愛知県知事、名古屋市長から感謝状が支部におくられた。

麦の会公演

二月十七日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

梅田邦久 飯富 雅介 吉田 定男 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛

自然居士

二月十七日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

飯富 雅介 吉田 定男 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛

口真似

二月十九日、中区・中日パレスで挙げる。

藤田六郎兵衛氏

本名・藤田明彦、笛方藤田流十世家元、能楽協会名古屋支部評議員、三歳から祖父(藤田六郎兵衛)に学び、五歳で初舞台、近年では、能と狂言の会を主宰、青少年芸術劇場の活躍、能楽講座の開講など能楽振興に寄与。また現代芸術の各ジャンルと交流するなど意欲的な活動をしている。

桜川

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

八宮

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

雲林

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

殺生

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

附祝言

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

春の会

二月二十四日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

名古屋洗心会

三月三日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

玉

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

素

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

素

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

素

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

素

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

素

飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

素

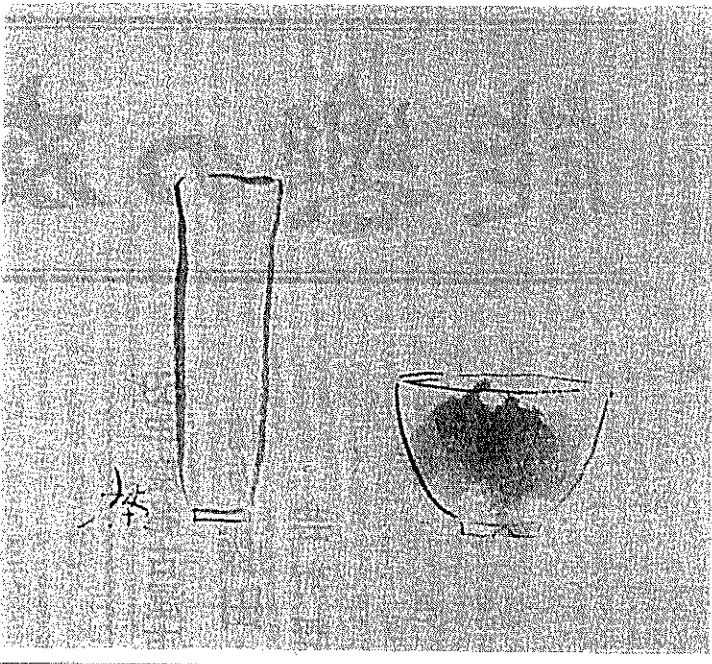
飯富 雅介 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一 柳原富司 寛 敏一

三月雅日記

南紀の海

えと文 二井栄逸

今年の元旦は暖かい静かな日であつた。日頃、電話と日程表といふ、しがらみ(?)にしばられて



誰でも大なり小なり、世の中を動かす大事な歯車の役目を果たすめ日程表というルールを忠実にまもる生き方をしているけれど、人間には安息日を持つというこゝも大事な仕事の一つであると思ふ。

各地だより

辰己 孝氏受賞
大阪府教育委員会、大阪府教育委員会主催による五十九年秋の大阪文化祭参加公演の「大阪文化祭賞」本賞に宝生流シテ方・辰己孝氏が受賞、一月十七日授賞式が行われた。

岡次郎右衛門氏に京都市文化功労賞

京都府文化功労賞として、高安流ワキ方岡次郎右衛門氏は十二月十五日表彰された。

大槻秀夫師「関寺小町」上演

3月16日 国立能楽堂で大槻秀夫師による「関寺小町」が三月十六日(土)東京、

「舟弁慶」前後之替

片山博通師23回忌

熱田神宮能楽殿創立

第五回 萌謡会

三月九日(土) 午前十時始
熱田神宮能楽殿

番外連吟	松	風	紀子	成瀬由喜恵
仕舞	志	近藤	敏彦	村中恵美子
(朗誦会)	夕	頭	浅井	敏花
車	備	宇野	雅悦	村ヶせ
連吟	敦	盛	林	愛子
(富謡会)	敦	盛	山原	和子
素謡	蜘蛛	古田	雄一	松浦
(志謡会)	蜘蛛	古田	雄一	松浦
連吟	小袖	曾我	成瀬	由喜恵
(友誼会)	小袖	曾我	成瀬	由喜恵
連吟	隅田川	正村	千代子	富田
(富謡会)	隅田川	正村	千代子	富田
素謡	小	ツレ	大橋	芳子
(鳳声会)	小	ツレ	大橋	芳子
仕舞	知鳥	堀口	千代	花
(鳳声会)	知鳥	堀口	千代	花
連吟	花	月	伊藤	千代
(鳳声会)	花	月	伊藤	千代
仕舞	東	北	水野	次子
(千謡会)	東	北	水野	次子
素謡	鞍馬	天狗	佐竹	英一
(鳳声会)	鞍馬	天狗	佐竹	英一

演能短信

熊沢恵美子師 「道成寺」

3月17日 名古屋梅猶会能

名古屋梅猶会(梅若盛義師主宰)は、三月十七日、熱田神宮能楽殿で別会能を開催。熊沢恵美子師が大曲「道成寺」を披く。

小鼓・後藤孝一郎、地謡・岡田前謙、後見・梅若盛、梅若見、梅若修一(梅若盛)。

邦謡会百番会

二月十二日 国立能楽堂

邦謡会(梅田邦久師主宰)は、二月十一日(祝)東京・国立能楽堂で、第七回邦謡会能を公演。

能「求塚」(シテ梅田邦久、ワキ宝生剛、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・大宮源二郎、大鼓・河村裕一郎、大鼓・上田博、地謡・熊世徳)

高 舞 前田 茂徳 河村真之介 池田 希世

賀

香織子(清謡会) 横山謙次郎

連吟 小美和子

(鳳声会) 北 東

(富謡会) 菊 慈 童

(誠謡会) 菊 慈 童

(素謡) 羽 衣

(鳳声会) 北 東

(富謡会) 菊 慈 童

(誠謡会) 菊 慈 童

(素謡) 羽 衣

附祝言

(御来場歓迎)

主催 萌 田 邦久

主催 萌 田 邦久

主催 萌 田 邦久

名古屋梅猶会別会能

60年2月・3月放送予定

Table of broadcast schedules for February and March, listing NHK and FM programs with dates and times.

田中孝麿能面展

津市在住の能面作家・田中孝麿氏は、きたる三月二十二日から二十七日まで、四日市市一番街の文化センター白揚美術サロンで能面展を開催する。

「舟弁慶」

4月13日 野村四郎名古屋公演 初の名古屋公演で「隅田川」を上演、好評に話題をよんだが、この四月十三日(土)能「舟弁慶」小書・重前後之替・船頭で第二回名古屋公演が催される。

片山博通師23回忌

4月21日 追善能 熱田神宮能楽殿で 故片山博通師二十三回忌追善能が四月二十一日(日)熱田神宮能楽殿で催される。主催武田邦弘、梅田邦久両師。

熱田神宮能楽殿創立三十周年記念能

昭和六十年三月十日(日) 熱田神宮能楽殿 【一部】午前九時三十分始

Table listing performers and roles for the 30th anniversary performance, including names like 飯富雅介, 河村修一郎, etc.

名古屋梅猫会別会能

三月十七日(日)十二時三十分始 熱田神宮能楽殿

Table listing performers and roles for the Nagoya Ume Nekko Kai performance, including names like 飯富雅介, 河村修一郎, etc.

道成寺

能楽 飯富雅介 河村修一郎 池田三郎 梅若盛彦 梅若盛彦 梅若盛彦

Table listing performers and roles for the Michikyoji performance, including names like 飯富雅介, 河村修一郎, etc.

附祝言

梅若盛彦 梅若盛彦 梅若盛彦

梅若盛彦 梅若盛彦 梅若盛彦

Table listing performers and roles for the 'Shinwa' performance, including names like 飯富雅介, 河村修一郎, etc.

Table listing performers and roles for the 'Shinwa' performance, including names like 飯富雅介, 河村修一郎, etc.

Table listing performers and roles for the 'Shinwa' performance, including names like 飯富雅介, 河村修一郎, etc.

梅若盛彦 梅若盛彦 梅若盛彦

信玄袋

一年末年始・鶴鶴
能中記・松坂屋
の能舞台のこと

以下おなじの八翁は金剛流... 六十一年の松坂屋作成のコレンダ...

六十年の松坂屋作成のコレンダ... 以下おなじの八翁は金剛流... 六十一年の松坂屋作成のコレンダ...

一九八五年 第二十七回 大阪国際フェスティバル フェスティバル能

Table with performance details including dates, times, and venue information for the 1985 Osaka International Festival.

6月21・22日開催

仕舞「巖」(広田幸徳) 能「采女」(シテ広田幸三、ウキ谷田宗二、ワキツレ北野三郎)

頭社版で行きつけの書店では注文がきかず、丸善に頼んで取り寄せ...

道成寺

Table listing cast members and roles for the play 'Michikinosyo'.

頭社版で行きつけの書店では注文がきかず... 丸善に頼んで取り寄せ...

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ！ 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ！

檜書店 東京千代田区神田小川町2-1

城 割烹・小料理 ●熱田神宮能楽殿喫茶部 ●住吉小路(中区栄3-10)

東山整形外科 外科・せいのけい外科・皮膚、泌尿器科 TEL 781-7835

した舞台も水れ、明までの緑な細い解説。 坂部 06-1-1 3

面打教室 於名古屋・栄朝日神社
毎週木曜日及び土曜日(月4回)

日本能面巧芸会
会長 林 龍雲

事務局 名古屋市千種区宮根台
2丁目2の8 川村逸夫方
電話 052(721)4687

教室の見学・能面お求めになりたい方
お気軽におこし下さい

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)

電話 (731) 7984
振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

演能カレンダー
(熱田神宮能楽殿)

[3月]		
17日(日)	名古屋梅若会別会能	(有料)
20日(水)	四大学交流会	(来場歓迎)
23日(土)	梅若六郎師七回忌追善能	(有料) (番組①面)
24日(日)	臺泉会大会	(来場歓迎) (番組②面)
31日(日)	大蔵狂言会なごや会	(来場歓迎) (番組③面)
[4月]		
6日(土)	青陽会定期能	(有料) (番組④面)
13日(土)	野村四郎名古屋公演	(有料) (番組⑤面)
14日(日)	観世会定式能	(有料) (番組⑥面)
21日(日)	故片山博通師23回忌追善能	(有料) (番組⑦面)
27日(土)	笙月会創立55周年記念大会	(来場歓迎)
28日(日)	久田観正会能	(有料)
29日(祝)	幸友会春の会	(来場歓迎)
[5月]		
3日(祝)	芳扇会大会	(来場歓迎)
5日(祝)	舞星会大会	(来場歓迎)
6日(休)	鳳鳴会大会	(来場歓迎) (番組⑧面)
12日(日)	名古屋観世九奉会定期能	(有料)
19日(日)	やるまい会公演	(有料)
25日(土)	猫風会大会	(来場歓迎)
26日(日)	観舞会大会	(来場歓迎)
[6月]		
2日(日)	大槻清韻会能	(有料)
5日(水)	熱田祭奉納能	(来場歓迎)
8日(土)	叶石会一圓会大会	(有料)
9日(日)	観世会定式能	(有料)
16日(日)	宝生会定式能	(有料)
21日(金)	大衆能楽	(有料)
22日(土)	大衆能楽	(有料)
23日(日)	狂言也留舞会	(来場歓迎)

(演能変更の際はご了承下さい)

「蘭花の能」
喜多長世の会主催による喜多長世芸道六十年、喜多六平大生誕百十年「蘭花の能」は三月三十日(土)国立能楽堂で催され、観世鉄之丞師の「弱法師」喜多長世師「道成寺」が上演される。

能「弱法師」小書・首目之舞。
(シテ観世鉄之丞、ワキ宝生孫一、笛・藤田大五郎、小鼓・鶴沢秀、大鼓・瀬尾乃武、間・野村万之丞)

狂言「鐘旗」(野村万作)
仕舞「頼政」(後藤得三)「西行松」(喜多実)「船井慶」(キリ友枝喜久夫)

「道成寺」
能「道成寺」(シテ喜多長世、ワキ藤茂好、笛・一噌幸政、小鼓・幸円次郎、大鼓・安福建雄、太鼓・金春惣右衛門、間・山本東次郎)入場券(全席指定)

S席(正面)一万円、A席(脇正)八千円、B席(中正)七千円。申込みは、喜多長世の会(東京都品川区上大崎四丁目六一九、喜多六平大記念能楽堂内、電話〇三(四九一)七七七三番)。

大阪能楽観賞会
の3月公演

大阪能楽観賞会は発足二十五周年を迎えているが、これを記念する三月公演(第二三十五回)が三月二十六日、大阪能楽会館で催される。

狂言「空屋」茂山千五郎、茂山正義
能「住吉詣」シテ金剛殿、ツレ金剛永護、今井清隆、谷口宗義、広田泰能、種田道一、広田幸松、

6月21・22日開催
熱田神宮能楽殿で「夜能」

能楽協会名古屋支部主催の大衆能は、昨五十九年度は「夜能」形式を採り入れ、四月に二日間に行われたが、ことしの大衆能は、六月二十一日(金)同二十三日(土)の二日間にわたり、午後六時から熱田神宮能楽殿で開催される。

今年度は、源平合戦八〇〇年「にちなんだ曲で企画され、演能は、初日(六月二十一日)は、観世流能「朝長」(シテ梅田邦久)、語「那須語」(野村又三郎)、二日目(六月二十二日)は、金剛流半能「巴」(シテ竹市幸司)宝生流能「船弁慶」(玉井博敏)、語「文蔵」(井上松次郎)が予定されている。

能「住吉詣」
大阪能楽観賞会
の3月公演

大阪能楽観賞会が発足二十五周年を迎えているが、これを記念する三月公演(第二三十五回)が三月二十六日、大阪能楽会館で催される。

狂言「空屋」茂山千五郎、茂山正義
能「住吉詣」シテ金剛殿、ツレ金剛永護、今井清隆、谷口宗義、広田泰能、種田道一、広田幸松、

融 砧

名取	實	天野	山本
川	盛	能	勝一
狂	盛	鼓	西村
山崎英太郎	梅田邦久	梅田邦久	欽也
梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	福井啓次郎
梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	鬼頭喜太郎
梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	藤田六郎兵衛

海外公演の足跡
国立能楽堂展
示室の企画展

戦後の能楽界にみられる新しい動きの一つに海外公演があげられ、三月二十三日(土)午後一時開演

追善能
三月二十三日(土)午後一時開演
熱田神宮能楽殿

古屋市史・風俗篇・能楽の部」にも数回引かれていた。くわしくは別記。なお同書参考文献と刻明な

との八もVが抜け、坂元雪馬全集が坂本云々になっていました。お詫びして訂正します(の)。

数百年を経て、今尚現役の舞台を勤める能面の歴史と造形美を探る!

中西通著・今駒清則 写真

能楽資料館館長である著者自らが、蒐集した大名家や能楽諸家旧蔵の能面を中心に、舞台効果の優れているものは勿論、工芸的にも水準の高い名作百面を選び、能面に魅せられ、開眼した筆者独特の能面美学で解説。

●B4判●オフセット多色刷208頁●解説など76頁●布貼り厚表紙ケース入 定価25,000円

玉川大学出版部
〒194 町田市玉川学園6-1-1
☎0427-28-3213

後見 梅若 盛義 婿記
岡田 梅若 盛義 婿記
地謡 梅若 盛義 婿記
岡田 梅若 盛義 婿記
見一 梅若 盛義 婿記
阪本 梅若 盛義 婿記
惠一 梅若 盛義 婿記

二七〇六一 および京阪神主要フリーガイドで座席券前売中
フェスティバル能楽館所 大阪市阿倍野区文の里四二四一七
井戸良造方

観能 大胆な形式打破

新演出の「隅田川」

去る二月二十三、四日、芸術センターで行われた「名古屋市青少年のための芸術劇場」の能と狂言は、大変興味深く、また意義のある催しでした。特に能「隅田川」(シテ梅田邦久)は、いわゆる新演出の「照明能」で、満員の観衆のドギモを抜きました。もともとこの種の新演出は東京、大阪その他の都市で既に行われた実績があるようですが、名古屋でははじめて、やや遅かりし感はありますが、保守的な名古屋能楽界のみならず、地元演劇界に一石を投じる試みとして、関係者の姿勢、意欲、勇気には大いに敬意を表します。

たゞはじめての試みだけに、やや勇み足めいてたところや、問題点があったのはやむを得ません。それを一々とりあげるのも大人数な気がしますが、ほんの二、三気になったところをいわせても構いません。

まずプログラムの「四次元パフォーマンス」能という一句。いわんとするところがよくわかりません。「能は四次元の演劇または舞台芸術である」という意味なら、なんのこともないのですが、

能・ハムレット 国立能楽堂で 24日第6回公演

英語能・ハムレットの上演で国際的にも関心をよんでいる能・シエクスピア研究会(静岡大学教授・宗方邦義氏主宰)では、来る三月二十四日(日)国立能楽堂で第六回研究発表公演を開演する。

人間国宝 宝生弥一氏逝去

3月28日 下懸宝生会葬

人間国宝・ワキ方宝生弥一氏は三月十一日午後三時三十分、急性肺炎のため、日大医学部付属板橋病院で逝去された。享年七十六歳。葬儀ならびに告別式は、下懸宝生会葬として二十八日午後一時から東京都大田区池上一ノノ一の本門寺で行われる。喪主は長男(かん)氏。

宝生弥一氏は、本名弥一郎、明治四十一年松山市生まれ。十一歳でワキ方宝生新に師事、誠実な芸と端座な芸風で知られ老女物は全曲を上演、各流演能に活躍。四十六年文化庁芸術祭優秀賞、五十六年日本芸術院賞受賞、五十八年重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定、五十八年日本芸術院会員に選ばれた。

附祝言

主催 青陽会

当日券 二千円

能の計画と調整、建造物の増築・修理、施設の拡充、周辺の整備などに、鋭意努力を重ねて、今日を

能カレンジャー「4月21日の片山博通師追善能は「来場歓迎」とあるのは「有料」の誤りにつきお詫びして訂正します。

古道具です。三間四方の舞台の上で、伝統に即した演出で、整然と上演されてこそ「能」なので、このような劇場で、照明その他進歩した舞台機構を使用して、現代感に訴えようとする新演出、大胆な形式打破は、まさに「パフォーマンス」です。しかしそれだけではいけません。関係者の前衛的な実験意図は十分に達成されているのですから。

まあ、あまりくだくだしくは述べ立てることはしませんが、東京、大阪その他で観世栄夫氏らが試みたような、照明能を名うた気がします。(M)

青陽会定期能(第二十九期)

四月六日(土)午後一時始

熱田 神宮 能楽殿

仕舞 衣キリ 祖父江修一 地謡 近野里子 生駒里子 前ツレ 本山 敷下 小歌 今村 嘉男 高木美智子

能 賀 茂 杉江 元 後藤孝一郎 助川 恵夫

能 雲 雀 山 飯富 雅介 河村 真之介 鹿取 希世

能 狂 二 千 石 大野 弘之 井上礼之助

能 鴉 飼 飯富 雅介 福井啓次郎 森本 重一

悪 太郎 井上礼之助 佐藤 友彦 後見 大野 弘之

〔御来場歓迎〕

西宮市甲陽園目神山町一ノ一七八 電話(〇七九八)七三二四五六 名古屋市中区和区山里町一〇三三 電話(〇五二)八三三三三三五

野村四郎 名古屋公演

能「船弁慶」重前後之替を観る会

四月十三日(土)午後二時開演

熱田 神宮 能楽殿

千 鳥 野村又三郎 井上礼之助

船弁慶

野村四郎

後見 河村 和重 地謡 津田 晴道 林 喜一郎 中 部 日 新 聞 社

観世会定式能(第二回)

四月十四日(日)十二時半始

熱田 神宮 能楽殿

能 熊 野 須部 甫 水藤 元三

忠 度 西村 欽也 吉田 定男 森本 重一

悪 太郎 井上礼之助 佐藤 友彦 後見 大野 弘之

附祝言 主催 名古屋観世会

〔3月〕

24日 (E) NHK 31日 (E) NHK 24日 (E) NHK 31日 (E) NHK 3月31日 観世

〔4月〕

7日 (日) NHK 14日 (日) NHK 21日 (日) NHK 28日 (日) NHK 4月29日 多夜 8時 (放)

海 士

武田 大志 山本 勝一 谷田宗二朗 久田 繁一郎 鬼頭喜太郎

片山博通先生廿三回忌

追善能 四月二十一日(日)十一時始

熱田 神宮 能楽殿

清 経 西村 欽也 河村 総一郎 森田 光春

通 盛 武田 欣司 橋本 碩道

江 口 青木 祥二郎 橋本 碩道

船 弁 慶 片山 清司 清沢 一政

無布施経 井上礼之助

海 士 片山 博太郎 曾和 博明

三 輪 西村 欽也 曾和 博明 藤田 六郎兵衛

附祝言 主催 梅武田 山田 邦久

鳳鳴会大会

五月十二日（日）午前十時始
熱田神宮能楽殿

番外仕舞	島 祖父江修一
歌	丸 中川雅章
	占 松木千俊
素謡小	ツレ 千葉松兵衛
	大沢 晃 伊藤 義郎
	サシ、ケセキ
葵	村上 郁子
	上 吉本 米子 山森 幸男
	筒 浅井 一元 武田 宗和
	初同ヨリロンギ
井	初同上取スキ
	大坪 重遠 一柳 正直
藤	成程 小川 博久
	康頼 小島 一英
	寛 八賀 和彦 郷 郭太郎
俊	上歌へ飲むからにヌキ
	独吟 竹 生 島 野々山 繁
	鼓の流 野々山正彦
遊	柳 石井 鍾子 寛 敏一
	背柳之舞 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
松	虫 吉田 明 寛 敏一
	番外仕舞 宮 武田太加志
素謡恋	重 荷 高橋すゑの 武田 志剛 地謡
	子方 武田 文志 長谷川京子
	萬 武田 志房 吉田 定男
	地次第アトへあら我子トナ
	福井啓次郎 森本 重一
子方	武田 文志 長谷川京子
	萬 武田 志房 吉田 定男
	地次第アトへあら我子トナ
	福井啓次郎 森本 重一
子方	武田 文志 長谷川京子
	萬 武田 志房 吉田 定男
	地次第アトへあら我子トナ
	福井啓次郎 森本 重一
子方	武田 文志 長谷川京子
	萬 武田 志房 吉田 定男
	地次第アトへあら我子トナ
	福井啓次郎 森本 重一
子方	武田 文志 長谷川京子
	萬 武田 志房 吉田 定男
	地次第アトへあら我子トナ
	福井啓次郎 森本 重一

如月の舞台から

「観世会」九阜会をみる
竹尾 邦太郎

「翁」東西観世会初回は必ず「翁」で始まるが、当地は四、五年に一回。はなはだ不満足であるが、ともかく「翁」の年である。それにしても今年度当地観世会番組中脇能は皆無。せめて「翁」の年ぐらひは翁付脇能・脇狂言をワンセットに上演してもらいたいと思う。

シテ元昭。正先で袖あしらいして平伏のとき、頭が高いのではと思わせたが、キリでへ万歳奏と両袖合わせ、扇を置き長身を利用して伸び上げる天を仰ぐその大きい風姿に瑞祥を見せた。千才は宗和。白哲の面上は躍動する力に紅潮し、爽快を印象づけた。又三郎の踏む三番足は、鳥を歩幅小さく鋭く跳んだ。リズムカルな鈴ノ段は六郎兵衛の好調な笛と相俟って長閑な気分が横溢した。当然のことではあるが、終始真摯神妙な面相友童も祝典曲「翁」を支えて力があ

「東北」仄かに匂い立つ梅の清々しさを元正をモデルに絵に見る趣である。前シテ里女の気品卑しからず、それが後シテ和泉式部の霊に昇華して間然するところがなかった。と云えば言い過ぎか。それは、只の里女ではあるまい、と看破しているワキ僧（茂十郎）の謙虚が与っている。自らを「梅の主よ」と名乗らせ、「今は何をかつむべき」と言わせないのである。ドラマの起伏を欠く分詩情に訴えるこの曲、嗚呼子方（大五郎・源二郎・崇志の按分といひ、地（博太郎・徳三・邦久ら）といひ申し分なかった。（1時間48分）

狂言は「鶴」。一軒梅（「東北」の古名）に「鶴」とは付き過ぎだが、むしろ洒落っ氣を買った。だしの曲、稀曲である。アド弘之。段段目、長上下に小サ刀。

信玄袋

熱田余話・過ぎしことこれからのこと

熱田Vの三月は、めでたい月です。能楽殿が造られ、演能が始って三十年。その記念能が十日に催される。完成祝賀能当時出動の顔触れに比べると、まことに隔世の感があります。名古屋の能楽師の方々の世代交代は大きく、これが言葉を変えれば、古典芸能・伝統芸能の伝承と云うことになるのでしよう。父から子・子から孫となつていきます。見所（愛好者）もまたさうです。そしてこの三十年が人間と演能の広く複雑な交差の流れの中でみえた名古屋への寄与・高い趣味・深い人生観の形成は前目してよいと思えます。幾重にも模倣る現代化（近代化）と共存しながら、古典の誇りを持ち続けてきました。熱田の雅楽（東照宮も）然り、平曲も然りです。

能・狂言の東西の名人・上手のことです。完成間もなく喜多平太氏の昇清があった。放下僧・桜間弓川（関寺小町を舞われた直後です。以下敬称略）、枯淡の中にふっくらとした味わい。嬉捨・ハヤシ・橋岡久太郎。温和な笑顔は忘れ難い。花屋・鶴世銀之丞（雅雪）。朝長・梅若六郎（この日は大阪で関寺小町・金春八条八二回目Vがあった）。卒都婆小町・観世之。頼政・近藤乾三。土蜘蛛・高橋進。野口兼資氏の能はここではみられなかった（八松坂屋Vの求塚と一調夜討討我は任巻でした。また、橋岡秀男（来名四十年記念能）、道成寺V古式Vと山姥・金剛殿（現）・野野・喜多

能を語る会

4月、6月にも開催

「羽衣・彩色之伝」ワキ（欽也）は段段目着流に水衣、紺白染分けの腰装で出た。白大口より余程親しみ易く、粗野な漁夫と清純なシテ女（喜之）の対比もしくくりとする。ワキツレは一人（杉江元）。これも無いより有る方が数を待たずワキ漁夫白龍の強さを引き立て、シテの痛々しさに同情を起させる点でも勝れた効果がある。シテは天冠に白蓮を立て、面は若女か（？）。鼓と様文様藤色袴を着た。物着には白舞衣を重折って着た。ゆったりした長絹と異なり、舞衣並折姿は身体を硬く締めるといふ視覚に訴えて清浄を強調し、丁度シヤガール描く天に吸込まれてゆくようなすっきりした女人を思わせた。ただ舞衣は袖に飾が無いため弾みがつかず、その上天冠の白蓮で被さないとこるだが、喜之はむしろ軽々とやう退けた。キリは左袖被りたまま三鼓の流シでするすると幕に入り、ワキが留めた。辛い思いをさせた天人の帰途をしみじみと見送るワキが印象的だった。（65分）

お知らせ

NHKでは、4月から第2放送「謡曲狂言」の時間がなくなり、FMの「能楽鑑賞」が現在午前7時10分から7時55分まで四十五分間放送されているのを、六十分番組とし、時間も午前8時からに変更される。

能楽協会大阪支部

創立五十五周年記念

吉野天人

河村総一郎 助川 竜夫
福井啓次郎 藤田六郎兵衛

流元 剛行 金発 流本 世宗 観宗

書店

東京千代田区神田小川町2-1 101 千
東京都中央区二条通駄屋町東入 604 千

電話 (291) 2488-9
3-3 592 0
電報掛 (231) 191 1
電報掛 京 1-113

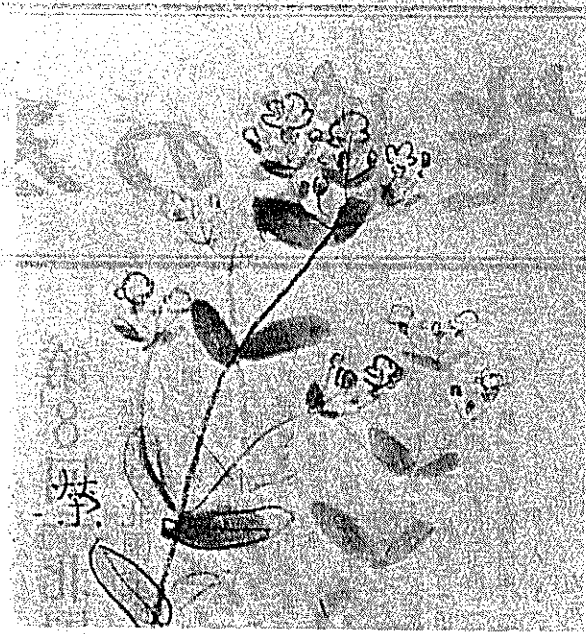
五月雅日記

民話の中の花

えと文 二井栄逸

夏になると、積古先の裏道の山かげに、毎年のようにオトギリソウが黄色い花を咲かせているのを見かける。オトギリソウは、前切り草と書くが、その花を見るたびに、昔、祖母から聞いた、その名も悲しい民話を思い出す。

祖母の家は、山の裾を思わせるような大きな池の近くにあって、よく遊びにいったものである。廻り廻る水車の音以外は何の音にも、昔、祖母から聞いた、その名



く民話をきかせてくれた。オトギリソウのこと、七草薙子のこと、山はどの親子のこと等。

これらから昔く民話は、花山天皇(かざんてんのう)の頃というから、それは遠い平安の昔話になる。冷泉天皇の第一の皇子であった師貞(もろさだ)の宮が、花山天皇として第六十五代の皇位につかれたのが、九八四年であるから、永観年間頃になる。

その頃みやこは、晴頼という鷹飼がいて、傷を負った鷹をなおすことがうまかったという。

鷹狩というのは、飼いならした(はやくさ)鷹、大鷹、はやたか等を放って、野禽や、小獣を捕え狩りに出た鷹が傷を負って帰ってくる、こぼれて晴頼の家をおとすれ、傷をなおして貰っていた。

治療はてき面に効く。その秘薬というの、ある葉草のしぼり汁だ。たそで、鷹匠達にはその草の名を明かさなかつた。

ところが或る日のこと、晴頼の弟は鷹匠達から、その草の名を、しつこくきかれ、ことわりきれずついにその草の名を教えてしまったという。

それをきいて怒った晴頼は、その夜、眠っている弟を切り殺し、山かげにうめてしまった。さすがにたつた一人の弟を殺し、悶々の一夜をあかした晴頼は、翌朝弟のなきがらを埋めた山かげに自害をして果ててしまふ。

その晴頼の死骸から、ひととちの草が生い出で、頂きに黄色い小花をつけ、葉には、弟を殺した時の血しぶきのあとを点々とつけていたという。

其の花の名は、

誰言うとなく弟切り草(おとぎり草)と名づけられたのであった。オトギリソウの葉を日にすかして見ると黒い斑点が無数にある。能になりませぬ。

或る日のレッスンでこの話をしたら、門生の一人が言った。

民話とか、童話の中には、能に進展するものもある。

オトギリソウは実際に生薬のしぼり汁を切傷や、打撲傷にぬるとよく効くそうであるし、鳥の妙薬ともいわれている。異名をチドメグサ、ムシグスリ、ヤクソソウ等ともいう。

花の名前は、一つの草をとって見ても、正名、異名、学名の三つの名がついている。私は、物をかく時は、いつも正名で書いている。正名というのは和名のこと、わが国で最も多くつかわれている標準名といつてよいだろう。

異名は、別名とか、方言名のこと、一つの草に最低三種以上の名前がついている。そして、それだけに伝説や、物語りを秘めているので、旅の馳走になる。

学名は、植物学者によって命名され、ラテン語や、ラテン語化された語でつかわれ、世界共通の名であるが私達の世界には通用しない。

金春流の伊勢神宮 春季神楽奉納能

金春流による伊勢神宮春季神楽奉納能が四月五日伊勢神宮内宮参集殿能舞台で行われた。

当日は、金春信高宗家、金春欣三、高橋汎、金春安明、木田光洋、金春晃実の諸師はじめ、林鉄郎、広瀬瑞弘、中村富次、加藤正樹氏ら出演。能「羽衣」(シテ中根久子)能「国産」(高橋汎)ほか七舞などを奉納。

岐阜 鶴 箏 能

8日 護国神社大祭奉納 岐阜県護国神社大祭奉納・鶴箏能は四月八日午後四時から、同神社神楽能舞台で催された。

主催中新聞本社、桂会、誠交会。当日は能「春柳」(シテ高木

能「采女」を上演

大阪能楽観賞会五月公演

大阪能楽観賞会の五月公演は、五月十四日(火)大阪能楽会館で催される。午後六時始。

能「采女」(シテ山本順之、ウキ植田隆之亮、前・野口清和、小鼓・荒木昭雄、大鼓・山本孝、問・野村万之丞、地謡・観世鏡之丞、大観文蔵ほか)

任意「清水座頭」(野村万之丞、野村又三郎)

A席券(正面指定席)四千八百円、B席券(自由席)三千三百円。問い合わせは電話(06)344-1138、1139

60年4月・5月放送予定

4月

NHK・FM放送(日曜日午前8時~9時)

21日(日)金春流「藤戸」金春信高ほか

28日(日)宝生流「求塚」今井泰男ほか

NHK教育テレビ

4月29日(祝)午前10時~11時30分

喜多流能「安宅」喜多長世・森茂好 ほか

夜8時10分から新団十郎の「勸進帳」放送

5月

NHK・FM放送(日曜日午前8時~9時)

5日(日)喜多流・番薙子「安宅」

喜多長世・森茂好ほか

12日(日)同「安宅」

19日(日)宝生流・番薙子「松本忠宏ほか

26日(日)親世流・番薙子「草子洗小町」片山博太郎ほか

NHK教育テレビ

5月3日(祝)午前9時~10時

宝生流能「巴」武田喜永ほか

6日(月)午前9時~10時30分

抜く、釣狐、野村樹作

第1部「釣狐」野村樹作

第2部「釣狐」野村樹作

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

能清

見見 五木田三郎 地謡 宮本正彦 高橋 昭一 加藤 保彦 佐々木 勝郎 吉田 妙 小林 喜久

善知鳥 野手貴美子 雲雀 山 服部 みわ

附祝言 主催 芳 小島 芳雄

浦安市東野三丁目十六番地九号 電話(0473)531625

故上田照也師 一周忌追善 久田観正会春季大会

四月二十八日(日)午前九時始

熱田 神宮 能楽 殿

素謡 殺生石 小本曾進 佐野 正吉

藤 戸 加藤 有里 吉川 宇良子 後藤 是る

葵 上 田中 雅子 市野美代子 石黒 直子

花 衣ヶせ前川 幸子 草子洗小町 後藤 是る 月キリ川出 薫 鞍馬 天狗 露木サチ子 子方 杉原 耀子 貫之中村 枝枝

素謡 草子洗小町 三島惠那子 安藤 録郎

鉢 木 平野 文彦 玉木 孝男 安川 光雄

仕舞部 野 市野美代子 富士太鼓 田中 雅子 枕 之 段 安藤 録郎 玉 之 段 石黒 直子 経 正 久田悠弥代 子方 露木サチ子 兼房 戸田 久子 兼房 慶谷 昌子 義経 後藤 昭子 待 稲垣つね子 伊藤 正子 砧 鈴木 金子 小田切敏子 石岡 和子 仕舞 院 潜 玉木 孝男 錦 木ヶせ 稲垣つね子 雲 林 院ヶせ 佐野 正吉 橋 井 慶子方 後藤 昭子 鶴 大陽寿美子

素謡 恋 重荷 鈴木 苗 加藤 月江 披 辛都婆小町 大陽寿美子 笠田 悦 杜 島 横井余史子 吉野 天人 前川千鶴子 殺生石 安川 光雄 神谷 功

素謡 花 籠 服部 喜美子 加太 愛子 奥田 悦子 仲 藤 藤 美光 岩坂 雅生 番外仕舞部 光 馬場 信至 神谷 功 守 久田 徹二 (終了予定 六時半頃)

幸友会春の会

四月二十九日(祝)午前十時始

熱田 神宮 能楽 殿

主催 幸 友 会

五月三日(祝)午前十時始

熱田 神宮 能楽 殿

仕舞部 龍 太 鼓 伊藤 文恵 三 輪 菊地 民子 班 女 日野八重子

素謡 鉢 定 木 久保田貞夫 辻 道雄 家 森田 幸子 岡本 照

舞子 敦 盛 久藤 日出 松 丸 黒岩 美代 桜 川 野田 道子 藤 戸 粉川 寿雄

倉田 敏生 倉田 節子 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛 西村 欽也 福井 啓次郎 宮本 正彦 小林 喜久 後見 観 直也 地謡 青木 武弘 泉 喜久 高橋 昭一 五木田三郎

狂言 竹生嶋参り 野村又三郎 野村 信行

舞子 富士太鼓 北田智恵子 東 北南 三江 唐 船 城 あい 通 小町 堀木 文雄 胡 蝶 岡村 貞子

東海林敏子 羽田 ふさ

能 経 飯富 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一 後見 五木田三郎 地謡 宮本 正彦 高橋 昭一 加藤 保彦 佐々木 勝郎 吉田 妙 小林 喜久

善知鳥 野手貴美子 雲雀 山 服部 みわ

附祝言 主催 芳 小島 芳雄

浦安市東野三丁目十六番地九号 電話(0473)531625

観能 古典を大切に

を果し、新しい美の輝きを増して今日に至っているわけですが、現状はどうでしょうか。同一曲目の

える日が来たらどうなるか、一抹の不安を禁じ得ませんでした。同時に「能は古典である」という認

鳳鳴会大会 五月十二日(日)午前十時始

観能 古典を大切に 近ごろ思うこと

さすがシーズンの開幕、三月には熱田能楽殿三十周年記念能を、はじめ、見ごたえのある催しが沢山ありました。しかし演目はほとんど見なれたものばかり、久しぶりといえるのは「正尊」(30日・中日名鑑鑑賞能)くらいでしょうか。よくまあ、こんなにありふれたもの(は失礼)ばかり、くり返しくり返しく上演して、演者も見所もあきないものだと、今さらながら思うのです。十七日の「道成寺」など、熊沢恵美子さんのお披露と、はい、お弟子の支持が大きいといえるもの、考えてみれば、これは全く不思議な現象というほかありません。

もともと、これは能ばかりでなく、歌舞伎の世界も同様で、今月から三ヶ月にわたって行われる「十郎要名披露興行」でも、「勧進帳」「助六」「暫」「鳴神」「毛抜」とおなじみの十八番物が並んでいきます。通ならずとも、少しでも歌舞伎

豊水会春季大会

五月十九日(日)午前九時半始

素齋	紅葉狩	駒田 馨	早川 寛
雲雀	山	楠木 真理	古橋 輝彦
鞍馬天狗	蝶	衣田 清子	高山 弘
胡蝶	刈	林 明夫	外山 圭一
芦	雀	田中喜代子	高橋 邦光
舞臺子	雲	北島 康江	北条いさ枝
小袖曾我	外山 圭一	上野美与乃	上野美与乃
吉野天人	下尾 和子	福井啓次郎	福井啓次郎
通小町	寺下 武子	福井啓次郎	福井啓次郎
独吟	進帳	野村 幸子	野村 幸子
素齋	法師	鈴木 英輔	寺田 正男
景	清	白井 正光	森谷 達男

を果し、新しい美の輝きを増して今日に至っているわけですが、現状はどうでしょうか。同一曲目の再演または再演のほかに打つ手もありません、ずるずるべったり日を送っているうちに、折角再生した美の輝きに曇りを生じおそれはないでしょうか。しかも一時代前の名人輩出時代は過去のもので、今は一世を画するような名人の出るのを期待できさうもないとしたらどうでしょうか。(確かに万三郎、兼賀、六平太らの存在が、野上説の裏付けになっていたことは見逃せません。)こうした不安が顕在化しつつあることは、最近の稀曲の上演や能曲の復活、古演目の試演や照明能の新演出など、多種多様な実験的企画の続出からも察せられます。先般芸術センターで行われた「隅田川」の新演出もその一環で、動揺の波動が名古屋にも押し寄せて来たという感じがします。

先日テレビで国立劇場で行われた「自然居士」を見ましたが、花道を上手に使って効果をあげているのに感心しました。能の新演出には必ずしも賛成し得ない私でもこうした試みが次第に大衆の支持を得て、能舞台の能が色あせてみ

名古屋異会大会

五月五日(祝)九時始

素齋	紅葉狩	駒田 馨	早川 寛
雲雀	山	楠木 真理	古橋 輝彦
鞍馬天狗	蝶	衣田 清子	高山 弘
胡蝶	刈	林 明夫	外山 圭一
芦	雀	田中喜代子	高橋 邦光
舞臺子	雲	北島 康江	北条いさ枝
小袖曾我	外山 圭一	上野美与乃	上野美与乃
吉野天人	下尾 和子	福井啓次郎	福井啓次郎
通小町	寺下 武子	福井啓次郎	福井啓次郎
独吟	進帳	野村 幸子	野村 幸子
素齋	法師	鈴木 英輔	寺田 正男
景	清	白井 正光	森谷 達男

素齋	紅葉狩	駒田 馨	早川 寛
雲雀	山	楠木 真理	古橋 輝彦
鞍馬天狗	蝶	衣田 清子	高山 弘
胡蝶	刈	林 明夫	外山 圭一
芦	雀	田中喜代子	高橋 邦光
舞臺子	雲	北島 康江	北条いさ枝
小袖曾我	外山 圭一	上野美与乃	上野美与乃
吉野天人	下尾 和子	福井啓次郎	福井啓次郎
通小町	寺下 武子	福井啓次郎	福井啓次郎
独吟	進帳	野村 幸子	野村 幸子
素齋	法師	鈴木 英輔	寺田 正男
景	清	白井 正光	森谷 達男

豊星会春の会

五月六日(休)午前十時始

素齋	紅葉狩	駒田 馨	早川 寛
雲雀	山	楠木 真理	古橋 輝彦
鞍馬天狗	蝶	衣田 清子	高山 弘
胡蝶	刈	林 明夫	外山 圭一
芦	雀	田中喜代子	高橋 邦光
舞臺子	雲	北島 康江	北条いさ枝
小袖曾我	外山 圭一	上野美与乃	上野美与乃
吉野天人	下尾 和子	福井啓次郎	福井啓次郎
通小町	寺下 武子	福井啓次郎	福井啓次郎
独吟	進帳	野村 幸子	野村 幸子
素齋	法師	鈴木 英輔	寺田 正男
景	清	白井 正光	森谷 達男

素齋	紅葉狩	駒田 馨	早川 寛
雲雀	山	楠木 真理	古橋 輝彦
鞍馬天狗	蝶	衣田 清子	高山 弘
胡蝶	刈	林 明夫	外山 圭一
芦	雀	田中喜代子	高橋 邦光
舞臺子	雲	北島 康江	北条いさ枝
小袖曾我	外山 圭一	上野美与乃	上野美与乃
吉野天人	下尾 和子	福井啓次郎	福井啓次郎
通小町	寺下 武子	福井啓次郎	福井啓次郎
独吟	進帳	野村 幸子	野村 幸子
素齋	法師	鈴木 英輔	寺田 正男
景	清	白井 正光	森谷 達男

鳳鳴会大会

五月十二日(日)午前十時始

素齋	紅葉狩	駒田 馨	早川 寛
雲雀	山	楠木 真理	古橋 輝彦
鞍馬天狗	蝶	衣田 清子	高山 弘
胡蝶	刈	林 明夫	外山 圭一
芦	雀	田中喜代子	高橋 邦光
舞臺子	雲	北島 康江	北条いさ枝
小袖曾我	外山 圭一	上野美与乃	上野美与乃
吉野天人	下尾 和子	福井啓次郎	福井啓次郎
通小町	寺下 武子	福井啓次郎	福井啓次郎
独吟	進帳	野村 幸子	野村 幸子
素齋	法師	鈴木 英輔	寺田 正男
景	清	白井 正光	森谷 達男

主催 中日新聞本社、桂会、誠交
 当日は能「巻物」(シテ高木 一三四七番)
 円、B席券(自由席)三千三百円。
 問い合わせは電話(〇六)三四一
 4月21日(日)午後夜月NI日
 5月5日(祝)九時始
 12月19日(日)午後夜月NI日
 5月6日(祝)九時始
 (入場無料、御来場歓迎)念
 久田 鏡正 会
 久田 徹二 会
 小島 芳雄 会
 浦安市東野三丁目十六番地九号
 電話(〇四七三)五三三六二五二

丞、浅見真州ほか。指定席一万円、山本順之、若松守諸師の番外仕自由席五千円。散る花の会事務所 舞が上演され、盛会であった。

梅若湯會(梅若善高師)は、大阪春會会館第二十五周年記念大...

「御來場歓迎」 主催 名古屋屋 観 衛 会

「一語會・叶石會春の會」 六月八日(土)午前九時三十分始

観能独語

見事なアンサンブル

野村四郎の「船弁慶」

野村四郎の「船弁慶」を観る会(4月13日・熱田能楽殿)を観ました。面白かったです。昨年の「隅田川」...

卯月の舞台から

「観世会」と「片山博道廿三回忌追善能」

竹尾邦太郎

「忠臣」シテ紀彰。右手に杖、左手には旗の一枚を持って出た。茶系の小格子目引淡茶色の水衣...

熱田まつり 奉納 能

Table listing performers and roles for the Noh performance at Atsuta Shrine. Roles include 花月, 西行, 野守, 松敦, 喜融, 春融, 杜若, 成上, 鶴, 鶺鴒, 附祝言, 入場無料.

一語會・叶石會春の會

Table listing performers and roles for the performance at Ichigoji. Roles include 藤上, 富士太鼓, 百萬, 松小町, 紅葉, 山姥, 実盛, 高砂, 羽衣, 遊舟, 船弁慶, 天鼓, 阿漕, 放下僧, 善知鳥, 船弁慶, 羽衣, 高砂.

シテは邦弘。蕭瑟とした情景の中を、その音色に惹かれ、長い時間を掛けながら何時の間にかツレ...

「御來場歓迎」 主催 大槻清韻会

観世会定式能(三回)

六月九日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿

能組
天女 安藤 勝朗
ツレ 松山 幸親
茂 久田 徹二 加賀 敏彦

頼

片山慶次郎
政 宝生 関 河村 大
柳原富司忠
藤田六郎兵衛

空

腕 井上松次郎 井上礼之助
後見 佐藤 友彦

葵

水無月被 藤波 重和
水藤 元三
梅田 邦久
久田 徹二
鐵 輪 片山九郎右衛門
地謡 梅田 邦久

〔要員券〕

当日券(自由席)七千円

主催名 古屋 観世会

第廿九期・第二回 名古屋宝生会定式能

六月十六日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

番 辰巳満次郎
稲川 寿一
佐藤 耕司
小沢 喜一
鬼頭 喜男
吉田 俊彦
石黒 正宜
衣斐 正宜
宝生 英照

安

宅 西村 欽也
後藤 敏一
藤田六郎兵衛
大野 友彦
久野 幸三
寺部 哲也
平子 福美
辰巳 孝門

班

女 阿次郎富門 吉田 定男
飯富 雅介 福井啓次郎
井上礼之助
大野 弘之

望

月 西村 欽也
河村総一郎
柳原富司忠
藤田六郎兵衛
後見 宝生 英照
内藤 泰二
地謡 井上茂兵衛
石黒 孝

〔要員券〕

会員券 年四回分・一万二千元
当日券 六千円

主催名 古屋 宝生会

信玄袋

舞楽神事、熱田余話
(三)平曲・井野川幸
次検校のこと

五月一日熱田神宮舞楽神事。実に長く長く伝承されてきた。当日は青く晴れて澄み渡る空に包まれるなかの舞台上、赤と緑の装束(左右の舞)が映える。特に三十五分も独り舞う「蘭陵王(らんりやうおう)」の舞人(まいにん)が終りにさしかかりを右手の襟(ばち)で高く天を指すカタチは美しい。その前に楽器・大太鼓(だいたい)のVなして動く舞だけの部分も佳い。主なる楽器、あの大太鼓の音も胸を打つ。ポレロに似てポレロに非ず。舞・宮田理博。編文・弥生両方の、しかも現代にとけこみ美しさとその古典芸能中の古典のよさが強くやさしく広がり身体を包んでいた。楽し。

熱田余話(三)。少し幅を広げて。三月二十一日片山博通通善能。二三回忌。田鍋一郎氏(小鼓方・名古屋、故人)と同年輩。共に進歩的であったが、片山氏はまた知性主義派でもあった。両氏が長命ならば境界として名古屋もちがった展開がみられていたであろう。

昭和四五年の名匠鑑賞能(田鍋惣太郎催主、故人、六一回)は片山氏の通善能で、このときは博太郎・三輪白式神楽、慶次郎・望月(ワキ宝生弥一)。その弥一氏も去る三月十一日他界(付、昭和七年の張良・披キ拜見はよき思い出になった)。杉浦元三郎氏も杉浦友雪・シテで舞丸を演じた。三兄弟揃っての出演であった。また沼津雨氏の解説(追悼)すばらしい。今回は九郎右衛門氏(博太郎改メ、九世、三月)が舞囃子・海士を手向け、一門の能二番。武田邦弘・清経彦ノ音取は舞台が大きくみえ、すなおで気負いのない佳さが印象的。笛は藤田光春氏。梅田邦久氏は三輪白式神楽。長年鍛え身につけた八木さVで至る所芸の牙えと清らかさをみせたが、少し重くそれだけ廻々三輪のおもしろさに欠けた。結果として、終わりに「卒都婆小町」のキリが「花を手に舞う花婿」に変わった。

感概深かった。さて、片山さんは奥様の井上八千代さまと商工会議所(大池町)と松坂屋の二回能と京舞を披露された。葵上(博通)・花の旅(八千代)は傑作であった。熱田では「今日は眼福にあずかりました」「いやあ」と眼鏡越しの笑顔が好感を誘った。小牛尉のオモテのこととて教えを乞うたことがある。あの田鍋氏が催された通善能には次のような訳があったと推察する。終戦の年(昭和二十年)十一月名宝劇場で、片山・茂山千作(先代)両氏は京都の方々が戦災見舞の演能に名をされた。戦後名古屋初めの能会。NHKもその羽衣を録音放送させてもらいました。意義の深い催しである。それに報われたのではないか。また翌二十一年六月NHK焼失の届告が復活した落成式(名城外堀内、旧館、今はなし)を片山さんの乱はかで祝っていた。用意された乾杯の生ビールは味は今でも忘れない。「芸道一路」(能楽選書、検査店)の一書は愛読書である。こうして三部の一つである京都の観世流の流れは今に続いて名古屋の同流を、和を以て、支えている。観世喜之氏(先代)に先き立ち熱田余話のうちに書きおく。

野上弥生子さんが永眠。三月三十日。生国の大分県が五月六日の誕生日を祝う百歳祝賀祭を催す直前であった(朝日三十一、人々のうきよう欄)。

99歳、最後まで制作活動(朝日三十一、夕刊)
初心を保持する心。磯田光一(東京四、二日文化欄)をたしなまれ、桜間弓川氏とは格別親交があり、弓川氏を追悼の文章は言わぬまでも深く通じていた(八桜間弓川さんのことV、東京、昭三四、二月)。また高浜虚子氏とも暖い交遊を持たれた。

「これ、いつの世の契りぞや(朝長)」「云々と人高浜さんと私V
右の二文とも「鬼女山房記」に載る。ご夫君は能の野上理論(能楽の近代化)を展開された野上登一(昭和六年六月十三日没)である。

安宅・勸進帳について

6月10日 能を語る会
能について語り合う機会を、各方面からの要望にこたえ、「能を語る会」が二月(講師梅田邦久師)、四月(講師野村四郎師)に開かれ、非常に話題をよび好評のうきよう欄)。

付、四月号信玄袋で、青住自伝・本多静雄氏の姓が本田になっていました。お詫びして訂正します。(五・三、野村氏)

平曲伝承者・井野川幸次検校が四月二十二日死去。八十一歳。私の家とは親子二代のつきあいであった。私が小学校の頃そんな遠くない井野川さんの家の前を通ると必ず争の音がきこえた。戦後放送(NHK、邦楽)でお世話をするときはあの名古屋弁の音話になつかしかった。まだ師匠の佐藤正和検校存生のときである。呂音のゆたかな声は実に立派で、明るさに少し陰影をたたえておられる。平曲の那須与一の語り(句)は何度聴いたことであろう。あの朗々とした語り口が胸にこたえ感深かった。昨年の春、演舞会(平曲宇治川)で言葉をかまし、手を握り合い、そして秋の電話のやりとりが最後となった。古典芸能の大きな星が影が没する。まことに「人間愁いの花盛り」(開田川V)である。

を博したが、きたる六月十日(日)宝生流・内藤泰二師による「安宅・勸進帳について」の講演が行われる。会場中区大井町の名古屋市婦人会館。申込みは藤田六郎兵衛氏(名古屋西區福下2-10-9 電話052-571-5763)。午後一時半始。先着百二十名、会費制(千円)で受け付けられる。

60年5月・6月放送予定

Table with columns for month (5月, 6月), date, and program details (e.g., NHK FM放送, 宝生流, 観世流).

Advertisement for '城' (City) restaurant, featuring a map and contact information: 熱田神宮能楽殿喫茶部, 住吉小路(中区栄3-10), 電話 241-0248.

2月11日記念 乱能

第26回 大衆能

也留舞会発表会

六月二十三日(日)午前十一時始

エンゲージリング
山田宝石
貴金属・時計・装飾品
名古屋・本山駅
電 762-2434代表

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一部 70円

12月に記念「乱能」

30周年 熱田神宮能楽殿

熱田神宮能楽殿は、ことし創立三十周年を迎え、さる三月十日、第一部、第二部として、五流と和泉流狂言により盛大に催されたことは既報のとおりであるが、とくに今年には、能楽殿創立三十周年にちなみ「乱能」の企画がすすめられており、ことし歳末の十二月二十九日(日)に行われることになっている。(本紙一月号の面十二ある)

北歐3国で能・狂言公演

宝生流の「北歐公演能楽団」は五月二十八日からフィンランド、デンマーク、スウェーデンで公演、能「羽衣」「葵上」舞踊子「船井慶」「狂言神楽」「雷」を上演した。

一行は宝生流・今井泰男、松本忠宏、本間英孝、三川源雄、中村孝太郎、大坪喜美雄、前田晴啓、小倉敏久、渡辺他賀男の諸氏、狂言野村万作、石田幸雄、藤田六郎兵衛、福井啓次郎、寛齋一、鬼頭好信の諸氏。演能はヘルシンキ国立劇場(5月28日)デンマークのコペンハーゲン国立劇場(6月1日)同・オフスコンサートホール(6月3日)ストックホルム国立劇場(6月5、6日)で行われた。

森田流能方・貞光義次氏は、春の叙勲で勲五等双光旭日章を受章された。

氏は明治三十三年三月十三日生れ。明治四十四年初舞台、五十二年大阪市文化功労賞受賞、重要無形文化財能楽総合指定保持者、大阪能楽養成会教務、能楽協会大阪支部副支部長を歴任。



名古屋に生きる

「狂言装束展」盛会

名古屋狂言共同社(代表井上松次郎氏)中部伝統染織工芸研究会(丹羽吉輔会長)共催の「名古屋に生きる狂言装束展」は、五月二十日から二十六日まで愛知県産業貿易館で開催、共同社所蔵の装束、面、小道具など百数十点が一堂に展示され、多数の来会にぎわった。また、この狂言装束のデザインをモチーフに、二百余点の創作品も展示され、関心を高めた。

この装束展は名古屋市、名古屋商工会議所が後援、西尾名古屋市長、本山市市長らも開会式に列席参観した。(写真)

演能カレンダー

- (熱田神宮能楽殿)
- [6月]
16日(日) 宝生会定式能 (有料)
21日(金) 大衆能 (有料) (番組①面)
22日(土) 大衆能 (有料) (番組①面)
23日(日) 狂言也留舞会 (来場歓迎) (番組①面)
29日(土) 長生会主催・鬼頭喜太郎師還暦祝賀能 (有料)
30日(日) 同上 (来場歓迎) (番組②面)
- [7月]
7日(日) 金春会同門会 (来場歓迎)
金春会能 (有料)
14日(日) 期日狂言会 (有料) (番組③面)
20日(土) 観世九草会定期能 (有料) (番組②面)
21日(日) 観世定期能 (有料) (番組②面)
28日(日) 名古屋官庁楽団宝生会 (来場歓迎)
- [8月]
3日(土) 名古屋新能 (有料)
=熱田神宮境内=
4日(日) 青陽会定期能 (有料)
11日(日) 邦楽会能 (有料)
18日(日) 藤田後援会 (有料)
- [9月]
1日(日) 名古屋市役所文楽会 (来場歓迎)
7日(土) 衣裳正宜後援会能 (有料)
8日(日) 観世会定式能 (有料)
14日(土) 山本博之師13回忌追善能楽会 (有料)
15日(日) 宝生会定式能 (有料)
21日(土) 名古屋観世九草会定期能 (有料)
22日(日) 和泉会 (来場歓迎)
23日(祭) 観世会大会 (来場歓迎)
27日(金) 中日文化センター芸能発表会 (来場歓迎)
29日(日) 中野会 (来場歓迎)
- (演能変更の際はご了承下さい)

第26回大衆能

平家滅亡(源平の能)

六月二十一日(金)午後六時開演(第一日)

七騎 落長田 鶴河村大 西部 恵司
舞 藤子 福井啓次郎 中嶋 惠功
二井 和男
經 正キリ 久田 徹二 地謡 今村 嘉男
高橋 謙一
原 武田 邦弘 地謡 加賀 敏彦
仲 徹二 今村 嘉男
高橋 謙一

奈須之語 野村又三郎

朝長

六月二十二日(土)午後二時開演(第二日)

小島 一英 能 河村松一郎 勘川 竜夫
清次 邦久 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
梅田 邦久

後見 中川 雅章 地謡 松山 幸親 久田 徹二
武田 邦弘 地謡 本田 殿 片山 慶次郎
須部 南 橋本 敏道

巴

竹市 幸司 能 吉田 定男 森本 重一
杉江 元 福井 良治
後見 豊嶋 三千春 地謡 東田 康文 片山 慶次郎
河井 隆子 地謡 小林 義明 田中 昌三 康治
日比野 圭三 田中 敏文

文蔵

衣笠 郷志 能 井上松次郎
王井 博結
飯富 雅介 鬼頭 英二
柳原 司忠 鬼頭 喜太郎
後見 戸田 和子 地謡 柳原 司忠 鬼頭 喜太郎
竹内 澄子 地謡 柳原 司忠 鬼頭 喜太郎

船井

後見 竹内 澄子 地謡 柳原 司忠 鬼頭 喜太郎
鬼頭 喜太郎 鬼頭 喜太郎
鬼頭 喜太郎 鬼頭 喜太郎

世留舞会発表会

六月二十三日(日)午前十一時始

狂言組 徳田 文三
大 徳田 文三
狂言組 徳田 文三
狂言組 徳田 文三

飛 渡 狐 通 酢 蚊
佐 渡 狐 通 酢 蚊
佐 渡 狐 通 酢 蚊

魚 説 法 植 町 葉
し び 伏 山 伏 山 伏 山
柿 山 伏 山 伏 山 伏 山

新築意 植 町 葉
新築意 植 町 葉

60年6月・7月放送予定

- [6月]
NHK・FM放送(日曜日午前8時~9時)
16日(日) 金春流「雲雀山」高橋汎ほか
23日(日) 観世流「夜討替身」大西智久ほか
30日(日) 観世流「呼声」善竹忠一郎
観世流「恋重荷」梅若雅俊ほか
観世流「鶴刺」梅若恭行ほか
- [7月]
7日(日) 喜多流「天鼓」粟谷菊生ほか
14日(日) 観世流「通盛」野村四郎ほか
観世流「経正」武田志勇ほか
21日(日) 宝生流「景清」宝生英雄ほか
28日(日) 金剛流「班女」金剛 巖ほか
- NHK教育テレビ
7月11日(木)午後8時~8時45分
家伝~美の継承者たち~「能」観世元正、増田正造
(この放送は7月8日茶道、9日華道、10日香道につく)
4日間シリーズの一部
(放送予定につき変更の際はご理解下さい)

当日券(自由席)七千円
会員券 年四回分・一万二千円
当日券 六千円

るさに欠けた。能楽で、終わりに「卒都婆小町」のキリが「花を手向けて花舞し」とうたわれた。

る。ご夫君は能の野上理論「能楽の近代化」を展開された野上豊一郎氏。昨年六月、十二月号関連。

[5月] 19日
[6月] 2日
9日
16日
23日
30日

観能独語

「濯ぎ川」あれこれ

充実した「やるまい会」

五月十九日、熱田神宮能楽殿で第28回「やるまい会」を観ました。「昆布売」「才宝」「ぬけがら」「濯ぎ川」の好演に、演者も又三郎、万之丞、万之介、千五郎千之丞、花菱の所者揃い、中でも「才宝」と「濯ぎ川」は名古屋では久しぶりで、注目を集めました。「才宝」では又三郎の老練ぶりが光りました。老練というには、まだちょっと早い気のある又三郎ですが、種々しい祖父を楽々と演じて、少しも無理を感じさせない演技は、老練といふはかります。また、風姿といふ、舞いぶりといふこの狂言にピッタリ、三人の孫たち(佐藤友彦ら)もお行儀よく、上出来でした。

「濯ぎ川」はプログラムの解説にある通り、飯沼匡氏が文学座のアトリエ公演に書いた狂言様式の戯曲です。それが好評のため再演

日本能面巧芸会

の新作能面展

日本能面巧芸会(林能楽会長)は、五月二十九日から六月二日まで五日間、名古屋博物館で「新作能面展」を開催、愛知県、名古屋市両教育委員会、能楽協会名古屋支部が後援、翁、黒色尉、小牛尉、姥、小面、若女、孫次郎、増



女、深井、平太、中將、弱法師、蜘蛛丸、慈童、狸々、泥眼、般若、天神、大飛出、小飛出、怪子、重荷愚郎、大徳見、獅子口、小獅子など特別出品をふくめ力作五十六点が展示された。〔写真〕

れまします。今春、平戸橋の本多静雄邸で行われた花見の会のアトラクション本多氏新作の狂言「三困山」では突然ロック調の音楽にのって和泉保之、井上松次郎、佐藤友彦の三人が軽快に踊り出して驚かされたが、その意外性に観客席から大きな拍手が湧きました。そのとき私は「おもしろい」と思いました。新作狂言には何らかの意外性があるいは良い意味での型破りが必要なのではなからうか。

「濯ぎ川」の原作では、シテの名のり「わたくしはこの辺に住い致す者でございます」から始まって、すべて狂言言葉のリズムにのって現代語調で書かれています。それに、ところどころ(音楽)の指定さえありあつて、もちろん狂言の様式の戯曲であつて、狂言そのものでないことは分つていますが、完全に狂言になり切つていないところに、却つて雅拙な面白味があるように思ひます。これをなんとか生かす手はないものか。つまり今や狂言のワケにピッチとはまったく器用さよりも、戯曲の「尾篋骨」を残したままの不用意の方がいっそう新鮮に感じられる時代なの

ではないでしょうか。入場無料。が出席される。入場無料。日本写真家協会会員、大阪芸術大学助教授。が予定されている。午後一時始。

名古屋金春会同門会

七月七日(日)午前十時始

Table listing performers and roles for the Nagoya Kinshun Kai Domo Kai event. Columns include role names like 山香, 竹生, 黒島, etc., and performer names like 岸幸夫, 佐久間祥夫, etc.

名古屋金春会能

御来場歓迎

七月七日(日)午後一時半始

Table listing performers and roles for the Nagoya Kinshun Kai event. Columns include role names like 氷室, 笠之段, 阿楊, etc., and performer names like 廣瀬雅弘, 伊藤雄二, etc.

能俊

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 寛, 井上松次郎, etc., and performer names like 柳原富司, 鹿取希世, etc.

能恋

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 重荷, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鸚

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能半

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 吉田妙, 飯留雅介, etc., and performer names like 河村大, 鹿取希世, etc.

能鶴

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

能鷲

Table listing performers and roles for the Nobe event. Columns include role names like 観世喜之, 西村欽也, etc., and performer names like 河村総一郎, 藤田六郎兵衛, etc.

Vertical text on the right edge of the page, likely a continuation of an article or a list of names.

Vertical text on the right edge of the page, likely a continuation of an article or a list of names.

朝日狂言会

七月十四日(日)午後二時始

Table listing performers and roles for the Asahi Kyogen Kai event. Columns include role names like 文相撲, 箕被, etc., and performer names like 井上禮之助, 大野弘之, etc.

名古屋観世九臈会能(第三回)

七月二十日(土)午後一時始

Table listing performers and roles for the Nagoya Kansei Kyuwan Kai event. Columns include role names like 能半, 能鸚, etc., and performer names like 吉田妙, 飯留雅介, etc.

夏の素謡会

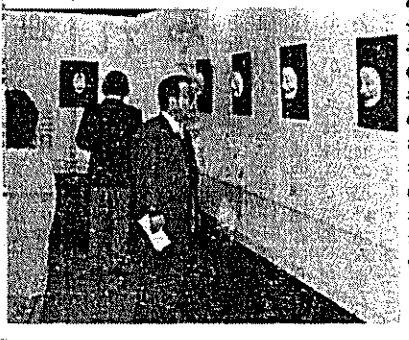
七月二十一日(日)午後一時始

Table listing performers and their pieces for the '夏の素謡会' event.

Table listing performers and their pieces for the '夏の素謡会' event.

Table listing performers and their pieces for the '夏の素謡会' event.

田中孝磨氏の「能面展」盛會
能面作家・田中孝磨氏の「能面展」は三月二十二日から六日間、四日市の文化センター白揚サロ



皇月の舞台から

竹尾邦太郎

「九皇会」と「やるまい会」
「戸」 故無く息子を殺され悲嘆にくれる母親が、白洲でワキ佐々木盛綱(欽也)の前に出、激

信玄袋

上半期いろいろ

この四月から邦楽放送・NHKの時刻が変わる。まず、ラジオ第2の「謡曲・狂言」の時間がなく

「このむさいものを」と顔をしかめ袋から取り出す小袖を流しに浸ける仕草にも、汚い物をいや

「私には動きの少ない能の舞いよりも、目まぐるしいアクトパチ

暑中御伺い申し上げます

財団法人 鎌倉能舞台

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場

名古屋 若宮八幡社

各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)

名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[7月]

- 20日(土) 親世九阜会定期能 (有料)
- 21日(日) 親世泰福会 (有料)
- 28日(日) 名古屋官庁楽楽団宝生会 (来場歓迎)

[8月]

- 3日(土) 名古屋新能 (有料) (番組③面)
=熱田神宮境内=
- 4日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組④面)
- 11日(日) 邦 謡 会 能 (有料) (番組④面)
- 18日(日) 藤田六郎兵衛 名古屋市長芸術奨励賞受賞記念公演 (有料) (番組④面)

[9月]

- 1日(日) 名古屋市役所交歓会 (来場歓迎)
- 7日(土) 衣裳正宣後援会能 (有料)
- 8日(日) 親世会定式能 (有料)
- 14日(土) 山本博之助13回忌追善能楽会 (有料)
- 15日(日) 宝生会定式能 (有料)
- 21日(土) 名古屋親世九阜会定期能 (有料)
- 22日(日) 和 泉 会 (来場歓迎)
- 23日(祭) 舞 臺 会 大 会 (来場歓迎)
- 27日(金) 中日文化センター芸術発表会 (来場歓迎)
- 29日(日) 幸 福 会 大 会 (来場歓迎)

[10月]

- 6日(日) 名古屋華楽会秋季大会 (来場歓迎)
- 10日(祝) 邦 謡 会 (来場歓迎)
- 13日(日) 親 世 会 別 会 会 (有料)
- 19日(土) 猶 惠 会 秋 の 会 会 (来場歓迎)
- 20日(日) 臨 楽 会 秋 の 会 会 (来場歓迎)
- 26日(土) 淡 蘭 会 秋 の 会 (来場歓迎)
- 27日(日) 淡 交 会 秋 の 会 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了承下さい)

日本能楽会会長に
宝生英雄氏
能楽協会理事長に
親世元昭氏
社団法人日本能楽会(喜多美会)

「名古屋新能」は、これまで十回を迎え、きたる八月三日(土)熱田神宮神楽殿前、特設舞台上で催される。

名古屋新能は、昭和四十一年から能楽協会名古屋支部主催、熱田神宮、名古屋市の後援で毎年

名古屋 新 能

能3番、狂言・舞囃子など

8月3日 熱田神宮で

暑中御伺い申し上げます
熱田神宮 宮司 篠田 康雄
権宮司 長谷 晴男

八月の第一土曜日を日程として開催され夏を彩る野外能として、毎回二千人近い観客が来会、各回とも能楽五流と和泉流狂言で親しまれ伝統をきずきあげてきている。

今回は、宝生流能「威陽宮」(シテ小沢喜一、ツレ戸田和) 親世流能「半部」(シテ武田邦久) 親世流能「鉄輪」(シテ久田健三) の能三番、和泉流狂言「蟹山伏」(シテ井上松次郎)、さらに金剛流舞囃子「小袖留我」、喜多流、金春流、親世流仕舞など。

火入れ式は、熱田神宮・長谷晴男権宮司により行われ、西尾武喜名古屋市長のあいさつが予定されている。

開演は午後五時半、前売り券千八百円(当日二千五百円)。(番組③面)

60年7月・8月放送予定

- (7月) NHK-FM (日曜日午前8時~9時)
- 21日(日) 宝生流「景清」宝生英雄ほか
 - 28日(日) 金剛流「班女」金剛 巖ほか
- (8月)
- 4日(日) 親世流「蟬丸」山階信弘ほか
 - 11日(日) 故人をしのんで
宝生弥一、高橋進ほか
 - 18日(日) 宝生流「満仲」松本恵雄ほか
 - 25日(日) 親世流「絹貴妃」山本勝一ほか

鳳鳴会 武田太加志 武田志房	片山慶次郎 幽花会 片山九郎右衛門	幽謳会 片山九郎右衛門	社団法人鏡仙会 親世雅雪 親世之丞 親世栄夫	中日文化センター特別教室 親昭会 昭門会 親世元昭	親世元正 東京都渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四
名古屋橋岡会 名古屋市中区丸の内五ノ三ノ五 山田紀子方	藤井徳久 完楽徳三雄 治人三雄	名古屋淡交会 橋岡慈観	山本観衛会 山本勝一 〒540 大阪市東区徳井町一丁目二〇 電話〇六(九四二)四〇七〇番	梅猶会 梅若盛義	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏 大阪市東区上町二番地
散る花の会 南条秀雄 奥村富久子	武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘	壺泉会 泉嘉夫 名古屋市中区山里町一〇三 電話八三二一三一八五 西宮市甲陽園目山町一の一七八 電話八〇七九八V②二四五八	名古屋親生会 野村四郎 東京都杉並区永福四一三〇一〇 電話〇三(三三二)一五二九 名古屋古場 名古屋市中区栄五―四一―四 能楽舞台	梅田邦久 須部政南 清沢美一 今沢美一 本藤勝朗 安藤勝朗 名古屋市中区台町二丁目十六―五 電話〇五(八四二)四六三三番	財団法人 鎌倉能舞台 中森晶三 中森貫太 〒248 鎌倉市長谷三―五―十三 電話(〇四六七)⑤五五七七

い関心がよせられた。田中孝蔵氏
津市観音寺町七六六―三九。

五月京都金剛能楽堂を訪ねる。
碓・金剛永壽。理づめのきりりと

を待つ、と語らうであろう。
それとも日本人向きの方が能楽風
でよいかも知れないやうだ。

が打てるでしようか。大器に大
成を期待したい。FM愛知。四。
二帆邦楽小品集。

催し。
春の院展、名古屋出品の中には
づくしの演能をみたいと告げられ
た思い出に拠る由。盛会を祈る。
(野村広二)

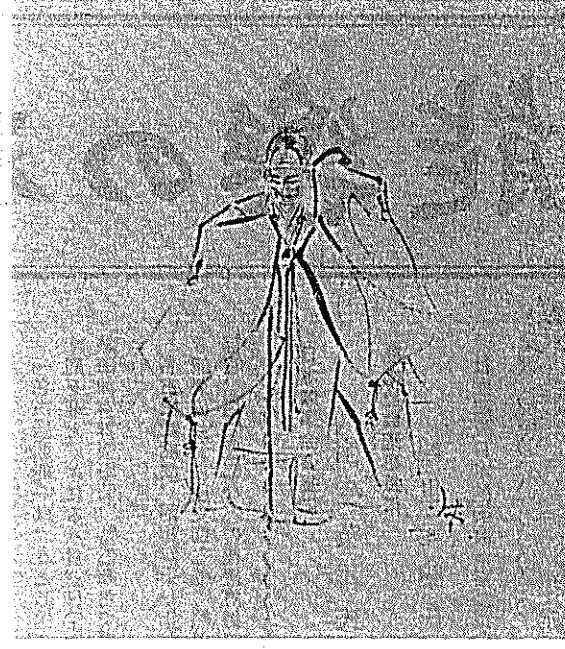
五月雅日記

月に見ゆるも

恥づかしや

えと文 二井栄逸

観月の名所として名高い姥捨山は、長野県善光寺の南端にある海抜一、三〇〇メートル位の山で、



観能 「安宅」と「朝長」

印象に残った舞台

六月、私の観た観能では、「安宅」(宝生英照)と「朝長」(梅田邦久)が印象に残りました。

「安宅」は、十六日の宝生会定式能に出たのですが、英照の弁慶、颯爽として梅雨空を吹き飛ばさんばかり。若さの残る顔、形に、豪快な弁慶像は無難ですが、強い大きな目を見せようとはせず、素直な格調の正しさの中に、行き届いた理解力をほめかして、なかなかの好舞台でした。

颯爽としていたのは弁慶だけでなく、同山の意気もよく合い、爽快さを完物にする舞台ではありま

山ともいった。山頂からは、東に四阿山、浅間山、北面には戸隠山や飯綱山などをながめることが出来、月明の夜には、はるか山下を流れる千曲の清流が輝くように美しいという。姥捨山の北の斜面には棚田があり、水田の一つ一つに月影がうつる。名月や、江戸の奴らが何知って——信濃の俳人、一茶が自慢したのも無理からぬこと。世阿弥は、この曲を大和物語に想を得て作ったと伝えられている。昔、信濃の国、更級に、幼少の頃両親を失い、伯母に育てられた男が嫁を貰ったが、伯母の老いたるを好まず、夫に山へ捨てよとすめた。男は困り果てた末、月の明るい秋の夜、伯母をたばかって人の居るべくもあらぬ高山に捨て捨てた。然し、夜もすがら眠られず、わが心、なぐさめかねつ更科や、おぼすて山に照る月を見て——と、詠み、再び伯母を連れもどったとある。(この項、朝日新聞、新・能のふるさとより)大和物語に記されたものは、老女の痛ましい境遇であるが、世阿弥はそのことをおもきにおかず月光の中に大自然の幽遠な情感をえがき、清逸高雅な山上の月そのもの

のを、白衣の女人に人格化することを主力をそそいだ。夢想的な月光曲で、姥捨の伝説は背景となつてに過ぎない。山下に千曲の悠遠の流れ、天上に皓々と照る月光、その中に白長絹の清純高逸な老女、それだけでいい。私は、前から絵にしたいと思いつながら、まだ出来ない。しかし、名家の伯母捨をもつと見て、必ず完成させたいと思つている。六平太談(恩師の随想集)に先生は次のようなことを語られている。私が老女物を舞った最初は卒都婆で、祖父の五十年忌に催した記念能からであったと思う。卒都婆を舞うについては、最初はどうしたものかと、当時生き残っていた長老の一人、紀喜真に相談したところ、今のうちにやっておいた方がいいでしょう。こういうものはこのさきやれるか、やれなくなるかも知れないから、舞初めの舞納めというつもりでやれと言われたものです。それから大正十五年四月に駒小町を舞ったが、老女物もまずこまでで、あとのものは無理をしてやらすともいって思つている。もし、思い通りの装束がつくれれば、伯母捨、検道はやつてみてほしいが……。

後シテは可愛い、明るく、対照の妙見事でした。四番目物がかつた異色の修羅能の面白さを、これだけ形象化できるのは並大抵の腕ではかないます。私が例のカンダリ(深読み?)をきかせたくなつたのは、前シテと後シテの愛情のからみ合いです。野上の宿の長老と美男の御曹子朝長、年の違いは別として、二人の間には何かあつてもおかしくない。おかしくないどころか、あつたと思つた方が面白い。もちろん深傷を負つた朝長とへんな関係などあり得ませんが、前シテの嘆きには、母性愛の昂揚以上に、一抹のなまめかしさがただよびついでいた。邦久の演出にもその意図がにじみ出ていた。は云い過ぎですか。後シテは、前シテはしんみりと重く、

竹翠会 若松宏守 (〒662)西宮市平松町四一九 電話(〇七九八)三三〇六〇一	大西智久 〒560 豊中市北塚塚2-10-3	名古屋観世九皇会 観世喜之	有賀滋子 加藤保彦 青木武弘 高木美智子 吉田一妙 高橋瞭一 宮本正彦	毎日文化センター 謡曲教室 殿島修二	一語会 河村鉦二 叶石会 河村繪一郎 河村大	久田純正会 久田徹二 大倉流小鼓 久田舜一郎 松月会 前野郁子 松山幸親	初陽会 武田宗和 笙月会 中川雅章 長浜市地福寺町八ノ二九 電話(〇六三〇)番	宝生流 嘉宝会 名古屋市昭和区川名本町二ノ五一 島田橋住宅三三三 電話(八三三)七三三二	宝生流 嘉宝会 名古屋市天白区島田二丁目三〇一 佐藤耕司	金剛 永謹 金剛 永謹 廣田後援会 廣田陸一 廣田幸稔	豊嶋の会 豊嶋三千春 菊扇会 後援会 廣田泰三	金剛流華月会 今井清隆 京都府北区山下板倉町二三 電話(〇七五)四九二一 二六四七	金剛流 周星会・名古屋 吉川周子 名古屋市千種区西崎町三三六 電話(八三三)七六二二 二二五七	森茂 好 〒151 東京都渋谷区代々木四一三八一 電話(〇三三)3701 4609
---	---------------------------	------------------	---	--------------------------	------------------------------	---	--	--	------------------------------------	---	-------------------------------	---	---	---

第20回 名古屋新能

八月三日(土)午後五時三十分始

第29期第3回

青場会 能

金春信高

伊勢金春会 村富次

伊勢市宮町一四一四一七
電話(八三三)二四五六番

第20回名古屋新能

八月三日(土)午後五時三十分始 (雨天順延) 熱田神宮神楽殿前・特設舞台

六 浦キリ 生駒 里翠 地謡 今沢 美和 吉田 幸江 近藤 幸子 服部 恵子 高木 美智子 小 鍛 治キリ 前野 郁子 地謡 高木 美智子 阿 漕キリ 前田 茂穂 地謡 加藤 幸夫 林 鉄 三 渡 道三 船 弁 慶キリ 長田 鶴 地謡 久岡 栄二 富田 陽二 小袖曾我 東田 康治 鬼頭 英二 福井 良治 井上 忠三 日比野 圭昭 小林 忠三 井上 忠三 田中 敏文 西 部 恵司 井上 忠三 西 部 恵司

第29期第3回 青陽会 能

八月四日(日)午前十時始 熱田神宮能楽殿

高 砂 生駒 里翠 須部 邦弘 須部 邦弘 清 経キリ 安藤 勝朗 須部 邦弘 須部 邦弘 井 筒 今沢 美和 須部 邦弘 須部 邦弘 天 鼓 清沢 一政 須部 邦弘 須部 邦弘 岩 船 本田 勲 須部 邦弘 須部 邦弘 東 北 飯富 雅介 河村 真之介 西部 恵司 飯富 雅介 河村 真之介 井上 松次郎 後藤 孝一郎 井上 松次郎 後藤 孝一郎 蚊 相 撲 井上 松次郎 井上 松次郎 井上 松次郎 井上 松次郎 鶴 之 段 武田 邦弘 松山 幸親 鶴 之 段 久田 徹二 松山 幸親 網 之 段 久田 徹二 松山 幸親 占キリ 小島 一英 清沢 一政 象 高安 勝久 河村 総一郎 柳原 富司忠 鹿取 好信 梅田 邦久 梅田 邦久 梅田 邦久 梅田 邦久 附 祝 言 主 催 青 陽 会 要 会 員 券、当 日 券 三 千 円

の演出にもその意図がにじみ出ていた。は云い過ぎですか。しかし、そう思っていると、後「おめでとう」を申し上げて筆をおきます。(M)

松山 幸親 倉 本 雅 神戶市東区田中町一丁目13番 電話(078)453161 山 幸親 本 山 幸親 電話(078)453161 山 幸親 電話(078)453161

喜多美	中部金春会 前田茂穂 米本平一	高安会 西村欽也 飯富雅久 杉江元	喜多流山 大和郡山新町一丁目一九 奈良高専矢田宿舎二六 電話(059)590159	長田 驍 後援会 津市高野町三三三二一四六 電話(059)6977	二井 栄 逸 松阪市殿町1412の3 電話(059)2310226	和島 富 太郎 宝塚市宝塚一丁目12-1 電話(079)7778630	福王 茂 十 郎 西宮市名次町六番十二号 電話(079)80772	江崎 正 左 衛 門 電話 三四一〇七三五	江崎 金 治 郎 電話 三五九七二一	谷田 宗 二 朗 京都市北区衣笠街道31-7 電話(075)853823	九州 高安流 同人会 飯富 良 人 飯富 徹 人 大山 要 二 郎 山崎 俊 輔 横田 富 生	龍吟会 能と狂言の会 能を語る会 藤田 六 郎 兵 衛 名古屋西區福下二丁目一〇番九号 電話(052)5711576	森 田 光 春 京都市東山区八坂上町三七六
-----	-----------------------	----------------------------	--	---	---	---	---	--------------------------	-----------------------	--	--	---	--------------------------

邦謡会能

八月十一日(日)午前十一時始
熱田 神宮能楽殿

通小町 成瀬由喜恵 堀場吉成 池田米寿
地謡 須木道喜 清沢一邦 道喜

敦 盛クセ 森崎紀子
地謡 梅田見保 本邦久 勲

浮舟 若キリ 村中恵美子
地謡 梅田見保 本邦久 勲

老松 鈴木志子
地謡 梅田見保 本邦久 勲

葵上 小林富美子
地謡 梅田見保 本邦久 勲

俊寛 ナリ松山 幸親
地謡 梅田見保 本邦久 勲

白鬚 飯富雅介
地謡 梅田見保 本邦久 勲

不見不聞 野村又三郎
地謡 梅田見保 本邦久 勲

放下 僧小歌 橋本雅夫
地謡 梅田見保 本邦久 勲

夕顔 武田欣司
地謡 梅田見保 本邦久 勲

小鍛 治キリ 渡井義寿
地謡 梅田見保 本邦久 勲

班女 西村敏也
地謡 梅田見保 本邦久 勲

附祝言 後見 今沢美和 地謡 梅田見保 本邦久 勲

御来場歓迎 午後五時頃 会

藤田六郎兵衛
名古屋芸術奨励賞受賞記念
舞囃子七番

八月十八日(日)十二時三十分始
熱田 神宮能楽殿

三番叟 野村信行 河村真之介 福井啓次郎 藤田六郎兵衛
地謡 梅田見保 本邦久 勲

繪馬 久田敏二 河村大 藤田六郎兵衛
地謡 梅田見保 本邦久 勲

遊行柳 観世鎮之丞 福井啓次郎 赤井啓三 志房
地謡 梅田見保 本邦久 勲

智恵子抄 観世曉夫 大倉正之助 藤田六郎兵衛
地謡 梅田見保 本邦久 勲

卒都婆小町 片山九郎右衛門 河村総一郎 後藤孝一郎 赤井啓三 藤田六郎兵衛
地謡 梅田見保 本邦久 勲

天鼓 大観文政 河村大 藤田六郎兵衛
地謡 梅田見保 本邦久 勲

乱 武田志房 大倉正之助 藤田六郎兵衛
地謡 梅田見保 本邦久 勲

〔有料〕 七千円 二階席 二千円
〔二階席は藤田六郎兵衛(前宅のみにて取扱)〕
〔取り扱〕 松坂屋、三越、中目、名鉄 各ブレイガイド、熱田神宮 能楽殿
5日 能を語る会
観世鎮之丞氏招き
〔能を語る会〕はきたる八月五日(月)観世鎮之丞氏を講師に、「現代における新作能の意義」をテーマに、(五十一年十二月開演)の演目「忠子抄」を上演する。お申し込みは、名古屋芸術奨励賞受賞記念舞囃子七番の申し込み書に添付して、お申し込みください。

〔有料〕 七千円 二階席 二千円
〔二階席は藤田六郎兵衛(前宅のみにて取扱)〕
〔取り扱〕 松坂屋、三越、中目、名鉄 各ブレイガイド、熱田神宮 能楽殿

5日 能を語る会
観世鎮之丞氏招き
〔能を語る会〕はきたる八月五日(月)観世鎮之丞氏を講師に、「現代における新作能の意義」をテーマに、(五十一年十二月開演)の演目「忠子抄」を上演する。お申し込みは、名古屋芸術奨励賞受賞記念舞囃子七番の申し込み書に添付して、お申し込みください。

〔有料〕 七千円 二階席 二千円
〔二階席は藤田六郎兵衛(前宅のみにて取扱)〕
〔取り扱〕 松坂屋、三越、中目、名鉄 各ブレイガイド、熱田神宮 能楽殿

5日 能を語る会
観世鎮之丞氏招き
〔能を語る会〕はきたる八月五日(月)観世鎮之丞氏を講師に、「現代における新作能の意義」をテーマに、(五十一年十二月開演)の演目「忠子抄」を上演する。お申し込みは、名古屋芸術奨励賞受賞記念舞囃子七番の申し込み書に添付して、お申し込みください。

〔有料〕 七千円 二階席 二千円
〔二階席は藤田六郎兵衛(前宅のみにて取扱)〕
〔取り扱〕 松坂屋、三越、中目、名鉄 各ブレイガイド、熱田神宮 能楽殿

5日 能を語る会
観世鎮之丞氏招き
〔能を語る会〕はきたる八月五日(月)観世鎮之丞氏を講師に、「現代における新作能の意義」をテーマに、(五十一年十二月開演)の演目「忠子抄」を上演する。お申し込みは、名古屋芸術奨励賞受賞記念舞囃子七番の申し込み書に添付して、お申し込みください。



瀬尾乃武
〒171 東京都豊島区西池袋1-30-10-305

幸圓次郎
〒164 東京都中野区中央四-147-1-1
電話(三三三)九四一三番

幸義太郎
〒116 東京都中野区丸山二-2-24
都営丸山アパート1号320号
電話(三三七)五六七二番

野中正和
〒174 東京都板橋区清水町三〇-1-2
電話(九六四)三七八二番

大倉長十郎
〒561 吹田市江坂町五丁目17-1-2
電話(三三六)一五六六番
大倉正之助
(大阪方) 正之助
〒161 東京都新宿区下落合二-14-1-5C
電話(〇三三)九五〇一三二六〇番

幸友会
福井啓次郎
福井良久
福井良治
柳原富司 忠

桂 後藤孝一郎

亀井俊一
保忠雄

谷口正喜
京都市上京区中立売通室町西入
室町スカイハイツ610号

寛鉦一
吉田定男

中村喜彦
〒602 京都市上京区賀恵光院
今出川上ル一〇六
電話(〇七五)七八二二番

飯島佐之六
〒920 金沢市香林坊2-18-8

前川光隆
前川光長
名古屋精古場 京都市右京区御室芝橋町その六
名古屋市東区美一125-1
ニッシンビル六階六〇二号室
電話九三五-11010番

長生会
鬼頭八郎
喜太郎
好信

大鼓方 鬼頭英二
愛知県中島郡平和町城西
電話(三三三)〇一九六〇番

善竹忠一郎
神戸市東灘区御影町那家大蔵二二

茂山忠三郎
〒606 京都市左京区北白川大蔵町47-1
電話(〇七五)七〇二二番

狂言やるまい会
野村又三郎
京都市上京区中筋通り石薬師上ル

大蔵狂言会
大蔵彌太郎
〒215 川崎市麻生区岡上四三八-1-1
電話(〇四四)九八七二番

和泉元秀
名古屋和泉会
狂言共同社

武田太加志氏逝去

附祝言 後見 佐野英照 地謡 小沢喜一 寺井良雄 鬼頭嘉男 辰巳潤次郎

〔お祈り〕 暑中伏せの掲載は紙面の都合にて勝手ながら七月号、八月号に分けて掲載させていただきます。願不同と併せ何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

謡曲名所めぐり旅行

源平合戦800年にちなむ
「大原御幸」ゆかりの洛北の謡曲名所探訪

11月17日(日)に実施

会費 9,500円 (詳細9月号)

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
送料 1年 1200円
郵送部 70円

題字は熱田神宮 藤田宮司様

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔8月〕
18日(日) 藤田六郎兵衛 名古屋市芸術奨励賞受賞記念公演 (有料)

〔9月〕
1日(日) 名古屋市役所文楽会 (来場歓迎)
7日(土) 衣斐正宜後援会能 (有料) (番組①面)
8日(日) 観世会定式能 (有料) (番組①面)
14日(土) 山本博之師13回忌追善能 (有料) (番組②面)
15日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組③面)
21日(土) 名古屋観世九草会定期能 (有料)
22日(日) 泉 会 (来場歓迎)
23日(祭) 観 舞 会 大 会 (来場歓迎)
27日(金) 中日文化センター芸術発表会 (来場歓迎)
29日(日) 幸 福 会 大 会 (来場歓迎)

〔10月〕
6日(日) 名古屋音楽会秋季大会 (来場歓迎)
10日(祝) 邦 楽 会 (来場歓迎)
13日(日) 名古屋観世創立35周年記念特別公演 (有料)
19日(土) 観 舞 会 秋 の の 会 (来場歓迎)
20日(日) 観 舞 会 秋 の の 会 (来場歓迎)
26日(土) 清 濁 会 秋 の の 会 (来場歓迎)
27日(日) 淡 文 会 秋 の の 会 (来場歓迎)

〔11月〕
2日(土) 青 島 会 能 会 (有料)
3日(祝) 友 泉 会 (有料)
4日(休) 和 泉 会 (有料)
9日(土) 名 古 屋 修 復 式 能 会 (来場歓迎)
10日(日) 観 世 会 定 式 能 (来場歓迎)
16日(土) 観 舞 会 秋 分 式 能 (有料)
17日(日) 山 花 生 会 定 式 能 (来場歓迎)
24日(日) 久 田 正 会 大 会 (来場歓迎)
30日(土) 叶 石 会 ・ 一 福 会 秋 の 会 (来場歓迎)
(演能変更の際はご了承下さい)



名古屋薪能盛会 熱田神宮神苑で

第二十四回名古屋薪能は八月三日、熱田神宮神苑で催され、二千人を上回る観客で連日猛暑のつづくなか夏の夜にくりひろげる幽玄の境地にひたり例年以上に盛会であった。演能は観世流仕舞に始まり、金春流、喜多流、舞、金剛流、舞、小袖舞「宝生流能(成陽宮)」、のち、熱田神宮長谷晴男権宮司による火入式、西尾名古屋市長のあいさつが行われた。つづいて観世流能「半節」和泉流能「嵐山伏」さらに観世流能「鉄輪」の迫力ある演能で午後八時半終了した。

栄で初の「薪能」

能狸々・葵上 狂言盆山

8月30日 セントラル広場

セントラルパーク7周年記念

名古屋の中心・栄のファッション・プログラムとして都市づくりをすすめるセントラルパークはこのたび創立七周年を記念する特別イベント「セントラルパーク・サマー・フェスティバル」としてきたる八月三十日(金)セントラル広場で「薪能」を開催する。この企画・構成は「能・狂言に

「薪能」前号(①面)「薪能」の記事中、十四年よりあるのは、三年ぶり(五十七年十二月開催)の誤りでした。お詫びして訂正します。

「薪能」前号(①面)「薪能」の記事中、十四年よりあるのは、三年ぶり(五十七年十二月開催)の誤りでした。お詫びして訂正します。

武田太加志氏逝去

観世流シテ方の重鎮

観世流シテ方・武田太加志氏(本名清水多賀志)は、七月十八日午前零時二十五分、急性呼吸不全のため東京・渋谷の日赤医療センターで逝去。享年七十七歳。告別式は、十九日午後零時半から東京・中野区中央一丁二六の武田修能館で執り行われ、能楽界への功績、故人の人格をしのんで悲しみのうちに盛儀であった。喪主・長男志房氏。

故武田太加志氏は、明治四十年十月武田宗治郎の長男として東京

演能案内

第一回 衣斐正宜後援会能

九月七日(土)午後一時三十分始

熱田神宮能楽殿

「能とわたし」

衣斐正宜後援会 代表世話人 神津 善行

仕舞 高 砂 衣斐 正宜

地謡 水上 和雄 寺井 良雄 廣島 克栄

能 組

仕舞 八 島 内藤 泰二

地謡 吉田 俊彦 廣島 克栄 佐藤 耕司

能 羽

仕舞 大 江 山 寺井 良雄

衣 飯富 雅介 杉江 元

後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

附祝言

後見 佐野 英朗 地謡 小沢 喜一 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

主権 衣斐正宜後援会 (五時三十分終了予定)

事務所 名古屋市中村区名駅三二六二二六 電話(052)五八六一二二〇

名古屋観世会定式能(四回)

九月八日(日)十二時半始

熱田神宮能楽殿

放 下 僧 小島 一英 中村 和男

地謡 祖交江修一 本田 一英 高橋 和雄 中村 和男

小 督 飯富 雅介 後藤 孝一郎

地謡 松山 幸親 久田 徹二 安藤 勝明 大槻 文蔵 加賀 敏彦 小島 一英 藤田 六郎兵衛

魚 説 法 大野 弘之 後見 佐藤 友彦

道 明 寺 山本 真賀

実 盛 盛 井上 嘉久

阿 井 浦田 保利

久田 徹二 梅若 盛義

飯富 雅介 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛

西村 欽也 福井 啓次郎 森本 重好

井上 礼之助 中村 和男 梅井 上本 邦嘉 真賀 久 久

後見 大槻 文蔵 地謡 清沢 中 武 梅井 上本 邦嘉 真賀 久 久

主権 名古屋観世会

当日券 自由席七千円

〔お断り〕暑中広告の掲載は既に七月号、八月号に分けて掲載させて頂きました。順不同と併せ何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。(編集部)

御来場歓迎
主催 萌邦
会 会
保 雄
助 川
竜 夫

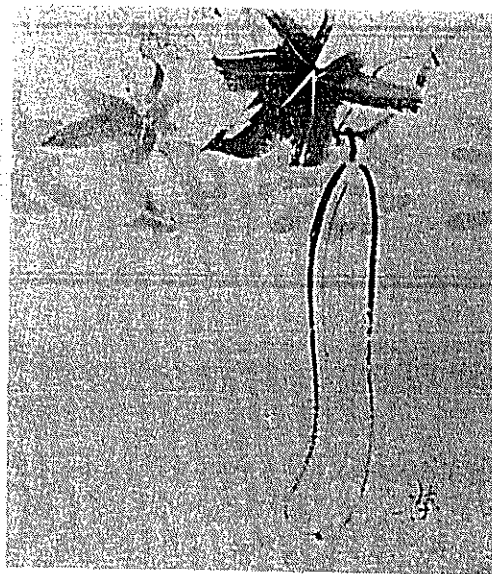
志月雅日記

へちま談議

えと文 井栄逸

こないだの水墨画の教室でへちまを題材に取り上げたところ、みんな楽しそうに作品を作っていた。和紙のじみは心がしびれる程楽しいといふ。

へちまはブラリと下った実も面白い、花もなかなか風情がある。可愛い子房をもった、真黄な雌花は雄しべを持たず、雌しべばかりで、同じ



江戸の下町の庶民達は、せまい露地に苗をうえ、へちま畑を作ることが流行した。とうとう、いつか落語で物売りの呼声をきいた中に、へちまの苗売りの声をきかせてくれたことがあった。

五十年前前になる。九段の軍人会館では学生鑑賞会があったり、将校達のグループ踊りがある、先生のお供をして地を闊歩に行ったものである。その九段下に水月という小料理屋があつて、よく立寄つて一酌をやつた。その中、主はなかなかの粋人で、スラリと肴物をきこなし、角帯をしめて相手をしてくれた。その水月の店先には、夏になると、へちまを棚をこしらえてあつた。夕風にブラリブラリとへちまがゆれているのは何となく江戸の情趣であつた。

へちまの若い実は、しき焼揚げ物、漬物として食用になるし、酒のさかなにも乙なものである。

亡き母は、家の裏庭の梅の木にははしたへちまを、根元近くでぶつ切り切り、一升瓶に切口をつつこんでへちま水を取つていたことを覚えてゐる。美人水と言われる化粧水になるのだそう。

又、実は、池にはり込んで置くと、繊維だけになり、色々な洗浄用具になつたりする。

能「羽衣」狂言「棒縛」

8月31日津島新能

きたる八月三十一日(土)第二回「津島新能」が天王川公園で催される。

主催は尾張津島天王新能連友会(伊藤長八会長)。後援津島市、同教育委員会、中日新聞本社、協賛は津島市観光協会、津島青年会、津島市観光協会、津島青年会、津島市観光協会、名古屋金春会、能を知る集い。

午後五時開演、入場料千五百円。

午後六時半火入れ式のち金春流仕舞「土蜘蛛」(シテ瀬尾菊次、ツレ吉原庄四郎)和泉流狂言「棒縛」(井上松次郎、佐藤友彦、井上礼之助)金春流能「羽衣」替ノ型

壺泉会能「砧」上演

9月7日、大槻能楽堂

壺泉会(泉嘉夫師)の講演が組織され、今回は「一世阿弥の理論と作風」について。回「壺泉会能」は、きたる九月七日(土)大槻大槻能楽堂で催される。

演能は「砧」(シテ泉嘉夫)で、とくに、先回から四回にわたつて法政大学教授、法政大法学部研究所の代表的立場にある表章(おもてあきら)氏。番組は次のとおり。二時開演。

講演「一世阿弥の理論と作風」 法政大学教授 表章

壺泉 信徳
泉 嘉夫

故山本博之十三回忌

九月十四日(土)午後一時始

能	追	善	能
熱田神宮能楽殿	山本博之	山本博之	山本博之
能	正山本 真賀	河村健一郎	藤田六郎兵衛
追	山本 博之	福井啓次郎	山本 博之
善	河村 健一郎	藤田 六郎兵衛	山本 博之
能	福井 啓次郎	山本 博之	山本 博之

井筒

山本 勝一	筒	河次郎吉筒	寛 鉢一	藤田六郎兵衛
物寄	福井啓次郎	山本 博之	久田 敬二	山本 博之
後見 梅田 邦久	地謡 河村 正重	山本 博之	波多野 眞賀	
観世 喜之	山本 博之	山本 博之		
狂言	野村 又三郎	井上礼之助	後見 大矢 高義	

天

梅若 紀彰	鼓	西村 欽也	河村健一郎	野口 浩和
弄鼓之舞	後藤孝一郎	野村又三郎	野口 浩和	
後見 山崎栄太郎	地謡 赤瀬 雅則	山本 真賀	山本 博之	
梅若 盛義	山本 博之	山本 博之	山本 博之	

追

山本 博之	追	善	能
山本 博之	山本 博之	山本 博之	山本 博之
山本 博之	山本 博之	山本 博之	山本 博之
山本 博之	山本 博之	山本 博之	山本 博之



梅若 善 高
豊中市新千里南町三丁目18-12
電話(06)831-1785

名古屋観世会

雄嵐会中部地区連合会
名古屋和石会
一宮竹会
岐阜花会
下原雄会
萩原雄会
高文雄会
文之屋社中

梅若万三郎

井上 嘉久
井戸 良造
井戸 和男

井上嘉久

大槻能楽堂 電話(06)622-3219

東京都世田谷区三軒茶屋二丁目〇一三二 電話(03)4331-2637

大垣市竹島町善念寺 住 所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦田 保利

名古屋修諷会
松和会 中 村 和 男

重陽会 菊池重郷

名古屋修諷会

梅若 修 一

下田 雄三
大坂市東区高麗橋五三

松音会
泉 泰孝
水雲会
水藤元三

山本 眞賀
豊中市本町六丁目一〇一六

芳韻会 稲生芳雄
半田市船入町三十一 電話(0569)99-0815

福恵会 熊沢恵美子
名古屋市東区平和ヶ丘3-76 日車マンション四〇四

加賀 敏彦
名古屋市守山区藤野新田字98の44 電話(053)771-8945

松和会 中 村 和 男

重陽会 菊池重郷

名古屋修諷会

梅若 修 一

呉竹会

第廿九期・第三回 名古屋表生会定式能

観能「箕被」と「引括」

ならぬところでしょう。そうではないと、夫の一人芝居、一人合点に達してしまふ、折角

名古屋修諷会

梅若 修 一

第廿九期・第三回 名古屋宝生会定式能

九月十五日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

清
稲川 寿一
吉田 俊彦

棒
衣斐 愛
倉本 雅

三井寺
飯富 雅介
西村 敏也
杉江 元

嵐
後見 戸田 和
玉井 博祐
井上松次郎

女半
鈴木 義久
花久 内藤 泰二

枕
後見 倉本 雅
鬼頭 好信
佐藤 耕司

主催者 名古屋宝生会
当日券 三千円
名古屋市中村区山王町一三三
内藤泰二 電話八三二一三四四九

60年8月・9月放送予定

[8月] NHK・FM放送 (日曜日午前8時~9時)
18日(日)宝生流「満仲」松本恵雄ほか
25日(日)世流「揚貴」山本勝一ほか
[9月]
1日(日)親世流「定家」関根祥六ほか
8日(日)宝生流「江口」渡辺三郎ほか
15日(日)喜多世流「鬼島」喜多節世ほか
22日(日)親世流「枕」生田教盛ほか
29日(日)親世流「声」木原康次ほか
NHK教育テレビ
9月16日(月)午前9時~10時30分
佐渡の薪能・山姥・宝生流・本間英孝ほか
9月23日 狂言のたのしみ
大藏流「井」抗 茂山千五郎ほか
大藏流「草」大藏弥太郎ほか
和泉流「那須語」和泉元弥ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

観能「箕被」と「引括」 微妙な離縁狂言の味

今年の「朝日狂言会」(7月14日、熱田神宮能楽殿)は和泉流(和泉宗家と狂言共同社)と大藏流(善竹一門)が芸を競い、それぞれの長所を發揮して多彩な舞台を見せてくれました。特に印象に残ったのは、「鍋牛」(元秀)と「箕被」(善竹五郎)でした。中でも「箕被」は名古屋では珍しく、忠一郎の病氣不參は残念でしたが、代って善五郎がなかなかの好演、滋味のある一番でした。ただ一言したいのは、妻を演じた善竹忠重の背が高過ぎることで、箕をかついで出て行く姿に、夫の吟をささうほどのしおらしさ、風情が感じられませんでした。背が高いのを低くするのは無理な話でそれを云われては忠重も困りました。

能楽金春まつり

東京・銀座八丁目にある「金春通り」は、昭和五十四年には、五十余の店主有志によって「金春通り会」が結成され復活したが、ことし八月一日から七日まで一週間金春通り会と金春川町井会(金春流宗家を中心に金春流の発展を望む会)がタイアップして、「能楽金春まつり」が催された。

大阪新能

11・12日生園魂神社で、能楽協会大阪支部が主催する「大阪新能」が、八月六日(日)「延命冠者」の上演。東京初公開。八月四日は、金春まつり。乱能が銀座能楽堂で、半能「高砂」狂言「益山」。「六地藏」ほか舞臺など。また八月六日は午後二時から銀座能楽堂で、増田正造比の「金春・銀座・能」の講演。山崎有一郎氏の「能の楽しさ面白さ」と題する講演が聞かれた。

大阪城能

8月23日 大阪城ホール 読売新聞、読売テレビ主催の「大阪城能」は、八月二十三日(金)午後六時から大阪城ホールで催される。番組は、観世流舞臺子「貫茂」(観世元正、山本真賀)観世流能「求塚」(片山九郎右衛門)大藏流狂言「吹取」(茂山千五郎ほか)金春流能「石橋」(舞臺)金春流能「世」(舞臺)金春宗家の来演をはじめ、毎年大きな話題をつくる「大阪城能」の盛会が期待される。

能友随想

六月二九・三十の両日、熱田能楽殿。家元観世元信をはじめ観世流太鼓方の勢揃い。喜太郎氏で四代目。祖父と父は儀法(祖父)と一調被捨(父)の太鼓を打つ。この儀法は名古屋能楽史、特に明治以来の大記録であった。二人の息(太・好信、大・英二)に二人の孫(独鼓と仕舞)を数える六代となる。かつて誰を名古屋青年楽師の筆頭に推せるか。先輩、後輩(青年楽師)の線を見れば、福井啓次郎君(当時)と後藤孝一郎君の間に引いて、多彩な青年群像に触れたことがある(名古屋の若い目・青

大阪新能

11・12日生園魂神社で、能楽協会大阪支部が主催する「大阪新能」が、八月六日(日)「延命冠者」の上演。東京初公開。八月四日は、金春まつり。乱能が銀座能楽堂で、半能「高砂」狂言「益山」。「六地藏」ほか舞臺など。また八月六日は午後二時から銀座能楽堂で、増田正造比の「金春・銀座・能」の講演。山崎有一郎氏の「能の楽しさ面白さ」と題する講演が聞かれた。

梅若修
重陽会 菊池重郷
鬼頭季信
森本重一
具竹会
朝日カルチャーセンター
唯子教室
栄能楽舞台
楽諷庵舞台
葵心庵舞台
ビデオ撮影
西川企画画

暑中御伺

ウシマド写真工房
千602 京都市上京区北野上七軒
電話(五三三)一三三三番

演能写真

高安流岡同門会
清村塩伊中北森高清
水田藤川野坂水
利耕久湖三康利
昭弘三蔵舟郎蔵弘宣

京都・高安流

岡次郎右衛門
千488 尾張旭市城山町三ツ池六一九八
電話(〇五六)三三〇四番

衣斐正宜後援会

千492 稲沢市高御堂一12-18-14
電話(〇五八)七三三二〇一九番

正風会

観修会 祖父江修一
多治見市日ノ出町2丁目
電話(〇五七二)三六五六

翠福会

名古屋市名東区社ガ丘3ノ1503
電話(〇五三)七〇三二一七番

幸福会

近藤幸江
岡崎市鶴岡町十一番地ノ三
電話(〇五六四)二五二九

朝日カルチャーセンター

唯子教室
小鼓後藤孝一郎
丸栄スカイル10階

栄能楽舞台

名古屋市中区栄五十四一三二
電話(二六二)一八三番

楽諷庵舞台

名古屋市中区龍川町四七七八三
電話(八三三)七〇一三番

葵心庵舞台

尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二
電話(〇五六)一五〇二三四六番

ビデオ撮影

西川企画画
名古屋営業所 名古屋市中区名東区
電話(〇五三)五七一五八二六
電話(〇五二)五七一五八二六
電話(〇五二)五七一五八二六

文月の舞台から

「金春会」朝日狂言会「九臈会」

竹尾邦太郎

「俊寛」シテ光洋は袈裟頭巾・面俊寛・小格子目引・白大口・襦袢水衣で腰裏はつけなかった。漁で生計を立てる流人の境遇を峻拒する気概は装束付に現れた(成程も白大口・長袖)。事実、赦免使到着までのシテには剛直な気風があり、それ故に赦免状に名の無いことが分つてからの秋風落葉の情は一入であった。しかも光洋は能を逸脱しかねないこの曲を濃厚な人間性のドラマに見事にまとめた。ワキ・シテと重なるツレ二人の好演も見逃せない。

「金春会」シテ光洋は袈裟頭巾・面俊寛・小格子目引・白大口・襦袢水衣で腰裏はつけなかった。漁で生計を立てる流人の境遇を峻拒する気概は装束付に現れた(成程も白大口・長袖)。事実、赦免使到着までのシテには剛直な気風があり、それ故に赦免状に名の無いことが分つてからの秋風落葉の情は一入であった。しかも光洋は能を逸脱しかねないこの曲を濃厚な人間性のドラマに見事にまとめた。ワキ・シテと重なるツレ二人の好演も見逃せない。

「九臈会」シテ光洋は袈裟頭巾・面俊寛・小格子目引・白大口・襦袢水衣で腰裏はつけなかった。漁で生計を立てる流人の境遇を峻拒する気概は装束付に現れた(成程も白大口・長袖)。事実、赦免使到着までのシテには剛直な気風があり、それ故に赦免状に名の無いことが分つてからの秋風落葉の情は一入であった。しかも光洋は能を逸脱しかねないこの曲を濃厚な人間性のドラマに見事にまとめた。ワキ・シテと重なるツレ二人の好演も見逃せない。

にあって、この頃まじきさほどどうだろ。声高に争うこともなく、ただ印に何かを望むだけ。素より夫は財とて無く、「いかさまこれに算がある」と、と渡せば、妻は、「さらばさらば」と、静かに去るのみである。圭五郎・忠重の叔父・朝小の押えた演技がしつとりとした人情劇の小品に仕立てて余情があった。(22分)

「止動方角」大曲でありアンサンブルで見せる狂言である。その意味が馬が軽かった。ここに危惧があったか、最初馬が暴れたと見え、咒文の一部「六万菩薩」を抜いてしまった。老練な馬なら更に一暴れて誤りを喚起するところであろうか。結局リズムに乗れ切れなかつた。(34分・7月14日・朝日狂言会)

「御堂奉行」芝居・映画に。朝日文左衛門(注・尾張藩士・用度課長、元禄前後の人)一躍スターに。朝日六・四、夕刊。中公新書「御堂奉行の日記」(神坂次郎著、文左衛門が生源記した日記・鶴鶴中記による、観能の記事多く芝居好き)をもとに、東京・芸能編(六・二十一)にも、大モテ名古屋侍・ドラマ化続々。テレビ・映画・芝居に。こちらは用度係長で。

青少年芸術劇場

九州・中国公演

文化庁主催による六十年代「青少年芸術劇場」は、八月六日熊本県牛深市、八日長崎県大村市、九日佐賀県武雄市、十日山口県光市で行われた。公演は、能「船弁慶」と狂言「附子」。

信玄袋

熱田余話(四)、名古屋最初の謡曲本放送

熱田余話の四回目は最近の八熱田V周辺記事。日々の名古屋の芸能(芸術)・文化情報の浅深の流れのなから能・狂言に因縁することの三・四を記録にとどめた。主として近々の新聞資料からその流動と固定のすがたを。

「附子」シテ元秀の鶴鶴にのみ、自己を主張して止まないシテとアドであつてみれば、もう少しく強い展開になると思つたが、意外に早いテンポでさらさらと進んだ。本来粘っこい三郎と幸四郎の脂がけたとは思われぬが、上方の一つの特徴であるやわらか味・軽妙さを狙つた舞台だった。(19分)

二井栄逸師画抄集 '86能画カレンダー
ご好評を頂いております'86能画カレンダー
B4(タテ51.5cm×ヨコ38.0cm)表紙とも7枚の美麗カレンダーです。
◎予約特価 1部 1100円、郵送の場合送料とも1部1450円(2部以上の場合、部数に拘らず送料は一括500円)
◎予約申込み期限 10月5日(それ以後は1部 1800円、ただし部数によりお応えできない場合がありますのでご理解下さい)
◎お申込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へお申込み下さい。代金は振替、切手、現金書留いずれも結構です。
申込み先 能楽の友社
〒464 名古屋市中千種区千種2-18-18 電話(052)731-7984
振替口座 名古屋 0-36393

帯の一つ。新古の伝統、古風なよさを残す古典的な街のたたずまいに心温まる。もつともこの道も少しづつ変貌を重ねているが、名古屋本丸御殿の復元調査。朝日六・四。明治初年に行われた二の九御殿の仕末のされ方もあわせて調査された。能舞台がどうなつたかも。右の大別三つの場所(地区)は、名古屋能楽散歩上大きな位置を占める。因みに建中寺の総門も大修理。これは六・八の朝日。また名古屋東部の地域が町並み保存地区に指定される。中級武家屋敷跡である。朝日五・二八。大須真福寺文庫展・名古屋博物館。六・十六・十七・十五。国宝・古事記真福寺本をはじめ百三十二点。主催、博物館。真福寺宝生院。中日ほか。かつて宝生院で拝観したときより、松村博士に同道で、そのとき尾崎久弥先生も来ておられた(故人)。尾崎先生の蔵書(今は迷左文庫蔵)が大部の全果で出版中と云く。マイクログラム版、雄松堂。委細別記。展覧会では中日六・十五。珠玉。注文はありますが、この放送は、正しです。

名古屋観世会

名古屋観世九臈会定期能(納会)

節分

伊藤 幸子 西野 彰恵
村松 敦子
鷲見 政行 佐藤 友彦

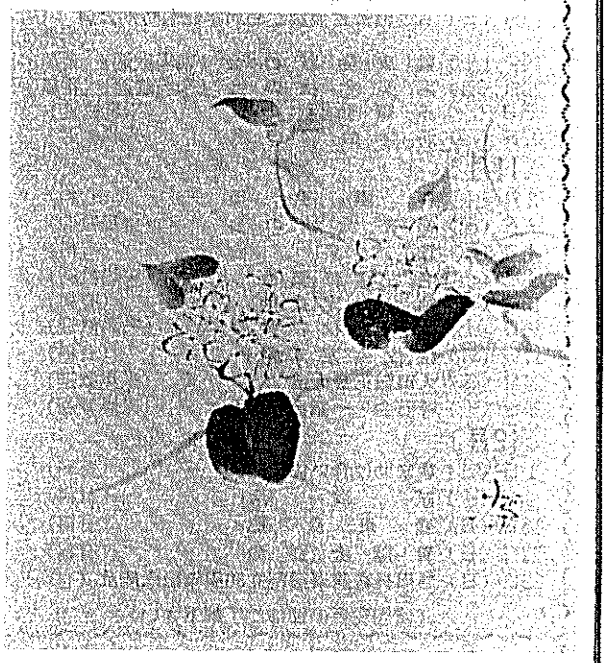
五月雅日記

ムシカリの花と縫箔

えと文 二井 栄 逸

去年の春のこと。ムシカリを描いて見たかったので、花屋に頼んでおいたら、ハクサンボクやガマズミ等も一緒に添えて、ムシカリの大枝を運んで来てくれた。ほんとは、新聞社から頼まれていた季節のいけばな講座の写真をとりたかったのと、能装束の模様の参考にしたかったためであった。

積古先の旧家で見せて貰った縫箔のムシカリの模様が、あまりにも素晴らしいので、頭から消えない。その装束はまだ世に出ない筈である。すくく印象的であったので、もう一度、ほんものを写生しておかなければ、と思つたからである。



横に長く長くのびる枝に、一對の葉をつけた短枝を並立させ、頂に散状の花序をつけるのも風変わりである。山の残雪にみがかれ清流に洗われたような白い花が咲いているところを見ると、誰しも見とれてしまふのではないだろうか。

「能の楽しみ方」講座 名古屋市天白社会教育センター 名古屋市天白社会教育センターは、六十年度講座として「伝統芸能・能の楽しみ方」をテーマに、六回にわたって開催する。

本紙では、毎年謡曲名所めぐりのバス旅行を実施しておりますが本年は、源平合戦八百年にあたる「大原御幸」ゆかりの観光地などで洛北を訪ねる「紅葉の秋」をテーマとし、十月十一日(日)洛北大原を訪ねる

セントラル「新能」盛會 師、梅田邦久師主宰の企画・構成で行われたが、都会の真ん中で「新能」を上演し、観客を驚かせた。

幸謡会秋季大会

九月二十九日(日)午前十時始

素謡 葵	上	村井 邦子	太田 静江	須賀原淑子
速吟 玉之段	段	本多 弘	加藤マサ子	荒川志子
駒之段	段	杉浦 幸枝	大見富美子	杉浦 ユキ
素謡 松	風	川越 糸子	谷野 博	
素謡 清	巻	須賀原淑子	草子洗小町	田中 米子
素謡 隅田川	川	上田 千代	安藤 文子	
仕舞 三	輪	川越 糸子	羽 衣	松林 静子
女	花	太田 静江	笹 之	竹本百合子
能野	宮	飯富 雅介	河村総一郎	藤田六郎兵衛
	合掌留	野村又三郎	福井啓次郎	

名古屋皐楽会秋季大会

十月六日(日)午前十時始

素謡 求	塚	入山千代子	観世喜之	
素謡 龍	田	深見 一枝	野 宮	水野あや子
弱法師	芝村	栄枝		
番外	白楽	天 近藤 幸江	河村総一郎	鬼頭喜太郎
	番外	砂 谷野 博	福井啓次郎	藤田六郎兵衛

邦謡会秋の会

十月十日(祝)午前九時半始

素謡 通小町	山本 泉	都築 健二		
江	口	今沢 美和	水野美代子	
大原御幸	小田 暹子	深川寿美子	早川 順子	
梅	郡ヶせ 磯谷 行雄	花 山本 泉		
仕舞 半	源氏供養	竹中 洋子	福井啓次郎	西部 恵司
班	女	高沢寿美子	福井啓次郎	宮川 千寿
素謡 菊	童	西川喜代子	福井啓次郎	藤田六郎兵衛
素謡 卒都婆小町	女	須田 豊子	福井啓次郎	藤田六郎兵衛
姨	捨	小野田正子	坂野 嘉子	
仕舞 氷	室	丸井 寿子	坂野 嘉子	
素謡 三	輪	井上 菊枝	後藤孝一郎	藤田六郎兵衛
素謡 大江山	象	二木 輝子	後藤孝一郎	藤田六郎兵衛
素謡 実	盛	坂野 富子	吉田 定男	藤田六郎兵衛
素謡 正	尊	西矢 義雄	田中 純一	

名古屋観世会 創立三十五周年 記念別会

十月十三日(日)二部別公演

「御来場歓迎」 主催 名古屋観世会

「御来場歓迎」 主催 邦謡会

「御来場歓迎」 主催 邦謡会

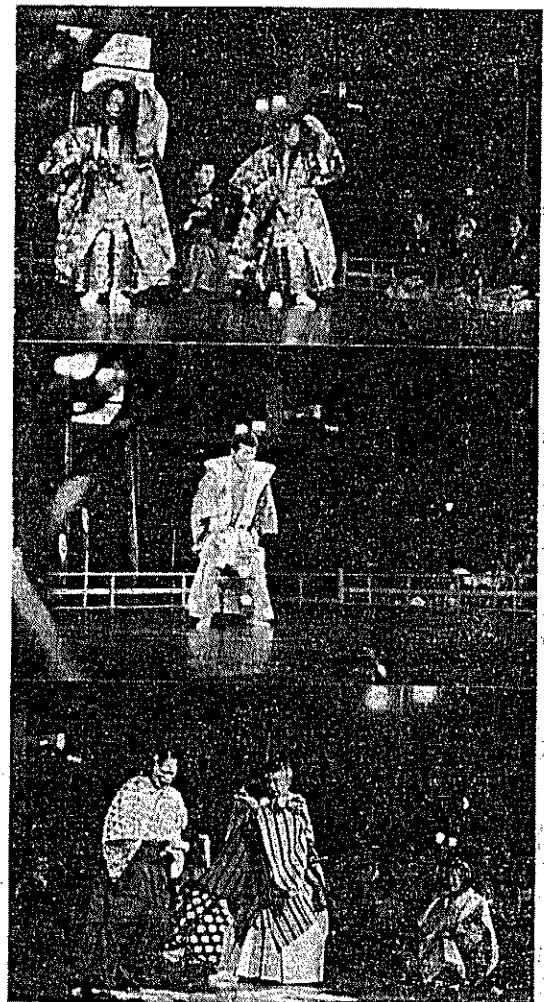
素謡 正	起請文	老 梅田 邦久	吉田 定男	上田 悟
素謡 養	水波之伝	半田 智子	藤田六郎兵衛	
番外	水波之伝	半田 智子	藤田六郎兵衛	
素謡 求	塚	入山千代子	観世喜之	
素謡 龍	田	深見 一枝	野 宮	水野あや子
弱法師	芝村	栄枝		
番外	白楽	天 近藤 幸江	河村総一郎	鬼頭喜太郎
	番外	砂 谷野 博	福井啓次郎	藤田六郎兵衛

個性・演劇性「第五回・六十年...」
一月八日(水)「能の音楽について」
藤田六郎兵衛、久田舜一郎、
で「大原御幸」ゆかりの御光院な
ど洛北を訪ねます。紅葉の秋、お
誘い合わせご参加下さい。
●定員 四十八人 (※申込み多
○五二一七三一一七九八四)
振替口座 名古屋013639

「新能」盛會

3千人越える観能

名古屋・栄のフアッション・ブ
ロムナード、(特)セントラルパーク
では、創立七周年の特別イベント
として、八月三十日、セントラ
ル広場で「新能」を開催、「能」
狂言に親しむ会」(藤田六郎兵衛



師、梅田邦久(主審)の企画、構
成で行われたが、都会の真中で
「新能」としてつよい関心をあつ
め、三千人を越える人の波で、文
字通り立すの余地のない観客で
埋まり、大きな話題になった。
能組は、能「猿々乱」双之舞、

「恋重荷」

10月7日 能を語る会

毎回好評を博している「能を語
る会」は、きたる十月七日(月)
名古屋・栄の名古屋市教育館で、
「恋重荷」をテーマに、大槻文蔵
氏の講師で行われる。午後一時半
から四時まで。会費千円。
申込みは、藤田六郎兵衛方(電
話〇五二一七三一一七九八四)

観能 原作の詩心に迫る

舞囃子「智恵子抄」

八月十八日に熱田神宮能楽殿で
「舞囃子七番」が催されました。
出演者は観世鏡之丞、眺夫、片山
九郎右衛門、慶次郎、大槻文蔵、
武田志房、野村四郎、梅田邦久、
野村耕介ら、東西、中京の精鋭を
すぐれた豪華版で、演技以上の充
実感がありました。

その純粋さは演出にも及んで、
不要なもの全部切り捨て、直接
原作の詩心に迫ろうとする表現意
欲はいかにも秀夫式で(誰の型付
かは別として)、「新しい幽玄」
をねらった野心のようなものが感
じられました。またそれがあがる程
度成功していると思えました。た
だ、いささか純粋過ぎて、純粋培
養の透明さ、清らかさと同時に
ひ弱さ、おさなさを感ぜないでも

七番の中では、なんと「観世
鏡之丞の「遊行柳」、九郎右衛門
の「卒都婆小町」が芸力の円熟、
芸術の高さで断然光っていました
が、「乱」(双ノ舞)で、志房、
四郎両人の研を競う舞いぶりの面
白さ、楽しさ、久しぶりに酔心地
にさせられました。歌舞伎の孝夫
玉三郎のコンビではありませんが
はなやかな若いスター気分の溢れ
た舞台は、能の世界ではちょっと
珍しい拾いもののように思いまし
た。

今日の舞台(慶次郎の光太郎、
眺夫の智恵子、地頭鏡之丞)から
は、初演の舞台をしのぶよすがも
ありませんが、これは新作能「智
恵子抄」の一節とみるよりは(た
といそであつたとしても)、新
作舞囃子「智恵子抄」という独立
した作品として鑑賞するのが至当
のように思います。原作そのもの
が、断章の集合体のようなもので
すから、そのうちの二章一風にの
る「智恵子」と「千鳥と遊ぶ智恵子」
を舞でつないだ構成は巧者で、原
作のひたむきな愛情の純粋さは、
むしろ舞囃子でこそという印象を
強くしました。

二井栄逸師画抄集 '86 能画カレンダー

ご好評を頂いております'86能画カレンダー
B4 (タテ51.5cm×ヨコ38.0cm) 表紙とも
7枚の美麗カレンダーです。
● 予約特価 1部 1100円、郵送の場合送料とも1部
1450円 (2部以上の場合、部数に拘らず送料は一括
500円)
● 予約申込み期限 10月15日(それ以後は1部 1800
円、ただし部数によりお応えできない場合があ
りますのでご理解下さい)
● お申込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へ
お申込み下さい。代金は振替、切手、現金書留
いずれでも結構です。
申込み先 能楽の友社
〒464 名古屋市千種区千種2-18-18 電話(052)731-7984
振替口座 名古屋 0-36393

名古屋能楽協会 創立三十五周年 記念別会

十月十三日(日) 二部制公演
熱田 神宮能楽殿
第一部(十時開場/十時半開演)

観世 元正
輪 宝生 間 山本 孝
白式神楽 大倉源二郎 杉 市和
井上松次郎

後見 武田 志房 地頭 浅見 重好 梅田 邦久
関根 祥六 武田 邦弘 岡野 村久
久田 敬二 大槻 文蔵 久田 敬二

因幡 堂 野村又三郎 佐藤 友彦 後見 大野 弘之

久田 敬二 大槻 秀夫 吉田 定男 助川 竜夫
西村 欽也 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛

後見 小島 一英 地頭 今村 嘉親 中川 雅章
親世 喜之 田中 武 山本 勝文 宗和

片山九郎右衛門 森 茂好 筑 誠一 赤井 啓三
一度之次第 常好 久田 舜一郎

後見 梅田 邦久 地頭 浅見 重好 武田 邦久
親世 元正 井上 裕久 関根 祥六 宗和

竹生嶋 参 井上松次郎 大野 弘之 後見 佐藤 友彦

道 明 寺 藤井 徳三 藤野 戸 親世 清和 安藤 邦弘
野村 四郎 武田 志房 岡野 村久 久田 敬二

武田 大和 河村 総一郎 親世 元信
梅田 邦久 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
親世 元正 野村 又三郎

後見 野村 四郎 地頭 高橋 敏和 小島 一英
野村 又三郎 本村 美子 藤田 六郎兵衛
久田 敬二

主 催 邦 田 西 久
主 催 邦 田 西 久

猶惠会二十周年記念大会

十月十九日(土) 午前九時半始

熱田 神宮能楽殿

吉野 天人 本村 美子 熊沢 恵美子
経 正 今野 好子 岡田 晃一
葛 城 近 信子 池内 幸三郎

仕舞 紅 葉 安田 美子
丸道行 中嶋 玲子
北ヶ七 丹羽 智子
花 仲 頼 範子

盛 弱 法 師 宮崎 勝二 梅若 修一
久 加藤 七兵衛 梅若 善高
子方 水野 恵子 梅若 善久

隅 田 川 河合 すみ子 岡田 朗
波 山本 康子 鬼頭 喜太郎
清 経 日下 すみ子 後藤 孝一郎 鹿取 希世
松 風 金野 克子 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛

羽 衣 谷 節子 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎
和合之舞 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛

菊 童 杉浦 一枝 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
絹 錦木 ふく 後藤 孝一郎 鹿取 希世
永田 勝一 後藤 孝一郎 鹿取 希世

仕舞 鶴 水野 恵子
川ヶ七 藤原 佑子
源氏 供養 石川 良子

胡 蝶 萩野 ちとせ 後藤 孝一郎 鹿取 希世
小 督 斎藤 妙子 後藤 孝一郎 鹿取 希世
雲 雀 山 長谷 みつ 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛

班 虫 福山 智恵子 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
松 女 河辺 あき 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛
雲 林 加藤 恵美子 後藤 孝一郎 鹿取 希世
海 士 小川 美愛 後藤 孝一郎 鹿取 希世

養 老 熊沢 恵美子 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛
水波 後藤 孝一郎 鹿取 希世

主 催 熊 沢 恵 美 子 会

武田小兵衛傘寿記念 武田謡楽会秋季大会

十月二十日(日)午前九時始

熱田 神宮能楽殿

素謡神 歌 武田小兵衛 武田大和

連吟枕 之 段 武田邦弘 武田 大和

後 寛 高橋 茂樹 高橋 三郎 高橋 三郎

舞臺子 西 王 母 高橋 千紗 草子洗小町 川端 栗

仕舞 大江 山 野村 美子 羽 衣クセ 鈴木 紀子

花 五 萬 北条 由美子 月クセ 小林 富美代

舞臺子 敦 盛 長谷川 嘉洋 弱法師 大塚 幸二

玄 象 北田 尚子

仕舞 經 正キリ 中永 悠子 笹之 段 舟越 多賀栄

殺 生 石 笠原 智寿子 鼓 伊東 達子

舞臺子 小 占 督 毛利 喜久男 葛 城 松隆 真澄

歌 之 段 洲崎 文彦 忠 度 井村 誠一

仕舞 笠 之 段 榎本 秀樹 山 純キリ 横川 祐三

雨 之 段 長谷川 徳次

子 武田 大志 同 青木 道喜 牧野 和夫 横本 道道 久田 敬二 鈴木 徹二 榎本 信男

舞臺子 安 宅 西村 欽也 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛

舞臺子 芦 刈 後藤 とき 竜 田 田中 萬子

舞臺子 乱 今村 香

舞臺子 高 砂 上野 典子 唐 船 高木 宏子

船 弁 慶 小瀬 吉代子

池田 雅雄 高安 勝久 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 六郎兵衛 佐藤 友彦 野村 文三郎 佐藤 友彦 吉井 順一 (終了予定 午後五時半)

能道 成 寺 西村 欽也 柳原 富司忠 藤田 六郎兵衛

番外仕舞 岩 船 吉井 順一

御来場歓迎

葉月の舞台から 「第20回名古屋新能」と「邦謡会」 及び「舞臺子七番・六郎兵衛市芸術奨励賞受賞記念公演」

竹尾 邦太郎

久しぶりに新能を見た。正面席は高低をつけた敷居になっていて、他人の頭越しにという弊は多少数えられるであろう。それにしてもこの新能人気、舞台機構を云々してその成果を求めるより素直に真夏の風物詩として楽しむのが得策かとは言え生憎ワイヤレスマイクの調子はたまたまならず、シテ・ワキ・地・狂言を問わず声が割れ、突如増幅されるなどして不調であった。能は「威陽宮」「半部」「鉄輪」狂言「蟹山伏」「皮肉なことに能楽殿ではつい睡りを誘われがちな舞台が新鮮であった。シテ邦弘の半能「半部」。白い長絹の仄かに華やいた風情の序ノ舞が薪火に映えて夢幻境であった。(39分)なお、「鉄輪」は前があつてこそ面白いので半能では興を殺される。

信玄袋

熱田余話(徳川美術館と奥村家文書のこと)

熱田余話(徳川美術館と奥村家文書のこと)。現代に生きる大名文化の光輝が各分野から紹介される。七月号開演。一、放送。NHK名古屋が開始六十周年を記念し、同館の幅広い収蔵品を、日本と東洋文化の長い歴史と結び付けながら、丁寧に取り上げる。六回予定のうち八月で三回まで。これまでの三回は室町文化にはじまる大名文化の基盤と高尚な趣味の鑑賞。毎回徳川義経館長と藤村志保さんの優雅・簡潔な対話にゲストの出席で。放送名は「尾張徳川家の遺宝」。(1)家康の遺品と大名コレクションの金ぼう。(2)秀吉の遺品。(3)室町文化の華。第二回ゲスト岡本良一氏。歴史家「秀吉は能の大の愛好者でした」八筆者注、金春流を。藤村さんがやさしく、ねねに宛てた秀吉の手紙を「一段と能も上り快で云々」と語り上げる。

本場に骨を折って貰いたいもので「班女」シテ一政。紅白段草文様の唐織をすっきりと着けた姿は仲々佳い女である。アイ松次郎に呼出され、叱責されて俯き加減の風情にはアイを焦らせたがらさるめめめとした気分がよく出ていた。二部・大政大・太鼓光長を揃え地謡を気心の知れた京都の中堅(雅夫・義孝・邦弘・道喜ら)で固めた。ツレは弟子筋(甫・美和・勝朗)から、ワキは練達の欽也以下雅介・元・アイに弘之といっただ布石で臨んだ。結果はシテと三役の調和が順々目とれ、登場人物が多い割には煩瑣な感じが少しも無く、かつ色々な種類の囃子と舞事を充分堪能した。

「舞臺子七番」催主六郎兵衛が健。足取り確かにすたすたと運ぶところや、ワキとの問答に即座の答付からくるさばさばした対応がワキのちよと勿体ぶったところと好対照を見せた後シテの楽(18分余)は魁偉な相貌に相応しく重々しい中にも律動的で風格充分、囃子も最も最後まで気力横溢懸命に動けたのが好ましかった。ただ欲を言えば前後を通じてさらりと出ないといふ能は、時々取出して第三回のゲストは村井康彦教授(京都女子大)が「茶」の根本にふられ、片山九郎右衛門氏が同館蔵の小面と長絹で羽衣を舞う。多彩である。

「班女」シテ一政。紅白段草文様の唐織をすっきりと着けた姿は仲々佳い女である。アイ松次郎に呼出され、叱責されて俯き加減の風情にはアイを焦らせたがらさるめめめとした気分がよく出ていた。二部・大政大・太鼓光長を揃え地謡を気心の知れた京都の中堅(雅夫・義孝・邦弘・道喜ら)で固めた。ツレは弟子筋(甫・美和・勝朗)から、ワキは練達の欽也以下雅介・元・アイに弘之といっただ布石で臨んだ。結果はシテと三役の調和が順々目とれ、登場人物が多い割には煩瑣な感じが少しも無く、かつ色々な種類の囃子と舞事を充分堪能した。

市民芸術劇場の一環として、能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)名古屋市文化振興事業団、後見・片山慶次郎、小島一英、武田欣司、地謡・矢代寿弥、小野朝、橋本雅夫、中川雅章、加賀敏

秋の清謡会 十月二十六日(土)午前十時始

日本芸術院会員 故橋岡久太郎師二十三回忌追善

面打教室 於名古屋・栄朝日神社
毎週木曜日及び土曜日(月4回)
日本能面巧芸会
会長 林 龍雲
事務局 名古屋市千種区宮根台
2丁目2の8 川村逸夫方
電話 052(721)4687
教室の見学・能面お求めになりたい方
お気軽におこし下さい

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
— 部 70円

演能カレンダー
(熱田神宮能楽殿)
[10月]
19日(土) 雅 惠 会 秋 の 会 (来場歓迎)
20日(日) 謡 楽 会 秋 の 会 (来場歓迎)
26日(土) 清 瀧 会 秋 の 会 (来場歓迎) (番組①面)
27日(日) 淡 文 会 秋 の 会 (来場歓迎) (番組①面)
[11月]
2日(土) 青 陽 会 能 (有料) (番組②面)
3日(祝) 幸 友 会 秋 の 会 (来場歓迎) (内容②面)
4日(休) 和 泉 会 (有料) (番組②面)
9日(土) 名 古 屋 修 風 会 (来場歓迎) (番組②面)
10日(日) 銀 世 会 定 式 能 (有料) (番組③面)
16日(土) 函 花 会 秋 の 会 (来場歓迎) (番組③面)
17日(日) 宝 生 会 定 式 能 (有料) (番組④面)
24日(日) 久 田 銀 正 会 大 会 (来場歓迎)
30日(土) 叶 石 会 ・ 一 蘭 会 秋 の 会 (来場歓迎)
[12月]
1日(日) 歳 末 助 け 合 い 協 賛 能 (有料)
3日(火) 試 演 会 (有料)
15日(日) 豊 陽 会 別 会 能 (有料)
22日(日) 熱 田 神 宮 能 楽 殿 創 立 30 年 記 念 乱 能 (有料)
[昭和61年1月]
3日(金) 能 楽 協 会 名 古 屋 支 部 開 初 式
(能楽協会関係者のみ)
11日(土) 名 古 屋 学 生 能 楽 連 盟 学 生 能 (来場歓迎)
15日(祭) 名 古 屋 清 瀧 会 能 (来場歓迎)
26日(日) 青 陽 会 能 (有料)
(演能変更の際はご了解下さい)

観世流「檀風」
10月19日 福王龍楽観賞会
賞会で復曲上演
福王龍楽観賞会で、観世流として明治以前に廃曲扱いになっていた「檀風」が大平記を出版と併せて、復曲上演される。「檀風」は大平記を出版と併せて、復曲上演される。世阿弥作とされる現在物で、生金剛、喜多の三流で残っているが、観世流では廃曲扱いとして、百年以上上演が絶えていたもので十月十九日、大規模観賞会での「福王龍楽観賞会」で上演。
前シテ(日野資朝) 観世元正、後シテ(熊野権現) 観世清和、子方(梅若) 福王和幸、ワキ(師の)

北国宝生能
石川県立能楽堂で
北国宝生会主催の「秋の北国宝生能」は十月十二日、石川県立能楽堂で開演。能「花筐」(シテ)

市民芸術劇場'85 能「安宅」狂言「靱猿」

11月7日 芸創センターで

市民芸術劇場の二棟目として、能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)名古屋市文化振興事業団、名古屋市教育委員会主催の能公演が十一月七日(木)名古屋市芸術創造センター(名古屋市東区葵一―三)で行われる。
演目は、能「安宅」小昔進雄・酌掛・延年之舞・員立(シテ梅田邦久、子方武田大和、同山・武田邦弘、本田勲、久田徹二、高橋一、清沢一政、須部甫、祖父江修一、安藤勝明、松山幸親。ワキ・西村欽也、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・福井啓次郎、大鼓・河村総一郎、間・野村又三郎、佐藤友彦。
狂言「靱猿」(大名・野村又三郎、猿・井上松次郎、太郎冠者・大野弘之、子猿・石田有賀里、地謡・井上礼之助、佐藤友彦、今枝良治、石田喜樹)
午後六時開演、入場料二千円(全自由席)
入場券は中日ビル、三越、松坂屋、名鉄各プレイガイド、熱田神宮能楽殿(052-267-129)又は出演楽師。

御来場歓迎
附祝言 阿杜 清 田 邦 久 政 会
素舞 玄 若キリ
番外仕舞 若キリ
舞臺子 高 砂 高梨千代子
井 筒 岩田 加代
富士太鼓 小林美和子
融 不破 峰子
仕舞 江 島 口キリ
班 女アト
部 郭アト
祝 象 師長 手島なみ江
附 言 阿杜 神谷 富美

安達原 榎山きよ子
小 督 高木 和枝
素舞 清 經 磯部三枝子
舞臺子 三 待 河野 勁一
松 院 風 手島なみ江
雲 林 院 高橋 千晴
須磨源氏 山口 耕造
番外仕舞 花 上 浅野 愛子
素舞 葵 上 浅野 愛子
舞臺子 高 砂 高梨千代子

秋の清の会
十月二十六日(土) 午前十時始
熱田神宮能楽殿
清 月 飯富 雅介
間 佐藤 友彦
後見 今沢 美和
武田 邦弘 地謡 野田 幹彦
横山 謙次郎 須部 本田 勲
安藤 勝明 祖父 江修一

御来場歓迎
仕舞 唐 竹井 喜信清
番外一調 遊行 柳 橋岡 慈観
主催 名古屋淡交会
稲沢市稲島町二ノ宮六 瀬戸綾子方
電話0587321338八番

独吟 松 風 西尾 伯子
遊 行 柳 曲 西尾三子男山
舞臺子 胡 蝶 瀬戸三津子
独吟 花 籠 狂 北島 良介野
能 衣 西村 欽也
和合之舞 後見 寺井 善助 地謡 北島 良介
後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
舞臺子 融 宮 土屋 美根
仕舞 井 筒 池上 梢
独吟 若 曲 竹井 喜信清
遊行 柳 橋岡 慈観
主催 名古屋淡交会
稲沢市稲島町二ノ宮六 瀬戸綾子方
電話0587321338八番

秋季淡交会大会
十月二十七日(日) 午前十時始
熱田神宮能楽殿
素舞 三 井 寺 梅田 敦津子
山 口 幸 大野 文子
中野 末子
歌 占 森 正一
鈴木 多美子
仲尾 和子
卒都婆小町 大川 雪子 伊藤 さち子
八木 栄子
独吟 梅 枝 ロンギ 斎藤 辰夫 岡 田 川 早川 良
駒 之 段 小川 久夫
仕舞 雨 月 中入 前原 小夜 籠 太鼓 武田 ナナ子
独吟 熊 野 ロンギ 加藤 孝長 五之段 篠原 真次
素舞 頼 政 吉川 信得 河合 正次
独鼓 胡 蝶 中野 末子 瀬戸 三津子
仕舞 羽 衣 切 梅田 敦津子 熊 野 大野 文子
紅 葉 狩 伊藤 さち子 網 之 段 八木 栄子
玉 鬘 大川 雪子 雲 雀 山 山 口 幸
上 鈴木 多美子
独吟 班 女 舞 跡 吉田 富貴松 求 塚 丸山 一郎
独吟 高 砂 吉川 信得 狸 々 森 正一
遊行 柳 曲 西尾三子男山 榎 切 伊藤 篤
舞臺子 胡 蝶 瀬戸三津子 吉田 定男 高井 敏雄
後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
独吟 花 籠 狂 北島 良介野 吉田 定男 藤田 六郎兵衛
宮 切 長沢 三郎

御来場歓迎
流を。藤村さんがやさしく、ねに宛てた秀吉の手紙を一段と能も上り候て云々」と読み上げる。
次は、「奥村家蔵・当道座・平家琵琶資料」について、
武田 田 邦 欣 弘 司 会
武 田 田 邦 欣 弘 司 会
武 田 田 邦 欣 弘 司 会

十月雅日記

七種のこと

二井栄逸

秋の野に咲きたる花を 指折りて かき数うれば 七種(ななくさ)の花

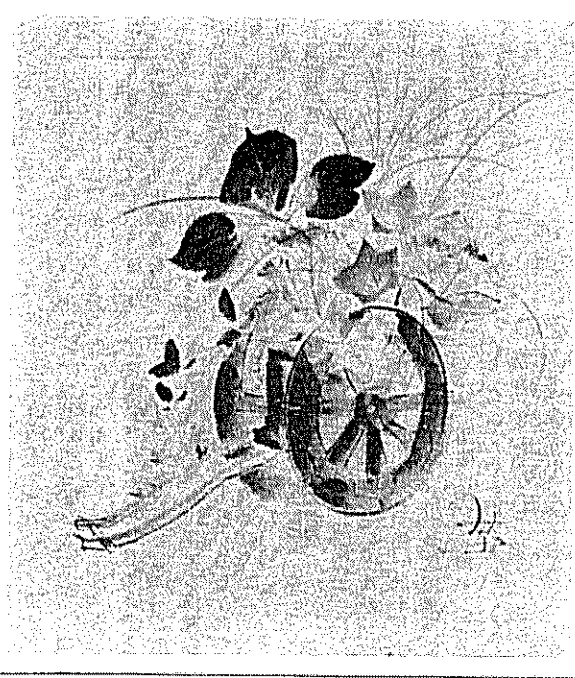
萩の花 尾花葛花 などしこの花 女郎花また藤袴 朝顔の花

秋の野に咲く花々を愛でて詠んだ山上徹良の二種の歌は、誰もが知る歌ですが、今その七種は昔ながらに秋をうたいつづけています。

私は秋になるとよく高原に出かけます。もともと足の不自由な私は、車のお世話にならなければいけない身ですが、高原が好きでじつとしていられないのです。

秋の七種は、やはり徹良の詠み上げた草々が一番よいと思います。し、四季の移り変わりの中に残しておきたい花だと思っています。唯一つ、われもこうが入っていないのが残念です。

一茶の われもこう さし出て花のつ



秋空の下に、尾花や女郎花に交って咲くこの花は、高原によくうつる花なのに、何故、徹良はこの花を詠みこまなかったのでしょうか。若山牧水は、夏から秋にかけて高原に一抹の哀愁をたよわす此の花を

カラスウリ、ヒオウギ、ユウガオ、タデを新七草として発表されましたが、俳味はありますが、私はあまり好みません。又、昭和十年には、ハゲイトウ、コスモス、マンジニナゲ、アカノマンヤ、シユウカイドウ、キク、オシロイバナ、の新七草を発表した人がありました。

茂山忠三郎・狂言の会

福岡、東京、京都、大阪の四都市で

茂山忠三郎・狂言の会は、今秋福岡、東京、京都、大阪の四都市で公演される。福岡(十月二十二日・住吉能楽殿)「水掛燈」「鐘の音」「朝日奈」

黒川能の世界

国立能楽堂で特別展示

国立能楽堂では、十一月二十九日から三日間、「黒川能」が上演される。これが先立って十月十二日から二十一日まで、「黒川能の世界」と題する秋の特別展示を催し、習俗の農民能が伝えてきた能面・能装束等の逸品をそろえて公開する。入館無料。月曜日休館。

大倉長十郎氏逝去

大倉流小鼓方十五世宗家

大倉流小鼓方十五世宗家・大倉長十郎氏は、九月十六日午後零時五分、心不全のため熱海市の所記念病院で逝去された。享年六十歳。告別式は二十五日午後二時から大阪府吹田市山崎五十九の千里会館で大倉流流葬で執り行われた。

青陽会能

十一月二日(土) 十二時半始 熱田神宮能楽殿

- 仕舞 正キリ 今沢 美和
- 羽衣 衣キリ 服部 紗枝
- 籠太鼓 前野 郁子
- 加賀 敏彦
- 加藤 保彦
- 安藤 勝彦
- 今村 喜勇
- 虫 高安 勝久
- 河村真之介
- 後藤孝一郎
- 鹿取 希世

- 仕舞 村キリ 松山 幸親
- 三輪 須部 甫
- 車 本田 敷
- 祖父江修一
- 高木美智子
- 飯富 雅介
- 高安 勝久
- 杉江 元
- 丸 飯富 雅介
- 河村 大
- 福井啓次郎
- 森本 重一

- 狂言 大名 井上松次郎
- 佐藤 友彦
- 井上礼之助
- 仕舞 宮 久田 徹二
- 山 姥キリ 中川 雅章
- 小島 一英
- 杉江 元
- 飯富 雅介
- 柳原富司忠
- 池田 恵茂

- 後見 近藤 幸江
- 梅田 邦久
- 地謡 今沢 美和
- 安藤 勝彦
- 本田 敷
- 加藤 保彦
- 加藤 敏彦
- 後見 生駒 里翠
- 武田 邦弘
- 地謡 高木美智子
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 生駒 里翠
- 武田 邦弘
- 地謡 高木美智子
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 生駒 里翠
- 武田 邦弘
- 地謡 高木美智子
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 生駒 里翠
- 武田 邦弘
- 地謡 高木美智子
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 生駒 里翠
- 武田 邦弘
- 地謡 高木美智子
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

和泉会別会

十一月四日(休) 午後一時半始 熱田神宮能楽殿

- 蜘蛛盗人 和泉 元秀
- 大般若 和泉 元秀
- 三人片輪 井上松次郎
- 井上礼之助
- 本多 静雄
- 武田 大志
- 久田 徹二
- 河村真一郎
- 福井啓次郎
- 勘川 茂夫
- 藤田六郎兵衛

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

- 後見 須部 甫
- 中川 雅章
- 地謡 安藤 勝彦
- 本野 郁子
- 祖父江修一
- 中川 雅章
- 加藤 敏彦

各地だより 大規模能楽堂 梅猶会定期能 12月1日 大規模能楽堂 梅猶会定期能の本年度 大阪 設楽回は十二月一日、大

新作能面展 第7回 朝日カルチャーセン ター面打ち教室

紅葉狩 佐藤 敏子 河村 大 藤田六郎兵衛

名古屋幽花会二十周年記念 秋季大会

各地だより

大阪 大槻能楽堂の自主公演... 梅嶺会定期能... 朝日カルチャーセンター...

大槻能楽堂 自主公演

大槻能楽堂の自主公演... 能は、五十九年四月から行われ、本年は毎月第二水曜日の夜公演ととも一月から隔月に昼公演を加えて通算十八回の公演で、多くの能楽ファンに期待をこたえている。

梅嶺会定期能

梅嶺会定期能の本年度最終回は十二月一日、大槻能楽堂で上演される。...

朝日カルチャーセンター

朝日カルチャーセンターの林龍雲師指導の面打ち教室による新作能楽展が、十月二十日(日)から二十六日(土)まで同センター朝日ギャラリー(中区栄・丸栄スカイル10階)で開かれる。...

観能 新演出の「安達原」

久田徹三リサイタルが九月二十八日夜、名古屋芸術センターで開かれました。劇場での能の「リサイタル」は名古屋ではじめて。...

新作能楽展

朝日カルチャーセンターの林龍雲師指導の面打ち教室による新作能楽展が、十月二十日(日)から二十六日(土)まで同センター朝日ギャラリー(中区栄・丸栄スカイル10階)で開かれる。...

新刊紹介

「宝生流のはなし」 わんや書店から刊行 わんや書店からこのほど、改訂新版「宝生流のはなし」が刊行された。...

宝生流のはなし

新刊判、百三十六頁、宝生流の歴史、現況、特長はじめその全容について詳述されている。...

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ! 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ! 当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きっとご満足いただける自信があります。

私にこうした新演出に頭から異議を唱えるものではありません。こうして試み、しばしば行われ時代の必然性もわかります。...

御来場歓迎 主権 幸友会

御来場歓迎 主権 幸友会

御来聴歓迎 主権 名古屋修一

御来聴歓迎 主権 名古屋修一

名古屋観世会定式能(五回) 十一月十日(日) 十二時半始 熱田神宮能楽殿

名古屋幽花会二十周年記念 秋季大会 十一月十六日(土) 午前九時始 熱田神宮能楽殿

名古屋宝生会定式能

十一月十七日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

実
内藤 泰二
盛 高安 藤久 雅介
杉江 勝元 後藤 孝一郎
吉田 定男 助川 竜夫
佐藤 耕司 地謡 富田 正代司
寺部 一蔵 馬場 富四夫
宇野 重一

松
後見 吉田 俊彦 地謡 富田 正代司
佐藤 耕司 宇野 重一
馬場 富四夫

野
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

車
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

羽
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

紅
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

葉
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

狩
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

昆
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

布
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

赤
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

附
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

祝
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

言
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

主
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

権
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

名
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

古
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

屋
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

宝
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

生
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

会
佐野 能 衣 西村 欽也
筑井 啓次郎
藤田 六郎兵衛

60年10月・11月放送予定

〔10月〕NHK・FM放送(日曜日午前8時~9時)
20日(日)宝生流「阿彌」「車儀」金井章ほか
27日(日)親世流「種風」(復曲)親世元正
福王茂十郎ほか

〔11月〕
能楽名演集(FM午前7時15分~8時)
2日(土)NHK放送ライブラリーの録音により、名
9日(土)人の名演を聞く。
能楽鑑賞(8時~9時)
(11月3日・10日はFM週間のため休止)
17日(日)親世流「碁」梅若万三郎ほか
24日(日)金剛流「鼓」金剛巖ほか
NHK教育テレビ(午前9時~10時30分)
11月4日(午前9時~10時30分)
能(喜多流)「三井寺」友枝喜久夫
鶴木 岑男
11月23日(午前9時~10時)
能(金春流)「鉄輪」金春 信高
西村 欽也

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

「観世会」「九皇会」「舞雲会」

竹尾 邦太郎

「小音」片折戸に柴垣が立て
廻されるときは山居の住む住い
である。そこにツレ小音(邦弘)
とトモ侍女(雅章)が夫々菊と紅
葉文様の紅地唐織でひっそりと慎
ましく居る風情は秋風落葉の中に
も華やいた。シテ仲間は慈観。風
打鳥帽子・背地金葉平菱文様狩衣
(露紫)・白大口。勅命を得て久
しぶりに野駈けをする自由な気分
は、肩を上げ軽やかに舞入る
駒ノ段に溢れた。勅命を果して舞
う男舞は、肩を下して寛いだ余裕
がゆつたりとした風格を見せ、鳥
帽子と狩衣の色目のせいか暫時天
下泰平を帯く翁の舞を感じさせた
(61分)

「魚説法」シテ弘之のいけし
やあしあとした生果説法がその
無頼着ゆえにアド松次郎を徒らに
挑発すれば、松次郎は頭から湯気
を出さんばかりの激怒である。弘

能友随想

一三つの記念の年

今年、昭和六十年は名古屋親世
会結成三十五周年記念、名宝会館
開館五十周年、御園座創立九十周
年記念の年に当る。めでたい。

親世会は松坂屋ホール仮設舞台
で始まり三十五年、後の二つの劇
場では記念すべき大能が終戦の二
十年の秋以来催されている。

名古屋親世会のこと。
昭和二十七年一月十七日が同会
の第一回演能の記念すべき日。初
演は二十七年であるが、創立の集
会は前年に催されたことと推察する。
当時私が評判記を寄せていた新
聞・新東海(朝日系)に、
名古屋親世会が出来た。若い家
元・元正(敬称略、以下同じ)を
中心に二年二回の能と二回の素謡の
会に地元の名師と東西の大家の出
演。一つの方向に親世による伝統

立つて扇を逆手にぐっと下を指し
て強く拍子を取った。キリで、ハ
の悠久のたずまいを踊らう。閑
々とした恋慕を舞う官能的な
狂。寂々とした笛に夢遊病者の
ように彷徨うイロエ。喜の芽え
た感覚に支えられた王朝ロマンで
はあったが、年端も行かぬ子方は
気の毒。狂わんばかりの恋の対象
が舟を漕ぐ状況はどうみても面白
くない。(1時間18分)

「粟焼」焼上げてから(和泉
流)食うか、焼上げながら(大蔵
流)食うか、といえは前者の方が
刺戟的と言えらう。シテ松次
郎の、「みな食うだ。」にはぞん
ざいで自棄っぽいな口吻があり、
「どこやらが恵美須げな人ぢや。」
の口裏には主を御し易いとする気
分が明白で、「算用(さん)によ
う」といふものは明らかにもち
や。と在るべき二・三個に固
執するアド礼之助の横直さに松次
郎の憎らしさが際立った。(29分)

「狸々」シテ保護。地との掛合
はやや興奮気味で酔いがまわり切
らぬか……。ハ月星は限もなき
とワキ正で前置取って見上げる辺
りの謎かさは誠実だが、手堅く舞

久田親正会秋季大会

上田照也師 一周忌追善
亡父久田秀雄

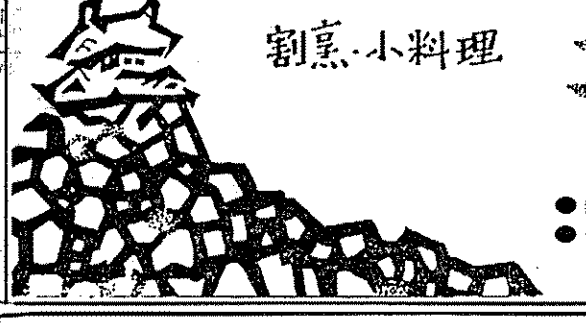
医療衛生用品総合商社
八神商事株式会社

取締役社長 八神 幸一

本社 〒460 名古屋市中区丸の内三丁目11ノ4
電話 (052) 971-8671番 (代表)

営業所 西・熱田・名東・関東・静岡
沼津・浜松・岡崎・岐阜・津

●熱田神宮 能楽殿 喫茶部
●住吉小路 (中区栄3-10)
電話 241-0248



割烹・小料理 城

歳末助け

五百五十円が寄付された。

久田親正会秋季大会

鬼頭喜太郎 鬼頭喜太郎 鬼頭喜太郎

面打教室 於名古屋・栄朝日神社
毎週木曜日及び土曜日(月4回)

日本能面巧芸会
会長 林 龍 雲

事務局 名古屋市千種区宮根台
2丁目2の8 川村逸夫方
電話 052(721)4687
教室の見学・能面お求めになりたい方
お気軽におこし下さい

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)

電話 (731) 7984
振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

演能カレンダー
(熱田神宮能楽殿)

[11月]

16日(土) 幽花会秋の会 (来場歓迎) (有料)

17日(日) 宝生会定式能 (有料)

24日(日) 久田観正会大会 (来場歓迎) (番組①面)

30日(土) 叶石会・一願会秋の会 (来場歓迎) (番組①面)

[12月]

1日(日) 歳末助け合い運動協賛能 (有料) (番組②面)

3日(火) 能・狂言に親しむ会試演会 (有料) (番組②面)

15日(日) 豊泉会能 (有料) (番組③面)

22日(日) 青陽会別会能 (有料) (番組③面)

29日(日) 熱田神宮能楽殿創立30周年記念乱能 (有料)

[昭和61年1月]

3日(金) 能楽協会名古屋支部開初式 (能楽協会関係者のみ)

11日(土) 名古屋学生能楽連盟学生能 (来場歓迎)

15日(祭) 清韻会・風韻会 合同能 (来場歓迎)

26日(日) 青陽会能 (有料)

[2月]

2日(日) 宝生会定式能 (有料)

9日(日) 観世会定式能 (有料)

16日(日) 名古屋九草会定式能 (有料)

23日(日) 春 鼓 会 (来場歓迎)

[3月]

9日(日) 大 蔵 狂 言 会 (来場歓迎)

16日(日) 名古屋梅会能 (有料)

21日(日) 日本能楽会公演 (有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

宝生流 近藤乾三氏
文化功労者顕彰

今年度の文化勲章と文化功労者が十月二十九日発表され、能楽界では、文化功労者に、宝生流シテ方・近藤乾三氏が選ばれた。

近藤乾三氏は九十四歳。重要無形文化財保持者(人間国宝)昭和三十四年芸術院賞受賞、五十二年芸術院会員。能楽界の最長老で、文化功労者のなかでも歴代二番目の高齢で選ばれた。

文化功労者の顕彰式は、十一月五日午前十一時半から東京・霞ヶ関の国立教育会館で行われた。能楽界では、これまで文化勲章受賞者として、昭和二十一年に故

大蔵流 茂山千五郎氏
紫綬褒章を受章

六十一年秋の褒章受賞者は十一月三日付で発表され、文化、学問、芸術の分野で功績のあった人に贈られる紫綬褒章を能楽界から大蔵流狂言方・茂山千五郎氏が受賞された。

茂山千五郎氏は、大正八年十二月二十八日、茂山千作氏の長男として生れ、大正十二年初舞台、昭和三十八年大阪文化祭奨励賞受賞、四十二年文化庁芸術奨励賞受賞、同五十七年芸術選奨文部大臣賞受賞、狂言の第一線演者として東西に活躍している。

歳末助け合い運動 協賛能
能楽協会名古屋支部が主催

12月1日 能4番・狂言2番

能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)主催による昭和六十年年度の歳末助け合い運動協賛能は、きのう十二月一日(日)熱田神宮能楽殿で、能四番、狂言二番ほか仕舞など協会支部能楽師の出演で開演された。

この助け合い運動は、協会名古屋支部主催で毎年開催されており、ことし第十七回目、昨年は愛知県、名古屋市へそれぞれ二十一万二千七百七十五円、合計四十二万五千五百五十円が寄付された。

ことしの演能は、宝生流能「巴」(シテ戸田和) 観世流能「巻箱」(シテ中川雅章、ツレ中村和男) 観世流能「芦刈」(シテ加賀敏彦、ツレ生駒里翠) 喜多流能「野守」(シテ長田誠)

狂言は「文山殿」(佐藤殿、佐藤友彦) 「太刀奪」(野村信行、大矢高義、野村又三郎)

仕舞・金春流「竜田」(前田茂穂) 観世流「楊貴妃」(服部紗枝) 金剛流「清経」(吉川周子)

午前十時半始、入場料千五百円(全自由席) 前売券は各出演楽師宅にて。(番組②面掲載)

久田観正会秋季大会
十一月二十四日(日)午前九時半始

舞臺子	盛 放	山 熊	獨吟	舞臺子	善 知	舞臺子	西 王	舞臺子	經 正	舞臺子	善 知	舞臺子	西 王	舞臺子	經 正	舞臺子	善 知	舞臺子	西 王	舞臺子	經 正
久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進	久小曾進
福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎	福井啓次郎

一謡会・叶石会秋の会
十一月三十日(土)午前十時始

舞臺子	龍 養	葛 阿	羽 弱	安 融	舞臺子	卷 政	舞臺子	紅 葉	舞臺子	龍 養	葛 阿	羽 弱	安 融	舞臺子	卷 政	舞臺子	紅 葉
木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田	木老田
藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛	藤田六郎兵衛

会に地元の師匠と東西の大家の出演。一つの方向に観世による伝統

という現代にも通用する高佳の随想が載る。なつかし。実は私の手

久田観正会秋季大会(横濱久田)、名古屋でも同追善会(橋岡慈観、ただし二十七日)、京都で種田

野村庄二

熱田能楽殿で「新作能」2題

能・狂言に親しむ会

12月3日「雪女」上演

新しい、若い人たちに能の魅力... 新作品「雪女」は、民話、伝説を基調した梅田邦久師の創作により...

能による「半獣神の午後」

12月15日 壺泉会能で上演

壺泉会（泉嘉夫師主宰）は、十二月十五日（日）熱田能楽殿で壺泉会能を開催、能「錦木」とともに、能による舞台詩「半獣神の午後」が上演される。

戸田公入城三五〇年祭協賛 12月1日大垣狂言の会 和泉宗家後援会が主催

大垣城主・戸田公入城三五〇年祭協賛公演として、十二月一日（日）「大垣狂言の会」が和泉宗家後援会・大垣友の会主催により...

「能・狂言に親しむ会」は、藤田六郎兵衛氏の積極的な活動により... 「能・狂言に親しむ会」は、藤田六郎兵衛氏の積極的な活動により...

「半獣神の午後」は半獣神（上半身が人間で、下半身は山羊で、角と蹄を持つ姿をしていると考えらる）...

「半獣神の午後」は半獣神（上半身が人間で、下半身は山羊で、角と蹄を持つ姿をしていると考えらる）...

「観世流南条秀雄氏 逝去」 観世流シテ方、日本能楽会会員、南条秀雄氏（本名・興村秀雄）は十一月十日午後零時二十六分、心筋こうそくのため、大阪府箕面市筋六丁の自宅で歿された。享年六十四。

「観世流南条秀雄氏 逝去」 観世流シテ方、日本能楽会会員、南条秀雄氏（本名・興村秀雄）は十一月十日午後零時二十六分、心筋こうそくのため、大阪府箕面市筋六丁の自宅で歿された。享年六十四。

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

「おことわり」本紙連載の二井栄逸氏「青雅日記」は、近く個展開催をひかえて、今号は休載させていただきます。ご了承下さい。 （編集部）

61年度 宝生会定式能 予組

能 野 辰巳 孝
能 小 鏡 治 真
宝 生 英 照

古典芸能特集 CBC文化

壺 泉 会 能

故 久 田 秀 雄 氏 追 善
山 口 亮 氏 追 善
青 易 会 川 会 能

ふな(和泉淳子)「椿」(和泉元秀)
市内各プレイガイドまたは大垣総合福祉会館(電話0584-1771八八八番)
永観堂西町二〇。謹んでご冥福をお祈りいたします。

61年度宝生会定式能

6月に30周年記念能

名古屋宝生会の昭和六十一年度定式能の予定番組がこのほど決定。二月九日を初回として年五回公演される。

昭和六十一年度予定番組

第一回 二月九日(日) 能 神楽留 観世 元正 能 神楽留 観世 元正

第二回 四月十三日(日) 能 通小町 小島 一英 能 白楽天 山本 勝一 能 岡田川 関根 祥六 能 山本順之 片山慶次郎

第三回 六月八日(日) 能 三輪 中川 雅章 能 三輪 中川 雅章 能 半 藤 観世 喜之 能 藤 観世 喜之

第四回 九月十四日(日) 能 善知鳥 武田 邦弘 能 船井慶 武田 志房 能 山本順之 武田 宗和

第五回 十一月九日(日) 能 山本順之 片山九郎右衛門 能 山本順之 片山九郎右衛門

△正会員年四回分・一万三千元 △臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

▽臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

△臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

△臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

61年度観世会定式能

昭和六十一年度の名古屋観世会定式能の予定番組がこのほど決定。二月九日を初回として年五回公演される。

昭和六十一年度予定番組

第一回 二月九日(日) 能 神楽留 観世 元正 能 神楽留 観世 元正

第二回 四月十三日(日) 能 通小町 小島 一英 能 白楽天 山本 勝一 能 岡田川 関根 祥六 能 山本順之 片山慶次郎

第三回 六月八日(日) 能 三輪 中川 雅章 能 三輪 中川 雅章 能 半 藤 観世 喜之 能 藤 観世 喜之

第四回 九月十四日(日) 能 善知鳥 武田 邦弘 能 船井慶 武田 志房 能 山本順之 武田 宗和

第五回 十一月九日(日) 能 山本順之 片山九郎右衛門 能 山本順之 片山九郎右衛門

△正会員年四回分・一万三千元 △臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

▽臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

△臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

△臨時会員一回分・第三回各四千元 △第二回・第四回各五千元

東西の一流揃い

名古屋観世会別会

都築小町(片山九郎右衛門)「望月」

「望月」という芝居、ではない能は、なかなか面白い能ですね。執事と獅子舞を中心とする芝居を織り込んで、見る人をあかせない。世阿弥一辺倒の幽玄能には、俗っぽい劇能とさらわれるかも知れませんが、波乱万丈のドラマを、わずか二時間足らずの中に盛り込んだ手腕は、歌舞伎作者としての腕です。もともとこのために旧主の母子と目指す敵が、一時に泊り合わせるなど、偶然もいとこころですが、これをなんとなくと、不自然と思わせないとこころが能の魔力ですね。

と、突然しゃべりはじめたのでは、おわかりになりませんか。実は十月十三日、熱田神宮能楽殿で行われた名古屋観世会三十五周年記念別会のことです。

一部「三輪」(観世元正)、「恋重荷」(大槻秀夫)、「二部」卒

「望月」という芝居、ではない能は、なかなか面白い能ですね。執事と獅子舞を中心とする芝居を織り込んで、見る人をあかせない。世阿弥一辺倒の幽玄能には、俗っぽい劇能とさらわれるかも知れませんが、波乱万丈のドラマを、わずか二時間足らずの中に盛り込んだ手腕は、歌舞伎作者としての腕です。もともとこのために旧主の母子と目指す敵が、一時に泊り合わせるなど、偶然もいとこころですが、これをなんとなくと、不自然と思わせないとこころが能の魔力ですね。

と、突然しゃべりはじめたのでは、おわかりになりませんか。実は十月十三日、熱田神宮能楽殿で行われた名古屋観世会三十五周年記念別会のことです。

一部「三輪」(観世元正)、「恋重荷」(大槻秀夫)、「二部」卒

古典芸能特集

CBC文化

セミナーズベシヤル

中部日本放送、CBCクラブ主催による第三回CBC文化セミナーズベシヤルは、十二月十四日(土)名古屋・東区の芸術創造センターで催されるが、その第二部(午後六時開演)は「古典芸能特集・雪にのせて」と題して、舞臺子「葛城」を上演、梅田邦久、福井啓次郎ほかの諸師が出演する。このほか長唄「葛城」(西川鯉女)「寒行雪姿見」(山路福生)など。入場料は三千五百円。

翠謡会が伊勢

神宮奉納記念会

中日文化センター・翠謡会(生駒里親師)は、十一月十七日(日)伊勢神宮奉納記念の会を伊勢神宮舞臺で開催。素謡「菊慈童」はじめ連吟、仕舞など三十番を奉納。

壺泉会

十二月十五日(日)午後一時始

十二月十五日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

番組

舞臺子

盛三島 志 寛 敏一 藤田六郎兵衛

地謡 清沢 一政 笠田 徹二 殿島 修二

川上 野村又三郎 佐藤 友彦 後見 大矢 高義

錦木 西村 欽也 河村總一郎 鬼頭喜太郎

泉 泉 雅一郎 井上礼之助 福井啓次郎 鹿取 希世

後見 斎藤 信隆 橋本 幸親 久田 徹二

大槻 秀夫 清沢 一政 笠田 徹二 殿島 修二

藤 戸 大槻 秀夫 地謡 泉 雅一郎 山本 正都子

三島 泰修 朝山 孝二

加藤 春枝 近藤 幸江 大槻 文蔵 小島 久田 徹二

藤田六郎兵衛 久田 徹二

半獣神の午後

十二月十五日(日)午後五時

十二月十五日(日)午後五時

熱田神宮能楽殿

番組

舞臺子

盛三島 志 寛 敏一 藤田六郎兵衛

地謡 清沢 一政 笠田 徹二 殿島 修二

川上 野村又三郎 佐藤 友彦 後見 大矢 高義

錦木 西村 欽也 河村總一郎 鬼頭喜太郎

泉 泉 雅一郎 井上礼之助 福井啓次郎 鹿取 希世

後見 斎藤 信隆 橋本 幸親 久田 徹二

大槻 秀夫 清沢 一政 笠田 徹二 殿島 修二

藤 戸 大槻 秀夫 地謡 泉 雅一郎 山本 正都子

三島 泰修 朝山 孝二

加藤 春枝 近藤 幸江 大槻 文蔵 小島 久田 徹二

藤田六郎兵衛 久田 徹二

故山口亮氏追善

青陽会別会能

十二月二十二日(日)午前十時半始

十二月二十二日(日)午前十時半始

熱田神宮能楽殿

番組

舞臺子

盛三島 志 寛 敏一 藤田六郎兵衛

地謡 清沢 一政 笠田 徹二 殿島 修二

川上 野村又三郎 佐藤 友彦 後見 大矢 高義

錦木 西村 欽也 河村總一郎 鬼頭喜太郎

泉 泉 雅一郎 井上礼之助 福井啓次郎 鹿取 希世

後見 斎藤 信隆 橋本 幸親 久田 徹二

大槻 秀夫 清沢 一政 笠田 徹二 殿島 修二

藤 戸 大槻 秀夫 地謡 泉 雅一郎 山本 正都子

三島 泰修 朝山 孝二

加藤 春枝 近藤 幸江 大槻 文蔵 小島 久田 徹二

藤田六郎兵衛 久田 徹二

能正

追加

追加

全館自由席 三、〇〇〇円

主催 青陽会

後見 藤谷 政二 地謡 今村 嘉孝 小島 拓司

浦田 保利 加賀 敏彦 山田 義高

後見 藤谷 政二 地謡 今村 嘉孝 小島 拓司

浦田 保利 加賀 敏彦 山田 義高

能碓

追加

追加

全館自由席 三、〇〇〇円

主催 青陽会

後見 藤谷 政二 地謡 今村 嘉孝 小島 拓司

浦田 保利 加賀 敏彦 山田 義高

後見 藤谷 政二 地謡 今村 嘉孝 小島 拓司

浦田 保利 加賀 敏彦 山田 義高

能清

追加

追加

全館自由席 三、〇〇〇円

主催 青陽会

後見 藤谷 政二 地謡 今村 嘉孝 小島 拓司

浦田 保利 加賀 敏彦 山田 義高

後見 藤谷 政二 地謡 今村 嘉孝 小島 拓司

浦田 保利 加賀 敏彦 山田 義高

演能通信

久田秀雄、山口亮氏 青陽会追善能

12月22日 熱田神宮能楽殿 青陽会では、故久田秀雄氏、故山口亮氏の追善能を十二月二十二日(日)熱田神宮能楽殿で開催する。

能「清経」(シテ相父江移一、ソレ前野都子) 能「碓氷」(シテ梅田邦久、ソレ近藤幸江) 能「正宗」(起請文(シテ久田徹二) 狂言「呂運」(井上松次郎) はか舞囃子、仕舞など。浦田保利、藤谷政二、武田邦弘の諸氏が来演する。

テーマ「錦木」 12月2日 能を語る会 毎回好評を博している「能を語る会」は、きたる十二月二日(月)名古屋・栄の名古屋市教育

久田徹二「能」リサイタルを観る

竹尾邦太郎

久田徹二「能」リサイタルを観た。会場は名古屋芸術創造センター。客席はホールである。舞台は青いホリゾントの間に金屏風を立てて数舞台を置く。公演趣旨の短い挨拶が正先であり、終って斜め右後方に退ると照明が消え、スポット・ライトが立ってシテ徹二が浮き上がる。独吟「井筒」(12分)は

「能」リサイタルを観ると、歌舞台では足拍子が虚ろで旨くない。型だけならともかく、足拍子が能の重要な音であったり、何となくもたれて軽快さを欠くものもこの辺に原因がある。ところがこの日は、場所柄がどうも第一義として、シテ徹二が順次他役を増やして最後には能一番にもなるのだという過程を見せる企画と

狂言は新作「独り松茸」(21分)シテ千之丞。狂言括弧出立で右腰に腰を下げる。四方九郎を誘うが断られての松茸狩は、蛇に驚き蛙に胆を潰し、懸崖を這っては思わぬ谷の紅葉を愛で、猪(しし)に仰天しながらの採行である。しかも松茸が木に成るものやら地に生えるものやら知らぬ狂言。山

後列には地蔵四人が既に座着いて。館のヒシギで照明がつくと、薄暮の安達原である。ワキ宝生閑・ワキツレ高井松明・アイ茂山千之丞が亡の原を分けるように出ると力強い次第・名宣・道行・着せりフである。ホールを意識してか語も詞も強め強めと切つれがよい。引羽が取り出ると、ひっそりとシテ徹二が居る。赤いスポットに装束は紅色に浮上り、一方右奥天井

持って使用され、巧妙に仕掛けた尻に獲物を持つ冷たい鬼女を主人公とするドラマは見られたが、その印象は「能」とはどうか違ってくる。効果的な管の補助手段は結局ドラマの説明だけに終り、観客のドラマへの介入、即ち観客の想像力を喚起し得なかつた。役者の心理描写や情景描写を照明や効果に頼るようになれば、面白いや型の技術を磨かせることにはならぬだろうか。能が、能面が持っている本来の動きを充分に発揮し得る力量を秘めた好演者二が、今回の「ムード能」の実験を乗り越えて、更に芸術を深めることを祈るや切である。(9月28日・久田徹二「能」リサイタル所見)

信玄袋

名古屋観世会祝賀 能と夏目漱石・草枕のこと

十月十三日は名古屋観世会祝賀能が行われた。結成三十五年を祝って、家元・元正氏を筆頭に元昭氏・片山九郎右衛門氏と大槻秀夫氏で大曲・老女物を並べ、観世能の佳味を広げる。観世能ともいふべき好天であったが、見所は二部とも満席のシテ正面と少々のワキ正面でさみしかった。不可思議である。

を訪れた。新団十郎・助六の出なくともなわぬ河東節(かとうぶし)、江戸邦楽、古曲)の連名に浄瑠璃・十寸見東(あさみすみとうせん)・松平太郎氏のお名前が載る。松平氏の多幸ゆかし。名古屋は翌十四日小出。後日松氏は先代団十郎氏と小学校が同じであったと告げられた。

「日曜美術館」(岡氏、NHK、五・二六)でも紹介。美し。放送。九月。六日、佐渡の新能。佐渡と能のつながり。鷲流狂言。佐渡能、能山崎の三本立てがひしめき合っており、山崎は後半の時間しか割り当てられず、而もシテの本間英孝氏のことには佐渡の本間家を強調のあまり宝生流であることは二の次々の感あり、これは筆者の誤りか。NHK(以下同じ)。

と別号に。宝生流のななし。改訂版。わんや編輯部著。六十・八月。項に東海北陸の方々紹介。また編本の項に寛政版編本(高砂)の冒頭(写真版)が載る。年表貴重昭和六十・五月、家元英孝氏日本能楽会々長に就任まで)。能謡百問百答(藤城雅夫、同店)とあわせ読まれることをおすすめする。

60年11月・12月放送予定 (11月) 17日(日) 素謡(銀世流)「碓氷」梅若万三郎ほか 24日(日) 素謡(金剛流)「鏡」金剛 巖ほか (12月) 1日(日) 独吟(宝生流)「江口」はか 近藤乾三 8日(日) 素謡(銀世流)「遊行柳」銀世元昭ほか 15日(日) 素謡(宝生流)「通小町」三川 泉ほか 22日(日) 素謡(銀世流)「錦木」大槻文蔵ほか 29日(日) 番囃子(銀世流)「俊寛」観世寿夫 NHK教育テレビ(午前9時~10時30分) 11月23日(午前9時~10時) 能(金春流)「鉄輪」金春 信高 西村 欽也 12月31日(午前8時~9時30分) 抜く~狂言「釣狐」(再放送)野村耕介 (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

年演

熱田神宮能楽殿創立三十周年を記念して、今春三月、熱田神宮能楽殿運営委員会と能楽協会名古屋

営には私財を投入しての献身的な努力で見事再建、昭和三十九年から始められた大阪能楽養成会の能

の「歳末助け合い運動」の協賛能は十二月一日、熱田神宮能楽殿で能四番、狂言二番はか仕舞の上演。



した舞台も水れ、明までの細い解説。坂部 16-1-1

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

郵字は熱田神宮 森田宮司筆

発 行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

演 能 カ レ ン ダ ー
(熱田神宮能楽殿)

[12月]

22日(日)青陽会別会能 (有料)
29日(日)熱田神宮能楽殿創立30周年記念乱能 (有料) (番組②面)

[昭和61年1月]

3日(金)能楽協会名古屋支部開初式 (能楽協会関係者のみ)
11日(土)名古屋学生能楽連盟学生能 (来場歓迎)
15日(祭)清鎮会・風韻会合同能 (来場歓迎) (番組③面)
26日(日)青陽会能 (有料)

[2月]

2日(日)宝生会定式能 (有料)
9日(日)観世会定式能 (有料)
16日(日)名古屋九条会定式能 (有料)
23日(日)春 蔵 会 (来場歓迎)

[3月]

1日(土)能と狂言に親しむ会 (有料)
9日(日)大蔵狂言会 (来場歓迎)
16日(日)名古屋梅猶会能 (有料)
21日(祭)日本能楽会公演 (有料)
22日(土)松 月 会 能 (来場歓迎)
30日(日)洗心会・華心会 (来場歓迎)

[4月]

5日(土)青陽会定期能 (有料)
6日(日)幸 福 会 能 (来場歓迎)
13日(日)観世会定式能 (有料)
19日(土)名古屋梅猶会 (来場歓迎)
20日(日)邦 楽 会 能 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了解下さい)

観世流
シテ方

大槻秀夫氏の栄誉
勲五等双光旭日章受章

秋の叙勲で、観世流シテ方・大槻秀夫氏が勲五等双光旭日章を受章された。
大槻秀夫氏は、明治四十一年九月三十日生れ、父大槻十三氏に薫陶を受け、昭和七年初シテ「小袖曾我」。昭和三十六年「遊行柳」で大阪市文化祭賞、四十四年「定家」四十八年「娘捨」で大阪芸術祭金賞、昭和五十一年「遊行柳」...

熱田神宮能楽殿30周年
祝賀乱能公演

12月29日・熱田能楽殿で

熱田神宮能楽殿創立三十周年を記念して、今春三月、熱田神宮能楽殿運営委員会と能楽協会名古屋支部の主催で、「記念能」が催されたが、祝賀企画の一環として、きたる十二月二十九日(日)熱田神宮能楽殿で「記念乱能」が催される。同能楽殿での乱能公演は、昭和五十七年の開催以来三年ぶりである。
番組は、能「安宅」「蟬丸」「乱」狂言「茶室」「三人片輪」「六地蔵」はじめ囃子、仕舞、小舞、狂言語など。囃子方のシテ、ワキ方の狂言、シテ方の囃子など役々を入れ替っての組み合わせの妙が期待される。
(番組②面)入場料千五百円。

観世流「三山」
の復曲公演

観世流では、このほど廢曲になっていた「三山」(みつやま)を復曲、現行曲に加えることになった。
「三山」は万葉の女のしつと狂乱を謡曲にしたもので、世阿弥作といわれ、宝生流、金剛流では現行曲となっている。
この復曲公演は、十二月十三日東京、宝生能楽堂でシテ観世流の丞師により上演された。
なお新春一月五日、NHK・FM能楽鑑賞で放送される。
歳末助け合い運動
「協賛能」盛会
12月1日 熱田能楽殿で
能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)主催による昭和六十年年度...

61年度 青陽会定期能
年4回、予定番組決まる

青陽会の昭和六十一年度(第三十期)の演能は、一月二十六日を初回として、四回行われる。
第一回 一月二十六日(日)
松山 幸親
久田 徹二
源氏供養 前野 都子
近藤 幸江
第二回 四月五日(土)
中川 雅章
田 村 安藤 勝朗
小島 一英
和合
鞍馬天狗 祖父江修一
第三回 七月二十七日(日)
四月五日(土)
田村 八木 康夫
替装束
警願寺 山本 順之
(研)能風 山 河村 信重
五月二十四日(土)
通小町 山本 勝一
雨夜之伝
松 風 波多野 晋
春日竜神 山本 真賀
(舞囃子) 米女 定花虫
河村 山本 真賀
山本 真賀
瀬本 澄子
(研)能胡蝶 山本 博通

大阪
山本定期能
61年度上半期演能

大阪
山本定期能楽会の昭和六十一年度上半期演能予定は次のとおりである。
一月五日(日)
宇治田正子
山本 勝一
二月九日(日)
波多野 晋
松浦信一郎
三月廿九日(日)
千崎 隆一
船井慶 山本 真賀
前後之替 山本 博通



中西 通著・今駒清則 写真

数百年を経て、今尚現役の舞台を勤める能面の歴史と造形美を探る!

能 面



能楽資料館館長である著者自らが、蒐集した大名家や能楽諸家旧蔵の能面を中心に、舞台効果の優れているものは勿論、工芸的にも水準の高い名作百面を選び、能面に魅せられ、開眼した筆者独特の能面美学で解説。
* 各面を様々な角度から撮影 * 室町初期から江戸中期までの造形の特徴を追求 * 面装の鉤目や焼印、漆書きの記録など細部にわたり収録 * 彫刻・彩色の特徴など技術を中心に解説。

玉川大学出版部
〒194 町田市玉川学園6-1-1
☎0427-28-3213

●B4判●オフセット多色刷208頁●解説など76頁●布貼り厚表紙ケース入 定価25,000円

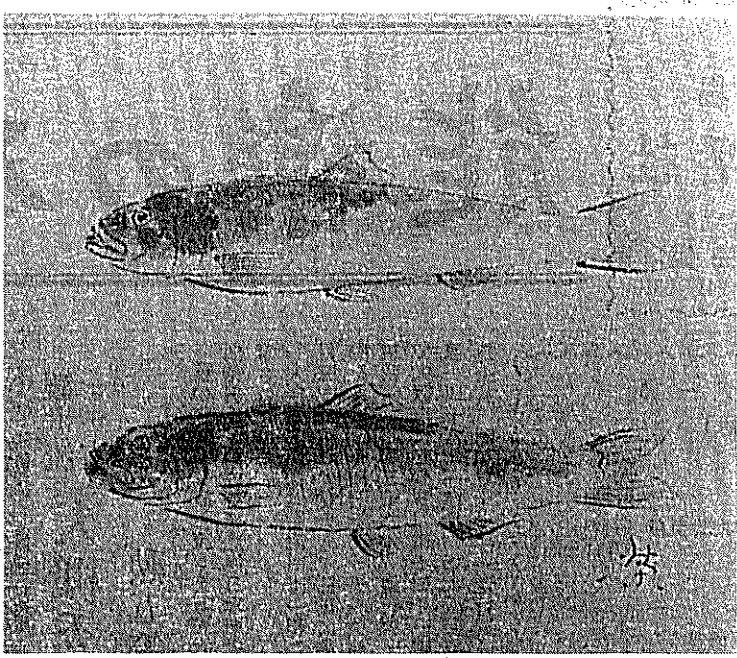
たはら...
くになる。照明効果でホリゾントは淡い萌黄色に変わった。さて舞囃子
かも...
生えるものやらを知らぬ迂闊。山中さ迷う中に足元ついでに、滑
お調べは無く(あるのであろうが聞えない)、囃子方は常の地謡座の前列に笛・小・大・太の順に、
のま...
(1時間9分)舞台装置の他、照明やドライアイスは当然のことながら意図を
十二月...
十二月一日、熱田神宮能楽殿で
協賛能は今回が第十七回目。能楽愛好者の協力で能楽師の奉仕により、毎年県、市寄付が行われて
いる。
演能は、宝生流能「巴」(シテ戸田和)、和泉流狂言「文山殿」(佐藤融、佐藤友彦)、観世流能「巻綱」(シテ中川雅章)、金春、観世流の仕舞、観世流能「芦刈」(シテ加賀敏彦)、狂言「太刀奪」(野村信之)、金剛流仕舞「清経」(吉川周子)最後には喜多流能「野守」(シテ長田健)を上演。
協会主催による今年の追尾をかざる演能として盛会であった。

五月雅日記

或る存在感

えと文 二井 栄 逸

わが家の浴室のドアは恰好のカーンバスになっていて、パツパツで色々な動物や人物が、影絵のよ



うに登場してくる。私は、体温位の湯がすきなので相当長湯になる。毎日頭までつかって、影絵を見たりしていると、何だか自分が水棲動物にでもなったような気がする。今朝の浴室のガラスのドアには、鮮やかじきの大魚が遊泳しているように見えた。水滴が降り出す絵は、刻々と形をかえ、色々なものに変身してゆく。

昨夜、シャガールの画集を見ていたので、魚のモチーフに見えたのかも知れない。エコール・ド・パリの異色であったシャガールの絵には神話的な作品が多い。エコール・ド・パリは、フランスの画派の一つで、一九二五年頃作られた呼称で、パリに在住した外国の画家や彫刻家を指している。日本の藤田嗣治(ふじたつぐはる)もその中の一人であった。シャガールの絵には魚のモチーフが多い。「時は岸辺のない流れ」や、「青いサーカス」の絵にも巨大な魚が飛行している。その魚は手や翼をもっている。古代の哲学者や、科学者の考えによれば、すべての生の起源は水であり、魚は生命源のシンボルであったのだという。ロシア生れのシャガールは、「時は岸辺のない流れ」の作品の中に、恐ろしい運命の時間の流れを暗示し、世界大戦の悲劇の予感をさえ感ぜしめた。私は能をモチーフとして絵をかきつけてきた。能の超時間性は永遠にむかえて、あてもない旅をつづけるような気もしてくる。しかし、常に、あの世とゆきする能の中には、生死を超えた永遠性の何かが存在し得よう。武蔵野美術大を出て、インドに四年間滞在してから、インドの女ばかりを描きつけている女流作家田村能里子の手記を読んだことがある。

各地だより

初春一月15日

神戸新春能

神戸文化ホールで

神戸新春能は、一月十五日(祝)神戸文化ホール(中)特設能舞台で開催される。
観世流能「屋島」(小書大事)シテ吉井順一、ツレ洪井義寿、ウキ江崎正左衛門。
観世流能「半蔵」(小書立花供養)シテ観世元正、ウキ福王茂十郎。
大流流能「清水」茂山千之丞

茂山真吾。観世流能「留月」シテ藤井徳三、ツレ上田貴弘、子方藤井文雄、ウキ中村三郎。
仕舞「白楽天」井上嘉久「雲林院」藤井久雄「願」笠田稔「阿漕」山本真賢「熊坂」観世清和ほか。
主催、神戸市、神戸市民文化センター、神戸市文化ホール、後援能楽協会神戸支部。
入場料・前売一階五千円、二階三千円、学生千五百円、当日売一階五千五百円、二階三千五百円、学生千七百円。
お問い合わせは神戸文化ホール事業課(〇七八)三五一一三五三番。

第50回 壺泉会能

1月5日 大槻能楽堂で

壺泉会(泉嘉夫師主宰)は、新春一月五日(日)大槻能楽堂で第五十回「壺泉会能」を開催する。

能「実盛」(シテ泉嘉夫、ウキ福王茂十郎、笛・野口治和、小鼓・久田舜一郎、大鼓・山本孝、太鼓・三島太郎、間・茂山千之丞、後見・大槻秀夫ほか、地謡・大槻文蔵、笠田稔ほか)
お上演能に先立ち、法政大学能楽研究所の代表的立場にある法政大学教授・表章氏による「謡曲詞章の変遷」をテーマとした講演が行われる。午後二時開演。

金沢能楽会

1月15日 昭和61年初会

金沢能楽会の明年初会は一月十五日(祝)石川県立能楽堂で午後一時から開催される。素謡・翁服部恒男、大西隆二で寿き、能・熊野(シテ金澤孝介、ツレ鶴見秀)小鍛冶白頭(前シテ生英雄、後シテ佐野正治)および狂言・室の道が上演される。

熱田神宮能楽殿 創立三十周年記念 祝賀乱能

十二月二十九日(日)午前十一時始

茶壺	吉川 周子 前野 郁子 今沢 美和 後見 服部 紗枝 吉田 妙
竹生島	佐藤 友彦 高橋 謙一 高木美智子 安藤 勝朝 服部 紗枝 鬼頭 好信 野村 定男 大野 弘三
安宅	藤田 六郎兵衛 久田 敬二 中川 雅章
高砂	飯富 雅介 盛ヶ七 井上礼之助 衣ヶ野 大野 弘之 地謡 河村真之介 後藤 嘉津幸
羽衣	鬼頭 好信 吉田 定男 野村 又三郎 後藤 孝一郎
岩船	鬼頭 好信 吉田 定男 野村 又三郎 後藤 孝一郎
弱法師	野村 又三郎 祖父江 修一 西村 敏也 前野 郁子
丸	井上松次郎 佐藤 友彦 近藤 幸江 武田 邦弘 加藤 正嗣
蝉	後見 杉江 元 前野 茂徳 河村真之介 藤田 六郎兵衛 野村 又三郎

胡蝶 柳原富司忠 吉田 俊彦 戸田 泰二 内藤 好和 鬼頭 好信 池田 茂

石川 藤五郎 高木美智子 近藤 幸江 龍沢 実子 今沢 美和 福井啓次郎 後見 福井 良治

三人片輪 梅田 邦久 小島 一英 久田 敬二 武田 邦弘 後見 加藤 保彦 山口 義郎

六地藏 西村 敏也 高橋 謙一 須藤 幸親 加賀 敏彦 後見 祖父江 修一 清沢 一政 梅田 邦久 中村 富次

乱 鬼頭 喜太郎 清沢 一政 梅田 邦久 吉川 周子 中村 富次 後見 福井 良久 地謡 鬼頭 好信 佐藤 友彦 鬼頭 好信 (終了予定 五時半頃)

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部 後援 熱田神宮能楽殿運営委員会 中部 能楽師会

入場料 一、五〇〇円(全館自由席) 前売券 各出演者宅 お問い合わせ 熱田神宮能楽殿 (六七)二九二二

第30回 学生能と狂言の会 昭和六十一年一月十一日(土) 午前九時始

熱田 神宮 能楽 殿 主催 名古屋学生能楽連盟 (名大、南山、金城、岐女短)

富士太鼓 石黒 操子 鬼頭 英二 藤田 六郎兵衛

風清韻会合同能

鬼頭 英二 藤田 六郎兵衛

シテ観世元正、ワキ福王茂十郎。大藏流狂言「清水」茂山千之丞。申楽謡(〇七八)三五二一三五三。章の愛選」をテーマとした講演が行われる。午後二時開演。

謡曲名所めぐり

大原 寂光院を訪ねる

能楽の友社では、恒例の謡曲名所めぐり旅行を去る十一月十七日に実施、洛北の大原の里などを訪ねました。今年、源平壇ノ浦合戦八百周年にちなみ、建礼門院ゆかりの大原寂光院を訪ねる。当日は五十五名が参加、午前八時愛知文化講堂前を出発、車中にて「敦盛」「大原御幸」を同吟しながら、名神ハイウェイ大津インターチェンジから琵琶湖畔を経て比叡山ドライブコースを通り、北白川から敦賀街道を北上、八瀬を経て午前十一時四十分、大原の里に到着。旅荘「茶谷」にて鍋料理の昼食をたのしみました。少憩ののち、草生の里「寂光院」



に参詣、とくに小松御門主のはかりにより、建礼門院ご廟室跡の案内と説明をうけ、さらに阿波内侍らの墓所に詣り、また建礼門院御廟に参拝しました。その後、紅葉を迎えようとする三院にそれぞれ参詣、大原の里の秋の一日を過ごしました。一行は午後三時半大原を出発、東山の東大谷の北隣にある長楽寺に至り、建礼門院ゆかりの寺宝を拝観、夕陽に輝く阿波公園をあとに午後五時出発、京都東インターから名神ハイウェイに入り、車中にて「清経」「二人静」を同吟しながら午後七時半すぎ帰りました。今回は寂光院にて特別のご配慮を頂きましたことも能楽愛好の旅行ならではのことに紙上をかりて厚くお礼申し上げます。また岐阜、木曾福島などからもご参加も得て皆様のご協力を頂きましたことを感謝致します。(加野記)

観能 独語

狂言の父と子

微妙な問題の数々

このごろ狂言の世界で父子共演のケースが多いようです。子といっても少年の場合で、大人の父子は別問題です。少年は子供です。変声期以前の事例は、身体も小さく、声も黄色い。それが大人と一緒に舞台上で活動すると、何かにつけて違和感が生じるのは当然です。子供なら子供だけでやるのがいいでしょう。いつでしかか子供だけの狂言を見て、大変面白かったことを覚えています。子供が大人の演技を真似ているのを見ると、本人が一所懸命になればなるほど、痛々しい感じがします。もっとも子供は無邪気で可愛いものですから「まあ、かわいい」と喜ぶ向きもありません。狂言にも「狸」「伊呂波」「魚説法」「重喜」など、子供向きに

出来た演目がいくつもあり、ある種の山伏ものなどは、子供がやるのも面白いですが、あくまで単純で初歩的な演目に限られるようです。子供の共演も、その範囲に止めておくべきではない。おっぴろげに「まあ、かわいい」ですむので、子供はだんだん大きくなる。大きくなるにつれて、修練のためにも、ボツボツ大人の役もというのも無理はありません。ただ成長度とボツボツの兼ね合いがむづかしい。

子供の出演で気になるのは父子共演の場合です。父子の愛情は誰しもわかり過ぎるほどわかっていて、見所はとかく先入感にとらわれがちです。二人の演技に妥協はないか、父が子の可愛いさ

に負けて舞台が甘くなりはないか、これなどは見所の多くを抱く懸念です。演者の側では、そんなことは絶対ないと云われるかも知れないが、相手は子供。気力、気迫などを合せて演技力一般の未熟不十分は当然過ぎること、それをカバーしようとして親ごころがちょっとでも顔を出すと、見所の目には「それみたことか」ということになりかねない。

和泉元秀氏の著書を見て、少年期に子供にはかなり無理と思える役を次々と演らされた経験が述べられていますが、それが家元修業という特別のケースだとしてもそこにはあくまで「演者の論理」はあって「見所の論理」はない。演者の側からは、たとえちょっとぐらゐり不消化な舞台を見せることがあっても、それは修業上の必要悪として見のがしてもらいたい。いかも知れませんが、見せられる側がそれを甘受しなければならぬ理由はない。必要があるうとなか

風韻会合同能

昭和六十一年一月十五日(祭)十時始
熱田神宮能楽殿

神歌 山田 欣也
千才 福間 克彦
水谷 雅三
吉田 定男
藤田 六郎兵衛

草子洗小町 水谷よしよ
阿部 タマ
田中 圭子
柴田 文子
志方 中子
志津 春子
島津 純子
武田 上子

仕之段 谷口 寛子
坪内 道子
奥田 薫子
梅原 貴子
福間 克彦
高田 幸子
近藤 幸子
高田 幸子

野守 福間 克彦
野宮 福間 克彦
半宮 福間 克彦
野宮 福間 克彦

駒之段 日比野 逸子
船橋 澄子
平岩 昌子
高木 あき子
鈴木 芳子

弱法師 緒方 陽子
(タリ、サシ、クセ、省く)
伊藤 あり子
山口 菊枝子
毛田 菊枝子
戸田 菊枝子
小笠原 初恵子
富田 貞子
服部 誠子
水野 相子

俊寛 小川 貞三
高橋 宗司
加野 昭二
伊藤 愛子
北原 良一郎
高田 武雄
浮貝 鋼一

阿漕 日比大 吉郎
福井 啓次郎

波 業 福井 啓次郎

道成寺 金丸 洋子
泉 泰孝
吉藤 信隆
佐藤 友彦
殿本 正人
大槻 修二
大槻 秀夫
水原 元三

主催 名古屋学生能楽連盟
(愛大、榊山、金城、岐大、愛教大)
名大、南山、県大、愛教大

巻

富士太鼓 石黒 操子
後藤 孝一郎
藤田 六郎兵衛
松虫 奥村 久枝
吉田 定男
柳原 富司
百万 林 喜久子
鬼頭 孝一郎
鬼頭 孝一郎
後藤 孝一郎
後藤 孝一郎
船弁慶 伊藤 敏子
鬼頭 孝一郎
後藤 孝一郎
後藤 孝一郎

班能

御牧紀代 西村 敏也
飯富 雅介
福井 啓次郎
森本 重一
高砂 山田 欣也
後見 大槻 秀夫
大槻 秀夫
後見 大槻 秀夫
大槻 秀夫

昆布売

井上松次郎 井上礼之助
大槻 秀夫
大槻 文蔵
赤松 慎友
水田 博
赤松 慎友
赤松 慎友

御来場歓迎

後援 毎日新聞社会
主催 清韻会
主権 風韻会
後援 毎日新聞社会

